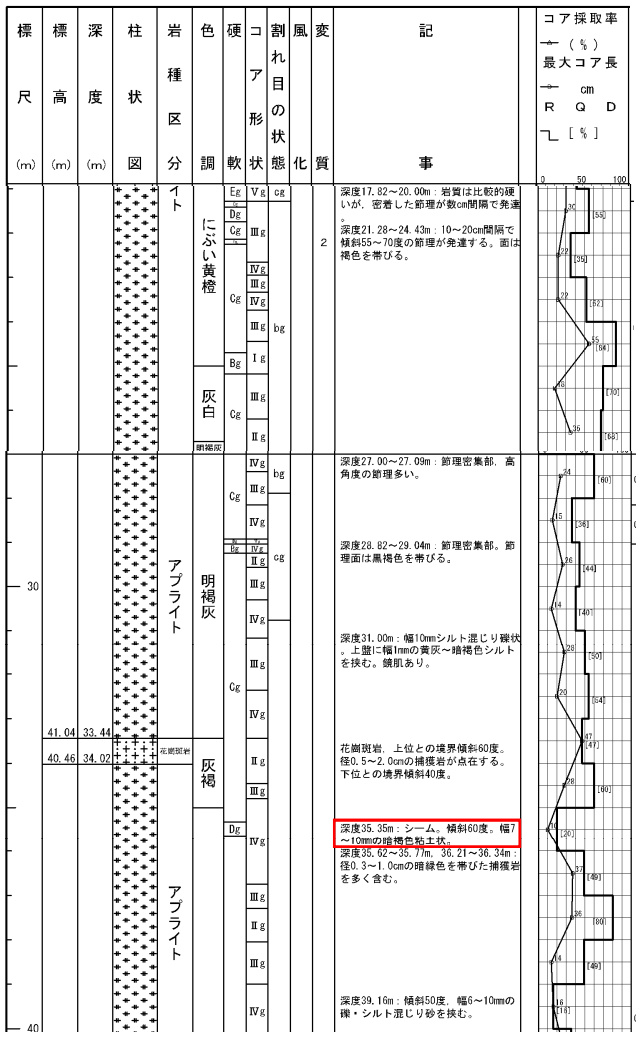
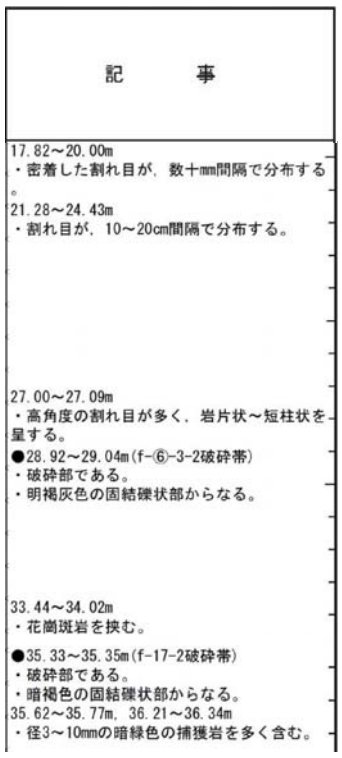
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No16孔 深度35.35m）

・同系統の割れ目に挟まれた区間に粒子の定向配列が認められることから，破砕部として認定した。
　大半の区間は固結しており，下端面の粘土状部は連続性に乏しいことから，カタクレーサイトであると判断した（平成20年破砕部再観察結果）。

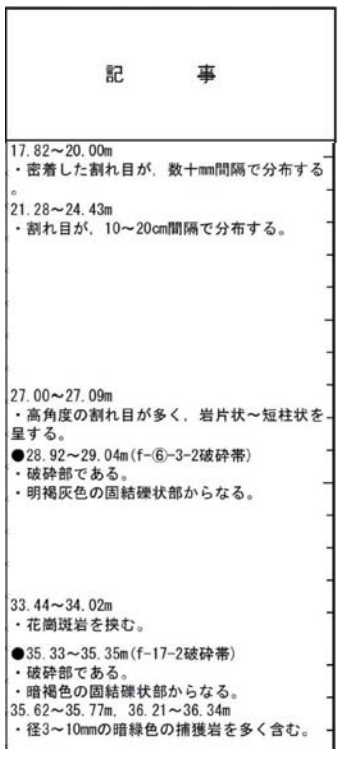
委託報告書
（平成19年）



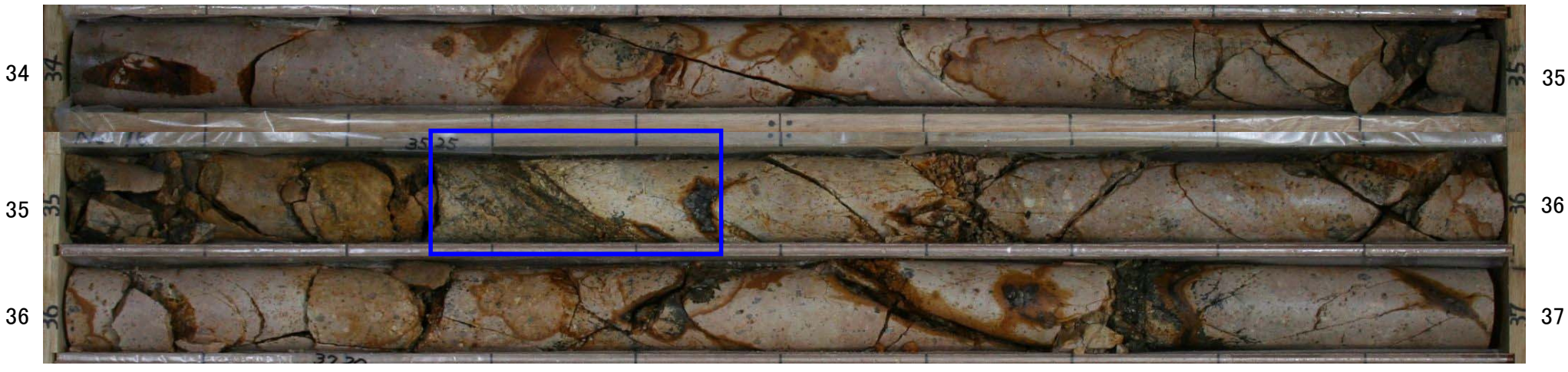
審査資料案

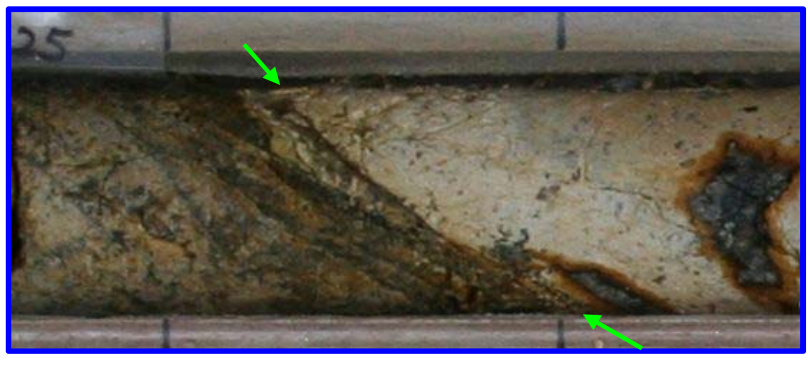


審査資料
（平成29年12月22日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度35.35m：シーム。傾斜60度。幅7～10mmの暗褐色粘土状。	●35.33～35.35m（f-17-2破砕帯） ・破砕部である。 ・暗褐色の固結礫状部からなる。	●35.33～35.35m（f-17-2破砕帯） ・破砕部である。 ・暗褐色の固結礫状部からなる。





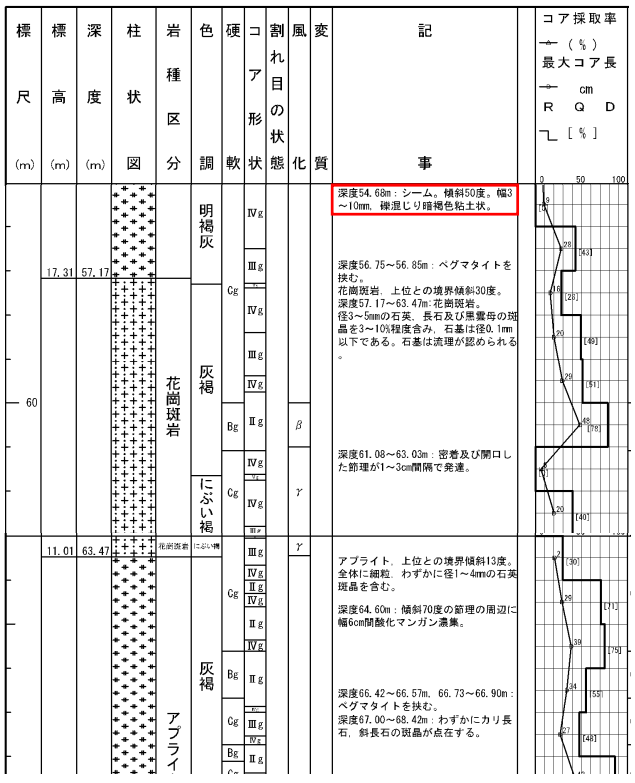
凡 例
:シーム

0　5 cm

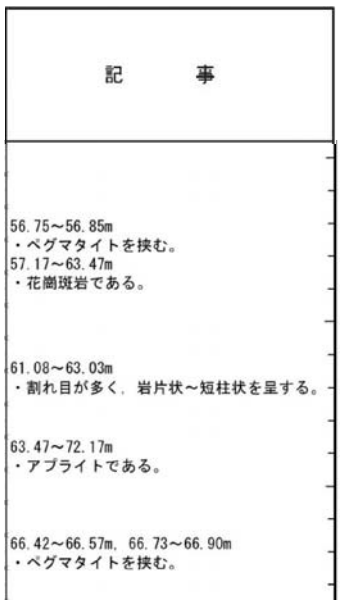
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.16孔 深度54.68m）

・礫混じり粘土状を呈するが，礫に定向配列は認められないことから，破砕部ではないと判断した。

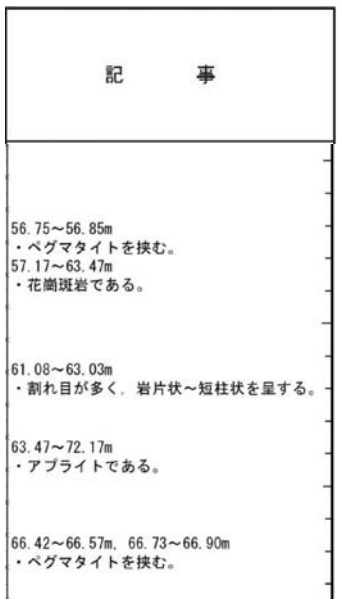
委託報告書
（平成19年）



審査資料案



審査資料
（平成29年12月22日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度54.68m：シーム。傾斜50度。幅3～10mm，礫混じり暗褐色粘土状。	記載なし	記載なし

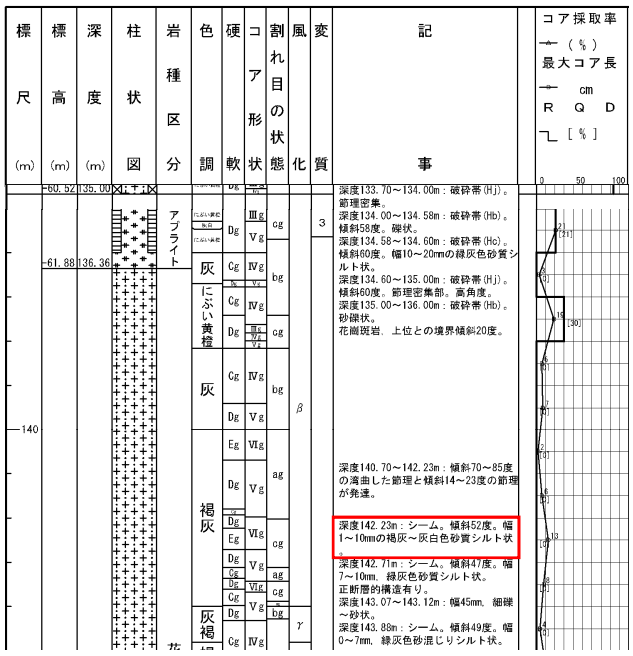
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.16孔 深度142.23m）

・シルト状を呈するが，その分布は途切れており連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
●133.70～136.00m ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm 135.00～136.63m ・アプライトを挟む。 136.00～149.00m ・割れ目が多く，土砂～岩片状を呈する。 136.36～154.63m ・花崗斑岩である。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
●133.70～136.00m ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm 135.00～136.63m ・アプライトを挟む。 136.00～149.00m ・割れ目が多く，土砂～岩片状を呈する。 136.36～154.63m ・花崗斑岩である。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度142.23m：シーム。傾斜52度。幅1～10mmの褐灰～灰白色砂質シルト状。	記載なし	記載なし

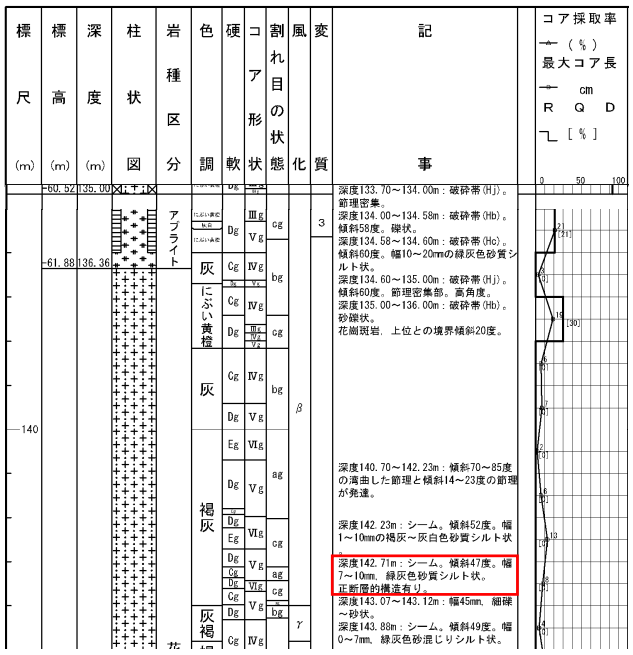
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.16孔 深度142.71m）

・シルト状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記　事
●133.70～136.00m ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm 135.00～136.63m ・アプライトを挟む。 136.00～149.00m ・割れ目が多く，土砂～岩片状を呈する。 136.36～154.63m ・花崗斑岩である。

審査資料
（平成29年12月22日）

記　事
●133.70～136.00m ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm 135.00～136.63m ・アプライトを挟む。 136.00～149.00m ・割れ目が多く，土砂～岩片状を呈する。 136.36～154.63m ・花崗斑岩である。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度142.71m：シーム。傾斜47度。幅7～10mm，緑灰色砂質シルト状。正断層的構造有り。	記載なし	記載なし

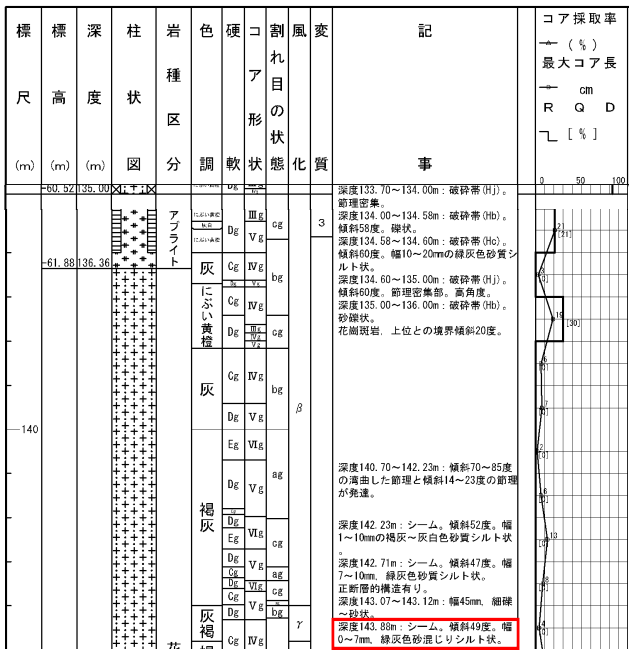
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.16孔 深度143.88m）

・シルト状を呈するが，その分布は屈曲し直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記　事
●133.70～136.00m ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm 135.00～136.63m ・アプライトを挟む。 136.00～149.00m ・割れ目が多く，土砂～岩片状を呈する。 136.36～154.63m ・花崗斑岩である。

審査資料
（平成29年12月22日）

記　事
●133.70～136.00m ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm 135.00～136.63m ・アプライトを挟む。 136.00～149.00m ・割れ目が多く，土砂～岩片状を呈する。 136.36～154.63m ・花崗斑岩である。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度143.88m：シーム。傾斜49度。幅0～7mm，緑灰色砂混じりシルト状。	記載なし	記載なし

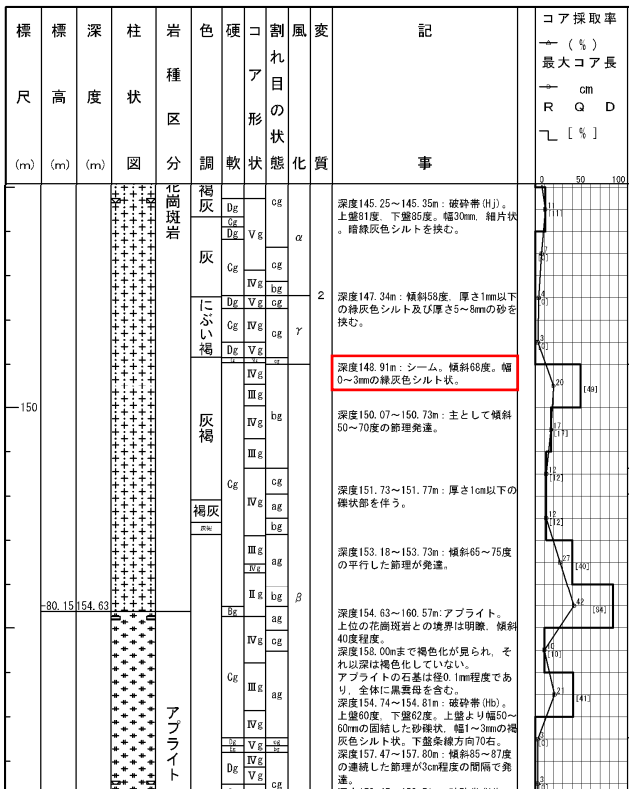
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度148.91m)

・周囲の岩盤にシームと同系統の割れ目が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
●145.25～145.35m ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は81°，下端境界の傾斜は85°である。
153.18～153.73m ・平行した割れ目が分布する。
154.63～160.57m ・アプライトである。 ・158.00mまで褐色化している。
●154.74～154.81m(D-16破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は30°，下端境界の傾斜は62°である。
157.47～157.80m ・連続した割れ目が，3cm程度の間隔で分布する。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
●145.25～145.35m ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は81°，下端境界の傾斜は85°である。
153.18～153.73m ・平行した割れ目が分布する。
154.63～160.57m ・アプライトである。 ・158.00mまで褐色化している。
●154.74～154.81m(D-16破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は30°，下端境界の傾斜は62°である。
157.47～157.80m ・連続した割れ目が，3cm程度の間隔で分布する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度148.91m:シーム。傾斜68度。幅0～3mmの緑灰色シルト状。	記載なし	記載なし

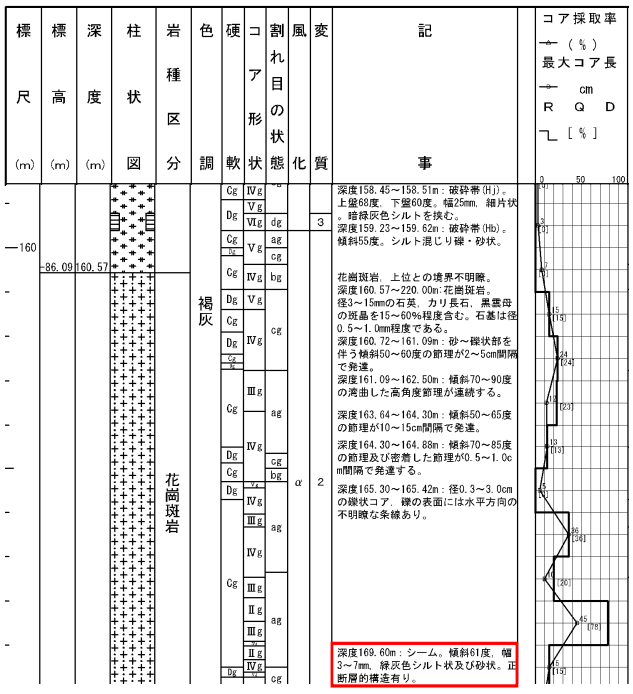
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度169.60m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



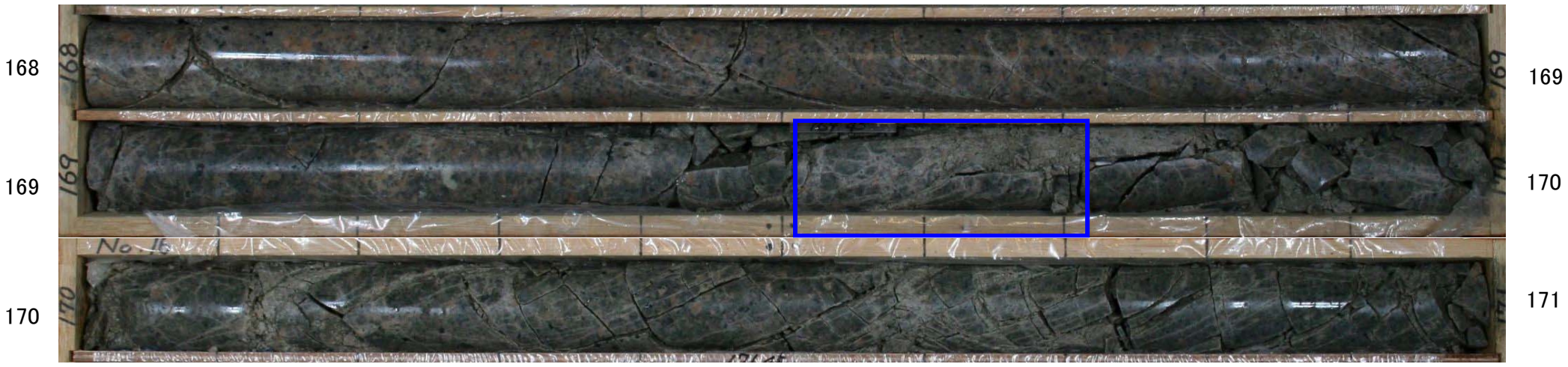
審査資料案

記事
●158.45～158.51m(D-17破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は68°，下端境界の傾斜は60°である。 ●159.23～159.62m(D-18破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は55°である。 160.57～220.00m ・花崗斑岩である。 160.72～161.09m ・割れ目が2～5cm間隔で発達する。 ・割れ目に沿って，砂～礫状を呈する。 161.09～162.50m ・高角度の割れ目が連続する。 163.64～164.30m ・割れ目が10～15cm間隔で分布する。 164.30～164.88m ・割れ目・密着した割れ目が，5～10mm間隔で分布する。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
●158.45～158.51m(D-17破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は68°，下端境界の傾斜は60°である。 ●159.23～159.62m(D-18破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は55°である。 160.57～220.00m ・花崗斑岩である。 160.72～161.09m ・割れ目が2～5cm間隔で発達する。 ・割れ目に沿って，砂～礫状を呈する。 161.09～162.50m ・高角度の割れ目が連続する。 163.64～164.30m ・割れ目が10～15cm間隔で分布する。 164.30～164.88m ・割れ目・密着した割れ目が，5～10mm間隔で分布する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度169.60m：シーム。傾斜61度，幅3～7mm，緑灰色シルト状及び砂状。正断層的構造有り。	記載なし	記載なし



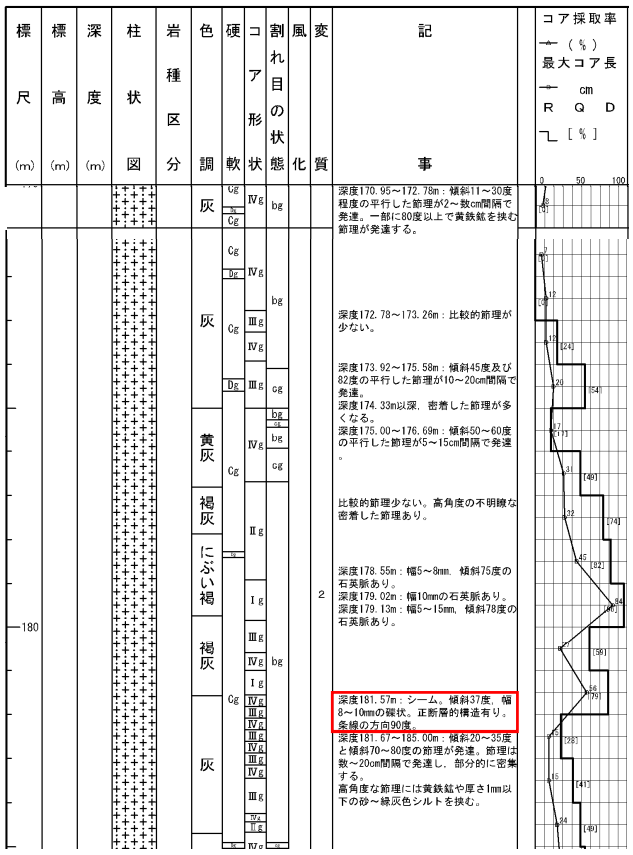
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度181.57m)

・礫状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



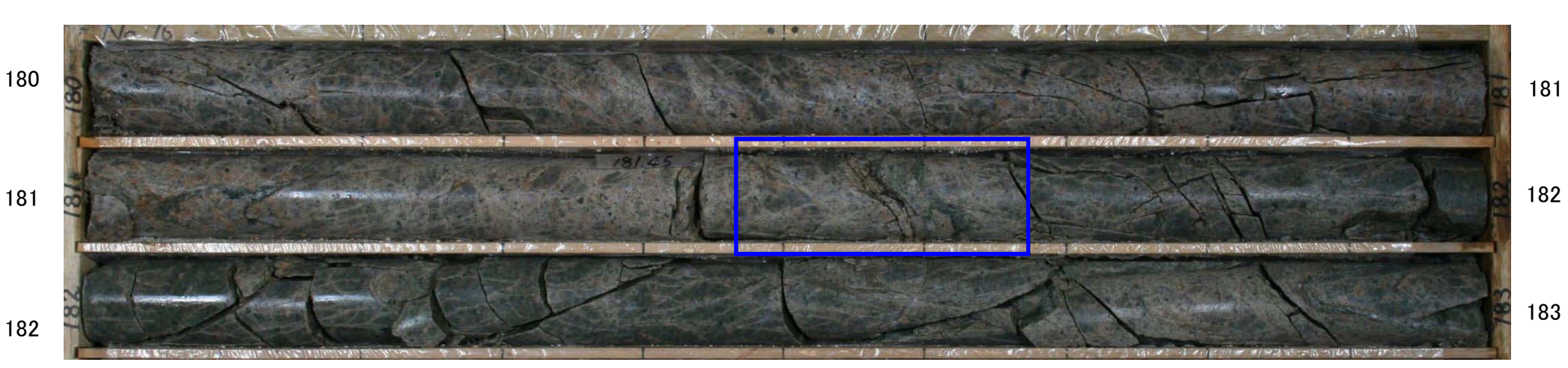
審査資料案

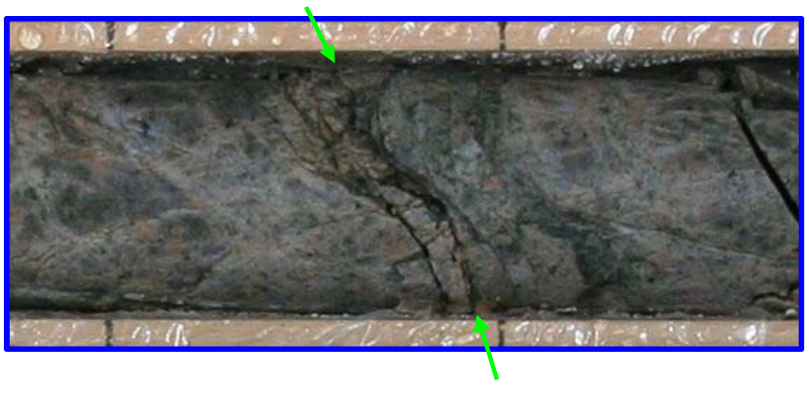
記事
170.95～176.69m ・50～200mm間隔の平行した割れ目が多く分布する。
178.55m，179.02m，179.13m ・幅5～15mmの石英脈を挟む。
181.67～185.00m ・割れ目が，20cm以下の間隔で分布する。 ・高角度の割れ目には，黄鉄鉱や幅1mm以下の砂～緑灰色シルトを挟む。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
170.95～176.69m ・50～200mm間隔の平行した割れ目が多く分布する。
178.55m，179.02m，179.13m ・幅5～15mmの石英脈を挟む。
181.67～185.00m ・割れ目が，20cm以下の間隔で分布する。 ・高角度の割れ目には，黄鉄鉱や幅1mm以下の砂～緑灰色シルトを挟む。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度181.57m：シーム。傾斜37度，幅8～10mmの礫状。正断層的構造有り。条線の方向90度。	記載なし	記載なし





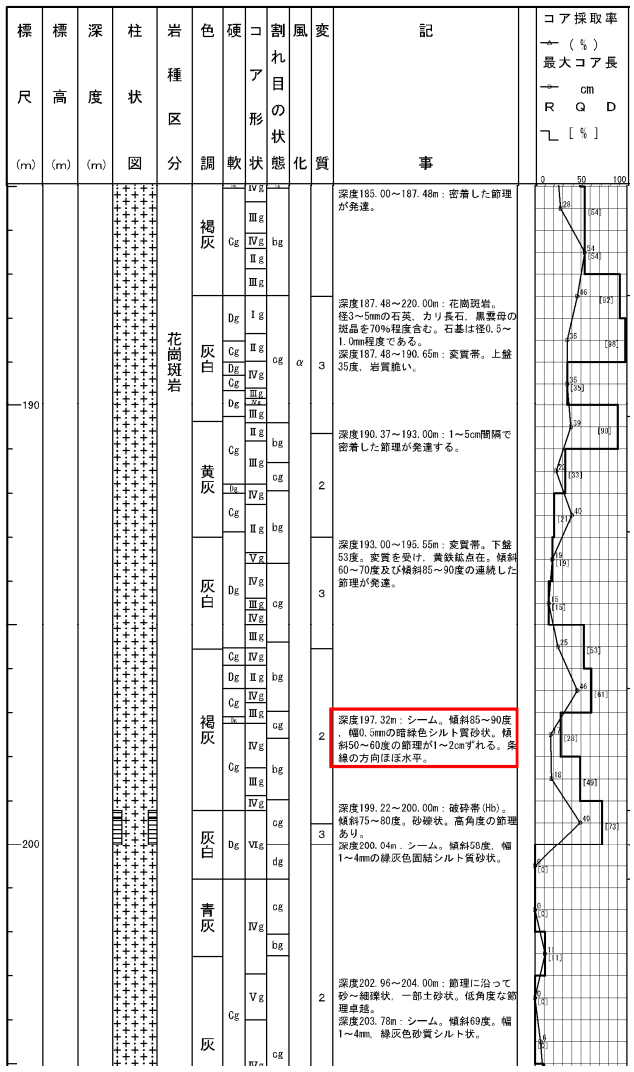
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度197.32m)

・砂状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
185.00～187.48m ・密着した割れ目が分布する。
187.48～220.00m ・花崗斑岩である。 187.48～190.65m ・変質により，軟質化している。
190.37～193.00m ・密着した割れ目が，1～5cm間隔で分布する。
193.00～195.55m ・変質により，軟質化しており，黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。
●199.22～200.00m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75° ～80° である。
202.96～204.00m ・低角度の割れ目が多く，割れ目に沿って砂～細礫状，一部土砂状を呈する。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
185.00～187.48m ・密着した割れ目が分布する。
187.48～220.00m ・花崗斑岩である。 187.48～190.65m ・変質により，軟質化している。
190.37～193.00m ・密着した割れ目が，1～5cm間隔で分布する。
193.00～195.55m ・変質により，軟質化しており，黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。
●199.22～200.00m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75° ～80° である。
202.96～204.00m ・低角度の割れ目が多く，割れ目に沿って砂～細礫状，一部土砂状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度197.32m：シーム。傾斜85～90度，幅0.5mmの暗緑色シルト質砂状。傾斜50～60度の節理が1～2cmずれる。条線の方向ほぼ水平。	記載なし	記載なし

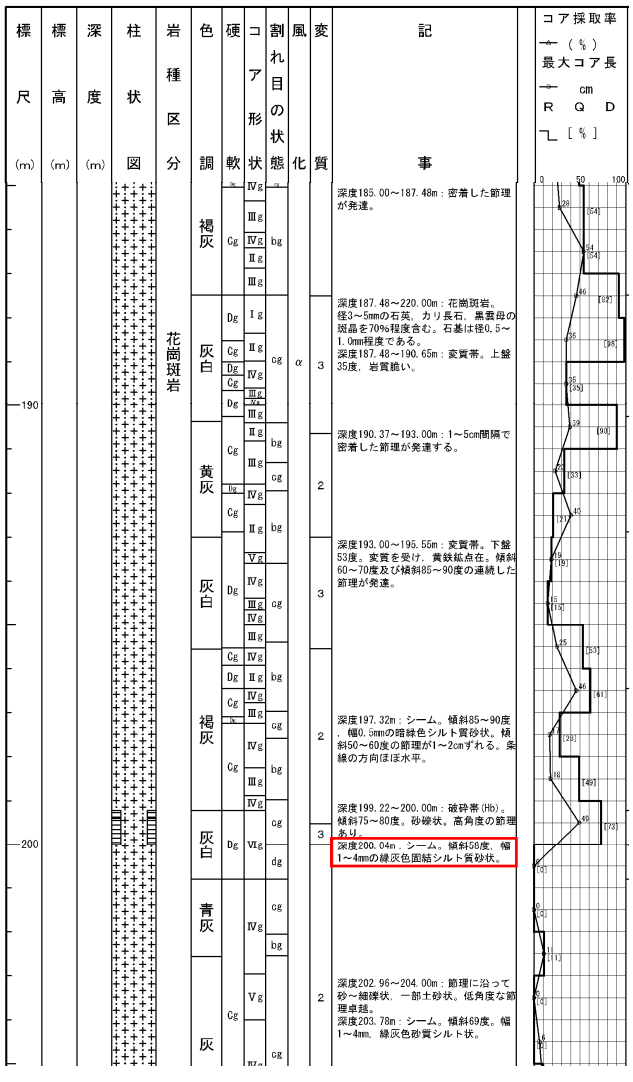
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度200.04m)

・砂状を呈するが，その分布は膨縮し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
185.00～187.48m ・密着した割れ目が分布する。
187.48～220.00m ・花崗斑岩である。 187.48～190.65m ・変質により，軟質化している。
190.37～193.00m ・密着した割れ目が，1～5cm間隔で分布する。
193.00～195.55m ・変質により，軟質化しており，黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。
●199.22～200.00m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°～80°である。
202.96～204.00m ・低角度の割れ目が多く，割れ目に沿って砂～細礫状，一部土砂状を呈する。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
185.00～187.48m ・密着した割れ目が分布する。
187.48～220.00m ・花崗斑岩である。 187.48～190.65m ・変質により，軟質化している。
190.37～193.00m ・密着した割れ目が，1～5cm間隔で分布する。
193.00～195.55m ・変質により，軟質化しており，黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。
●199.22～200.00m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°～80°である。
202.96～204.00m ・低角度の割れ目が多く，割れ目に沿って砂～細礫状，一部土砂状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度200.04m：シーム。傾斜58度，幅1～4mmの緑灰色固結シルト質砂状。	記載なし	記載なし

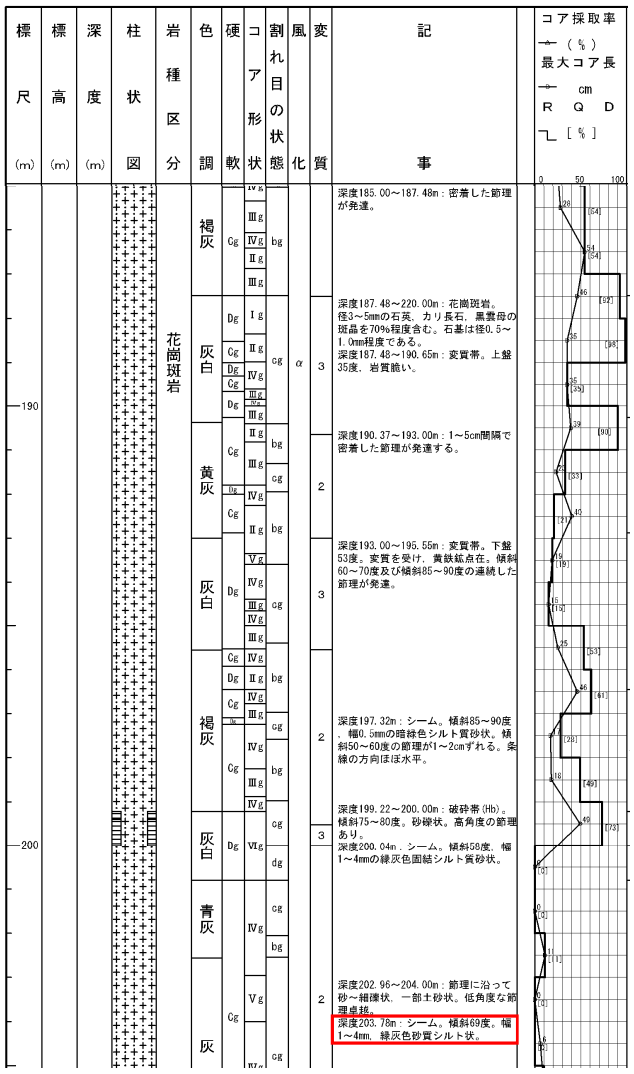
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度203.78m)

・シルト状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，シームと同系統の割れ目が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
185.00～187.48m ・密着した割れ目が分布する。
187.48～220.00m ・花崗斑岩である。 187.48～190.65m ・変質により，軟質化している。
190.37～193.00m ・密着した割れ目が，1～5cm間隔で分布する。
193.00～195.55m ・変質により，軟質化しており，黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。
●199.22～200.00m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°～80°である。
202.96～204.00m ・低角度の割れ目が多く，割れ目に沿って砂～細礫状，一部土砂状を呈する。

審査資料
（平成29年12月22日）

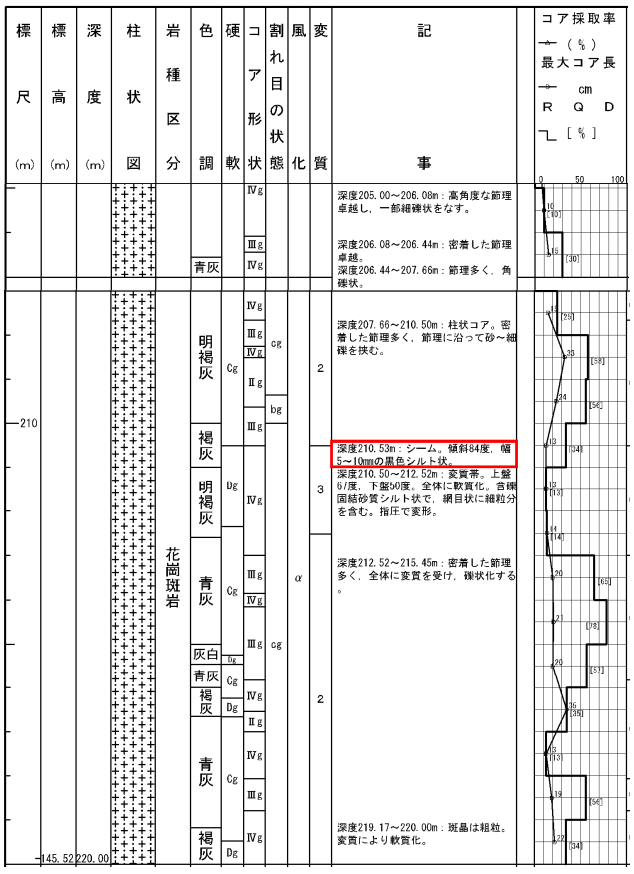
記事
185.00～187.48m ・密着した割れ目が分布する。
187.48～220.00m ・花崗斑岩である。 187.48～190.65m ・変質により，軟質化している。
190.37～193.00m ・密着した割れ目が，1～5cm間隔で分布する。
193.00～195.55m ・変質により，軟質化しており，黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。
●199.22～200.00m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°～80°である。
202.96～204.00m ・低角度の割れ目が多く，割れ目に沿って砂～細礫状，一部土砂状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度203.78m：シーム。傾斜69度。幅1～4mm，緑灰色砂質シルト状。	記載なし	記載なし

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度210.53m)

・比較的幅広い粘土状部が，長く連続し，コアを横断していることから，破砕部として認定した。
　粘土状部の連続性が良いことから，断層ガウジであると判断した（平成20年破砕部再観察結果）。

委託報告書
（平成19年）



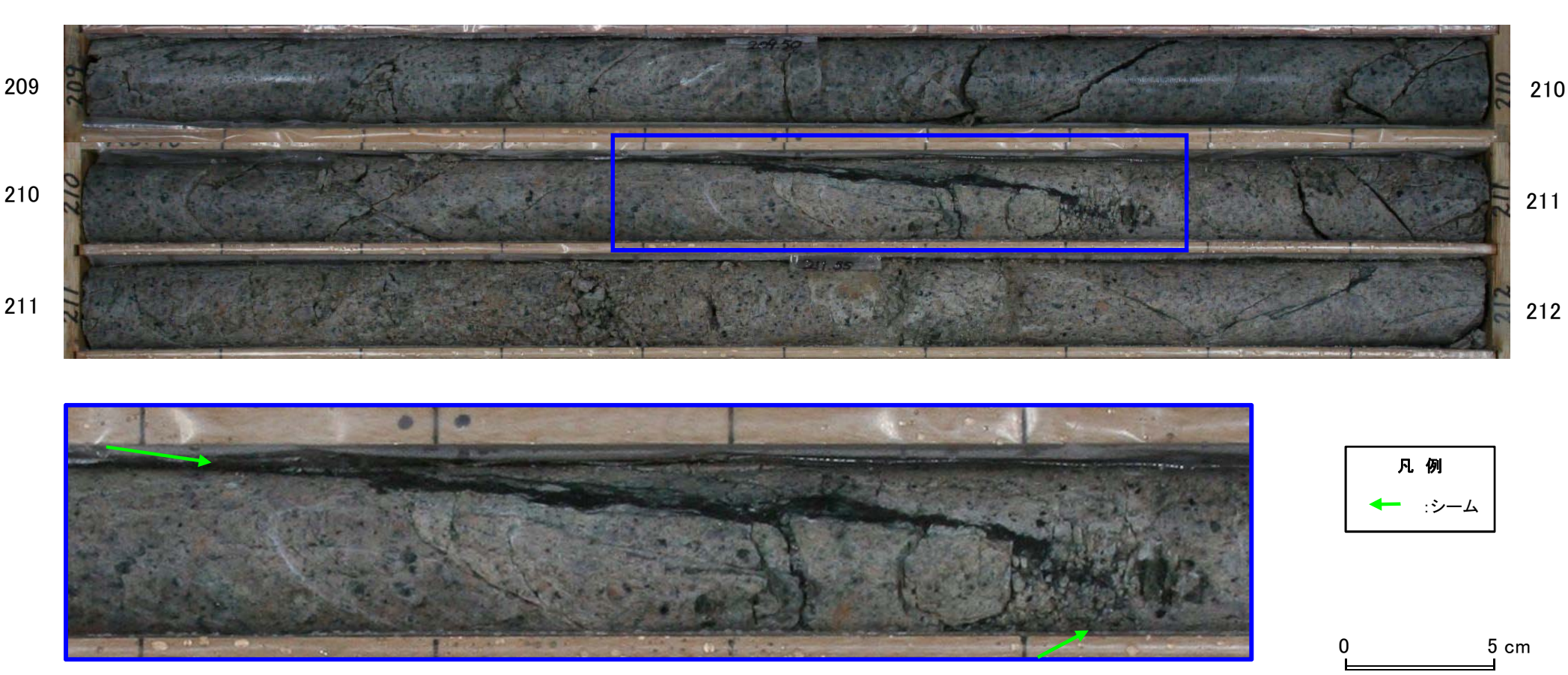
審査資料案

記　事
205.00～206.08m ・高角度の割れ目が多く，一部細礫状を呈する。 206.08～206.44m ・密着した割れ目が多い。 206.44～207.66m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。 207.66～210.50m ・柱状を呈する。 ・密着した割れ目が多く，割れ目に沿って砂～細礫を挟む。
●210.53m ・破砕部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 212.52～215.45m ・密着した割れ目が多い。

審査資料
（平成29年12月22日）

記　事
205.00～206.08m ・高角度の割れ目が多く，一部細礫状を呈する。 206.08～206.44m ・密着した割れ目が多い。 206.44～207.66m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。 207.66～210.50m ・柱状を呈する。 ・密着した割れ目が多く，割れ目に沿って砂～細礫を挟む。
●210.53m ・破砕部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 212.52～215.45m ・密着した割れ目が多い。

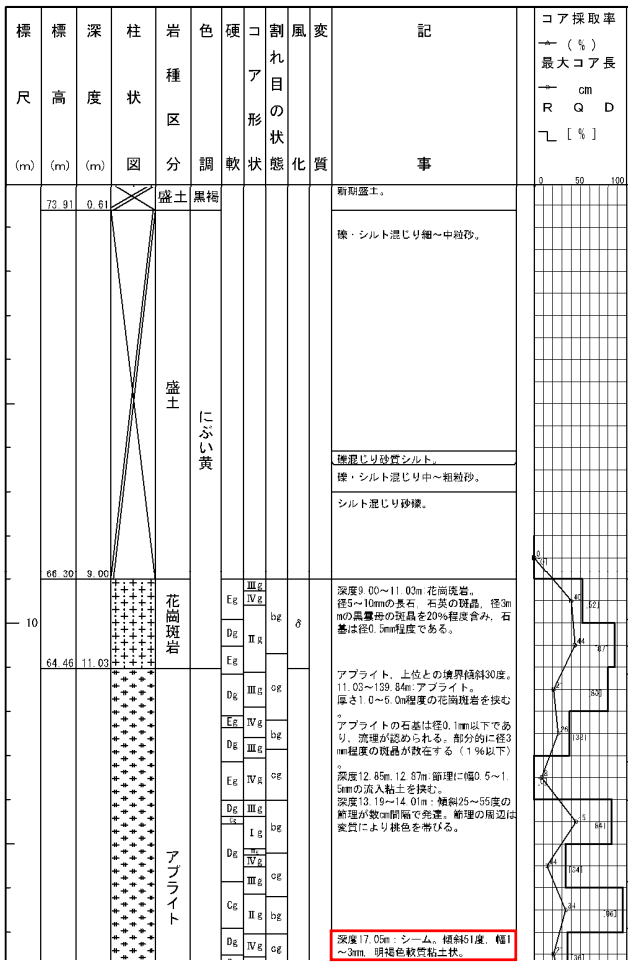
委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度210.53m：シーム。傾斜84度，幅5～10mmの黒色シルト状。	●210.53m ・破砕部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。	●210.53m ・破砕部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。



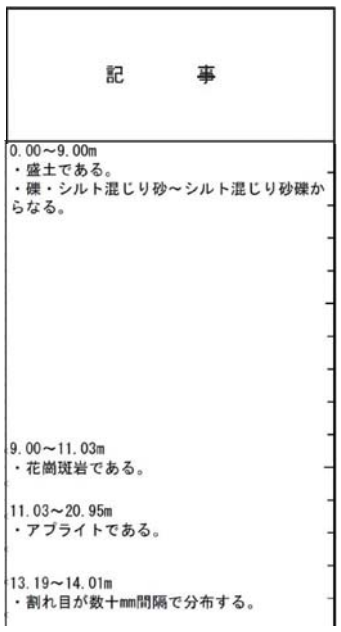
柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度17.05m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

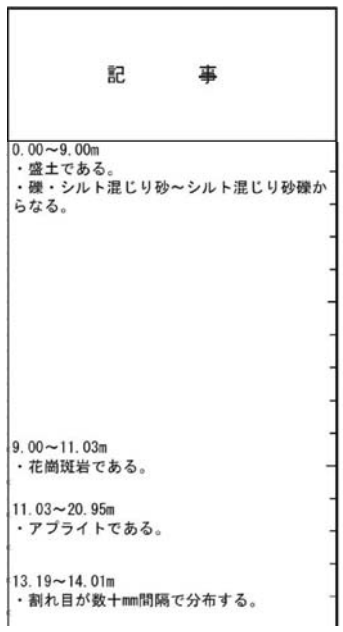
委託報告書
（平成19年）



審査資料案



審査資料
（平成29年12月22日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度17.05m:シーム。傾斜51度，幅1～3mm，明褐色軟質粘土状。	記載なし	記載なし

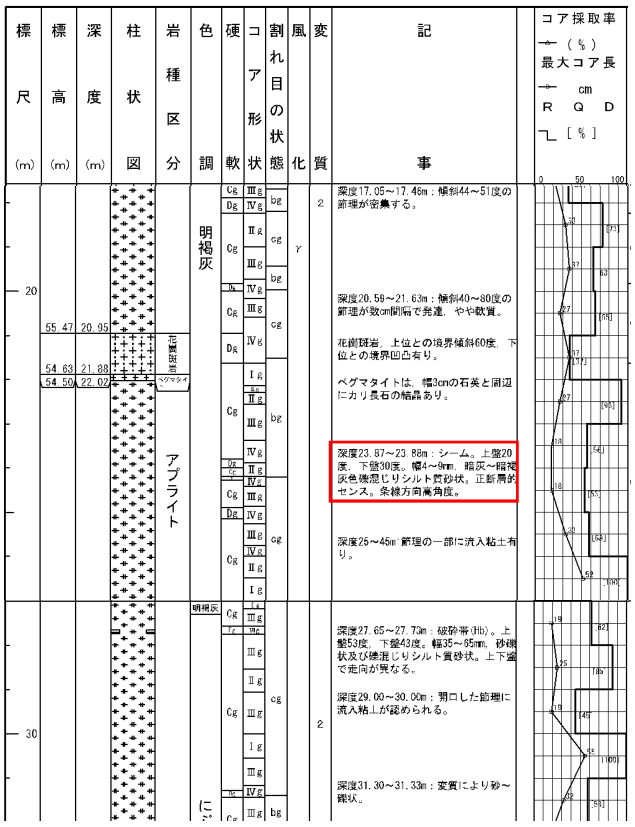
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度23.87～23.88m)

・礫混じりシルト質砂状を呈するが，礫に定向配列は認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

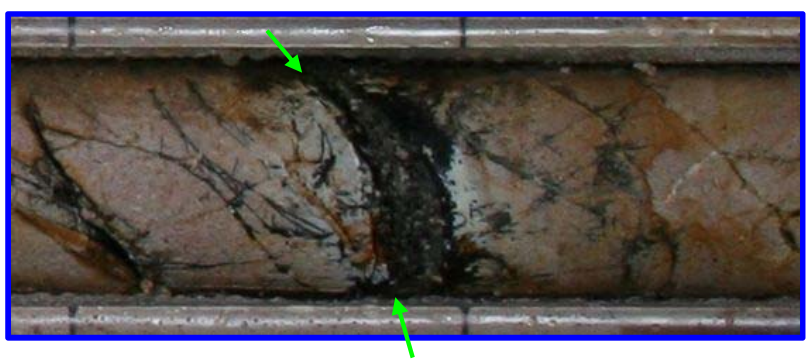
委託報告書
（平成19年）



審査資料案

審査資料
（平成29年12月22日）

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度23.87～23.88m：シーム。上盤20度，下盤30度。幅4～9mm，暗灰～暗褐灰色礫混じりシルト質砂状。正断層的センス。条線方向高角度。	記載なし	記載なし



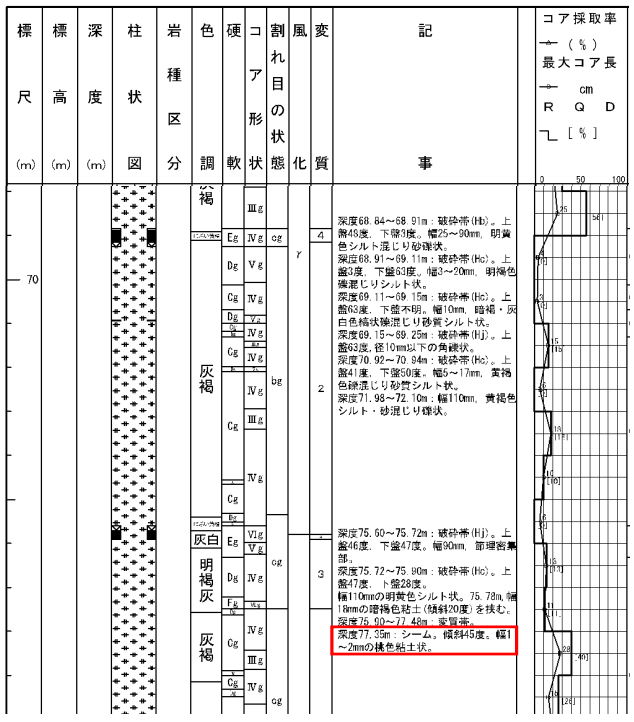
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度77.35m)

・同様の粘土状部が周囲の岩盤の割れ目に沿って網目状に分布していることから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記　事
●68.84～69.25m(D-11破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄色の固結礫状部からなる。 ・明褐色の未固結粘土状部：累計幅2.2cm ・走向・傾斜はN10° E62° Wである。 ・上端境界の傾斜は48° である。 ●70.92～70.94m(D-12破砕帯) ・破砕部である。 ・黄褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.7cmである。 ・走向・傾斜はN18° E53° Wである。 ・上端境界の傾斜は41° ，下端境界の傾斜は50° である。 ●75.60～75.90m(D-14破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm ・走向・傾斜はN14° E77° Wである。 ・上端境界の傾斜は46° ，下端境界の傾斜は28° である。 75.90～77.48m ・変質している。

審査資料
（平成29年12月22日）

記　事
●68.84～69.25m(D-11破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄色の固結礫状部からなる。 ・明褐色の未固結粘土状部：累計幅2.2cm ・走向・傾斜はN10° E62° Wである。 ・上端境界の傾斜は48° である。 ●70.92～70.94m(D-12破砕帯) ・破砕部である。 ・黄褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.7cmである。 ・走向・傾斜はN18° E53° Wである。 ・上端境界の傾斜は41° ，下端境界の傾斜は50° である。 ●75.60～75.90m(D-14破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm ・走向・傾斜はN14° E77° Wである。 ・上端境界の傾斜は46° ，下端境界の傾斜は28° である。 75.90～77.48m ・変質している。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度77.35m：シーム。傾斜45度。幅1～2mmの桃色粘土状。	記載なし	記載なし

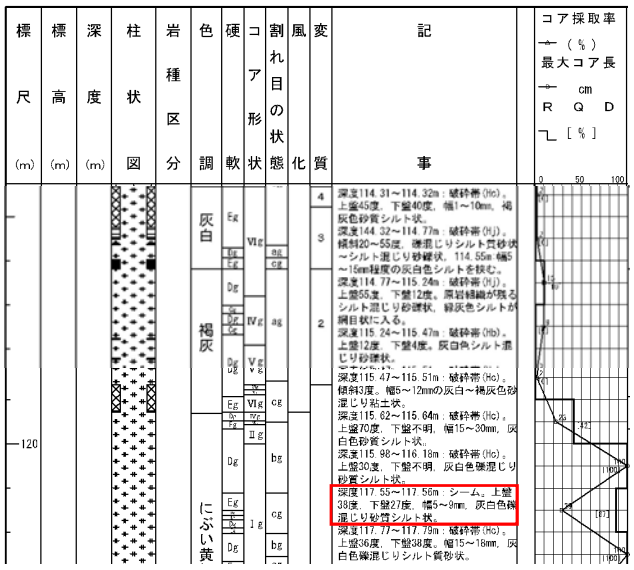
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度117.55～117.56m)

・礫混じり砂質シルト状を呈するが，礫に定向配列は認められず，シルト中の灰白色粘土細脈は不連続である。
　また，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



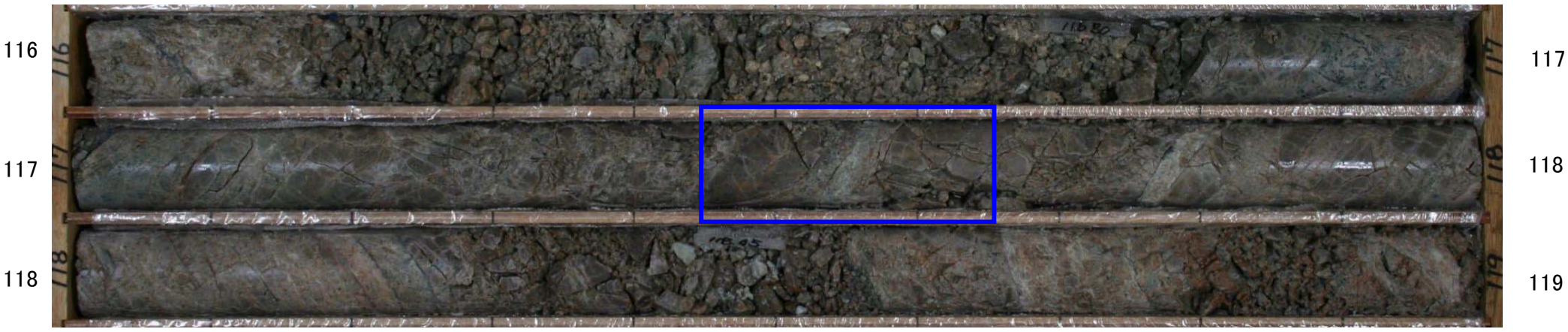
審査資料案

記　事
●114.31～115.63m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に緑灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褐灰色の未固結粘土状部：累計幅3.3cm ・走向・傾斜はN8° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は51° である。 ●117.77～117.79m(D-16破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.8cmである。 ・走向・傾斜はN11° W57° Wである。 ・上端境界の傾斜は36° ，下端境界の傾斜は38° である。

審査資料
（平成29年12月22日）

記　事
●114.31～115.63m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に緑灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褐灰色の未固結粘土状部：累計幅3.3cm ・走向・傾斜はN8° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は51° である。 ●117.77～117.79m(D-16破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.8cmである。 ・走向・傾斜はN11° W57° Wである。 ・上端境界の傾斜は36° ，下端境界の傾斜は38° である。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度117.55～117.56m：シーム。上盤38度，下盤27度，幅5～9mm，灰白色礫混じり砂質シルト状。	記載なし	記載なし



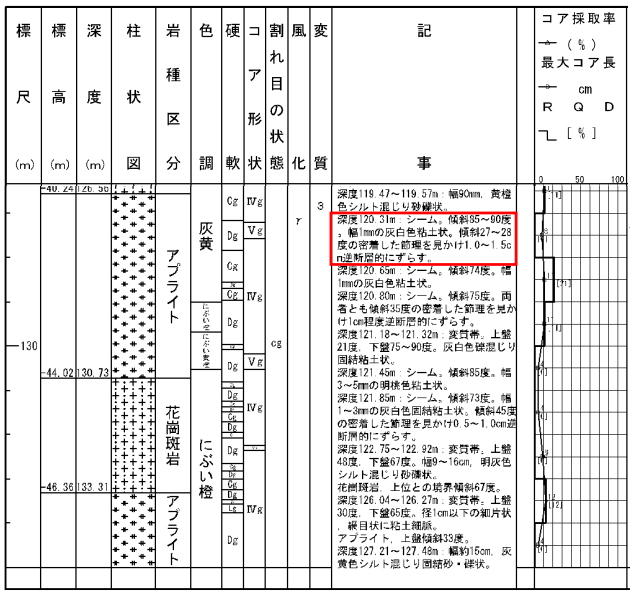
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度120.31m)

・粘土状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98～126.56m ・花崗斑岩である。 126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し，粘土細脈が網目状に分布する。 126.56～130.73m ・アプライトである。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98～126.56m ・花崗斑岩である。 126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し，粘土細脈が網目状に分布する。 126.56～130.73m ・アプライトである。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度120.31m：シーム。傾斜85～90度。幅1mmの灰白色粘土状。傾斜27～28度の密着した節理を見かけ1.0～1.5cm逆断層的にずらす。	記載なし	記載なし

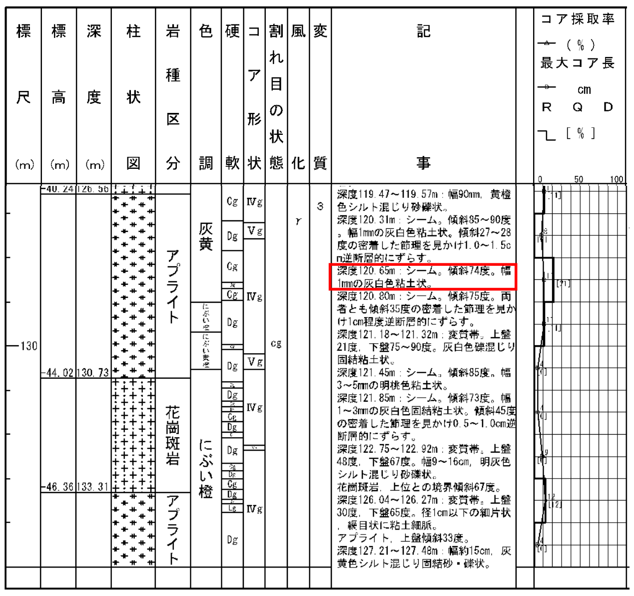
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度120.65m)

・粘土状を呈するが，その分布は局所的かつ端部を他の割れ目にさえぎられ連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，
破砕部ではないと判断した。

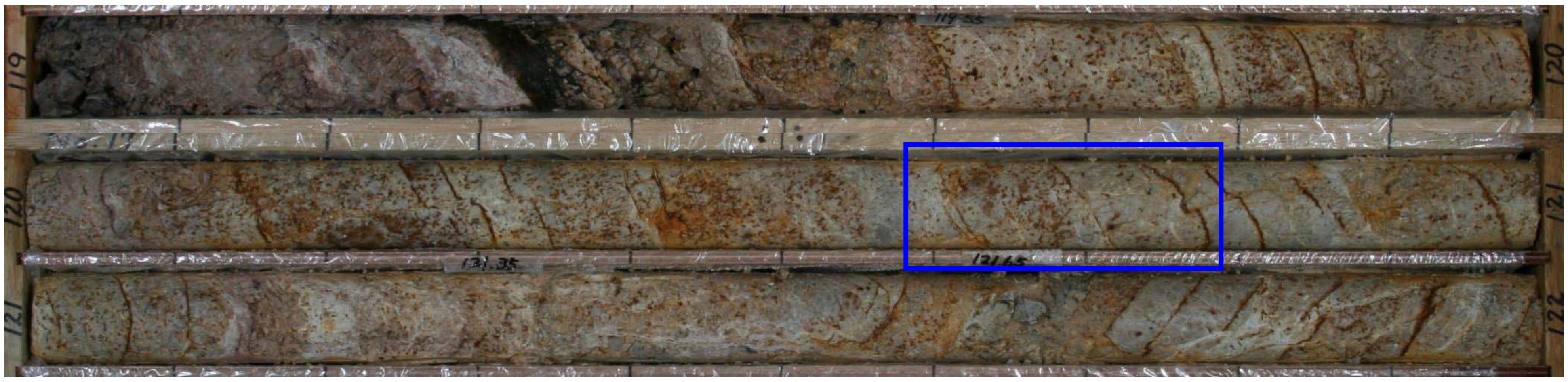
委託報告書
（平成19年）



審査資料案

審査資料
（平成29年12月22日）

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度120.65m：シーム。傾斜74度。幅1mmの灰白色粘土状。	記載なし	記載なし

119  120
120 121
121 122

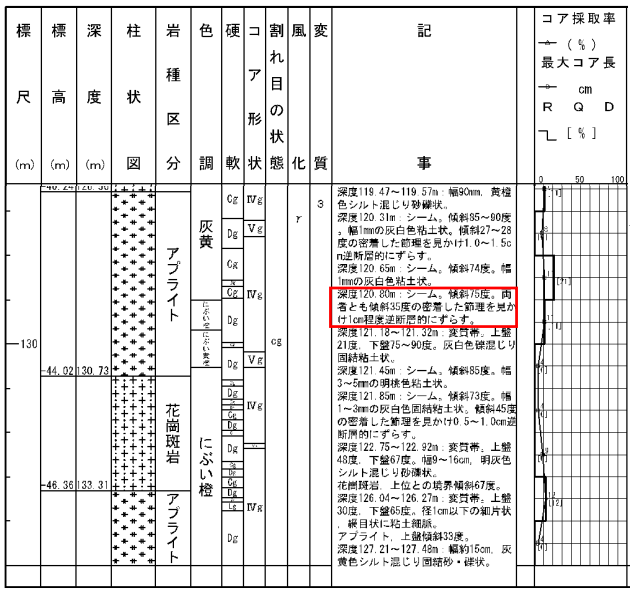
凡 例
← :シーム

0　　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度120.80m)

・該当の割れ目は端部を他の割れ目にさえぎられ連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98～126.56m ・花崗斑岩である。 126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し，粘土細脈が網目状に分布する。 126.56～130.73m ・アプライトである。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98～126.56m ・花崗斑岩である。 126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し，粘土細脈が網目状に分布する。 126.56～130.73m ・アプライトである。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度120.80m：シーム。傾斜75度。両者とも傾斜35度の密着した節理を見かけ1cm程度逆断層的にずらす。	記載なし	記載なし

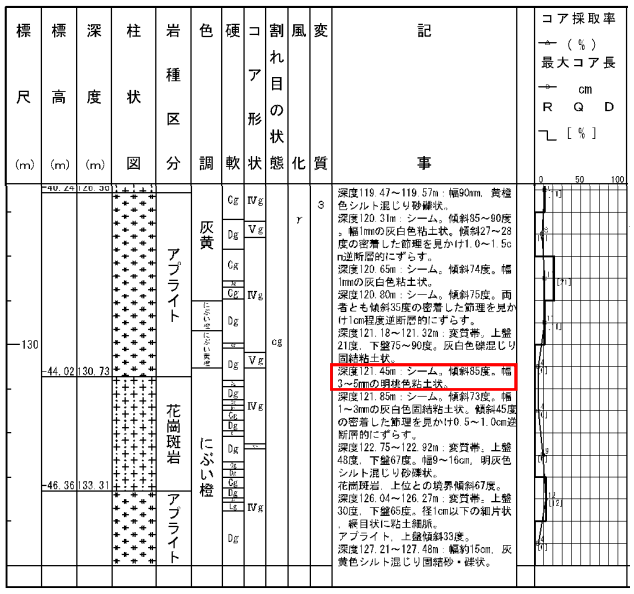
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度121.45m)

・粘土状を呈するが，その分布は湾曲し直線性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



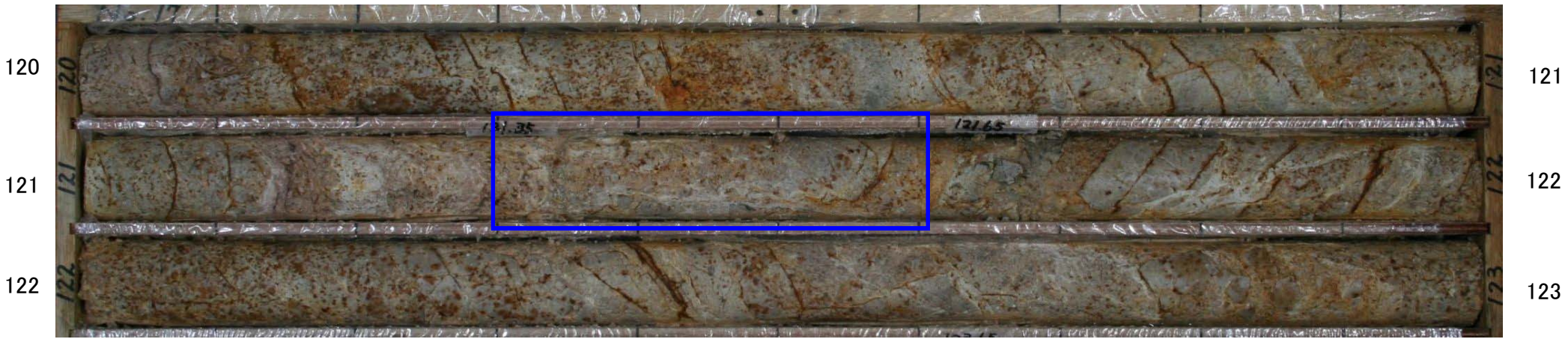
審査資料案

記事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98～126.56m ・花崗斑岩である。 126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し，粘土細脈が網目状に分布する。 126.56～130.73m ・アプライトである。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98～126.56m ・花崗斑岩である。 126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し，粘土細脈が網目状に分布する。 126.56～130.73m ・アプライトである。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度121.45m：シーム。傾斜85度。幅3～5mmの明桃色粘土状。	記載なし	記載なし



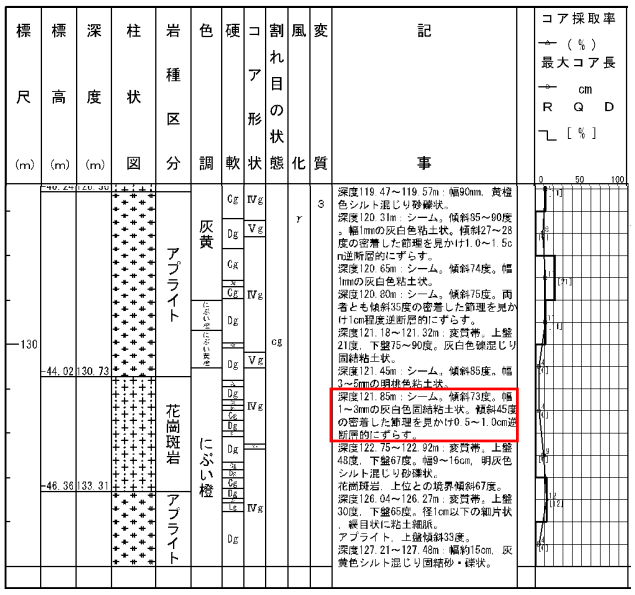
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度121.85m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98～126.56m ・花崗斑岩である。 126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し，粘土細脈が網目状に分布する。 126.56～130.73m ・アプライトである。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98～126.56m ・花崗斑岩である。 126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し，粘土細脈が網目状に分布する。 126.56～130.73m ・アプライトである。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度121.85m：シーム。傾斜73度。幅1～3mmの灰白色固結粘土状。傾斜45度の密着した節理を見かけ0.5～1.0cm逆断層的にずらす。	記載なし	記載なし

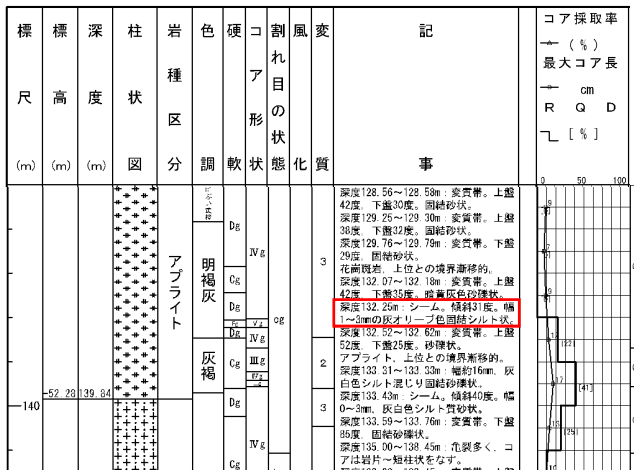
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度132.25m)

・シルト状を呈するが，その分布は湾曲し直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



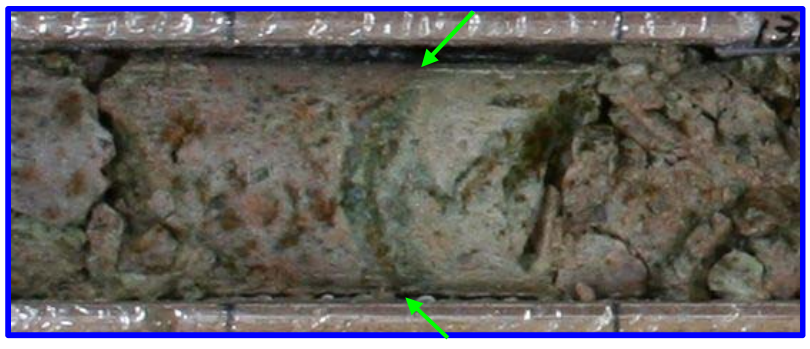
審査資料案

記事
130.73～133.31m ・花崗斑岩である。 133.31～139.84m ・アプライトである。 133.59～133.76m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
130.73～133.31m ・花崗斑岩である。 133.31～139.84m ・アプライトである。 133.59～133.76m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度132.25m：シーム。傾斜31度。幅1～3mmの灰オリーブ色固結シルト状。	記載なし	記載なし



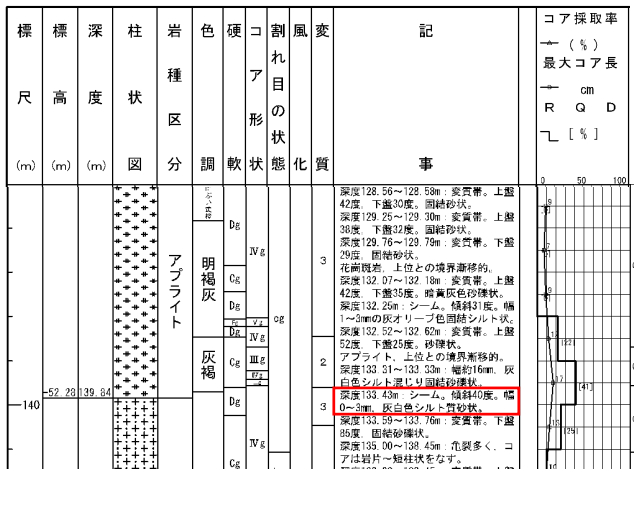
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度133.43m)

・砂状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



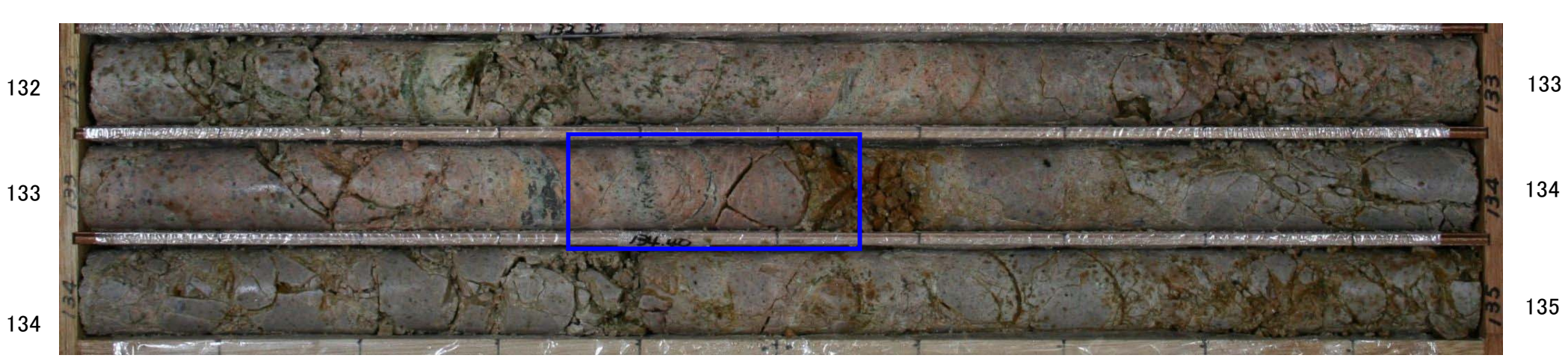
審査資料案

記　事
130.73～133.31m ・花崗斑岩である。 133.31～139.84m ・アプライトである。 133.59～133.76m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。

審査資料
（平成29年12月22日）

記　事
130.73～133.31m ・花崗斑岩である。 133.31～139.84m ・アプライトである。 133.59～133.76m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度133.43m：シーム。傾斜40度。幅0～3mm，灰白色シルト質砂状。	記載なし	記載なし



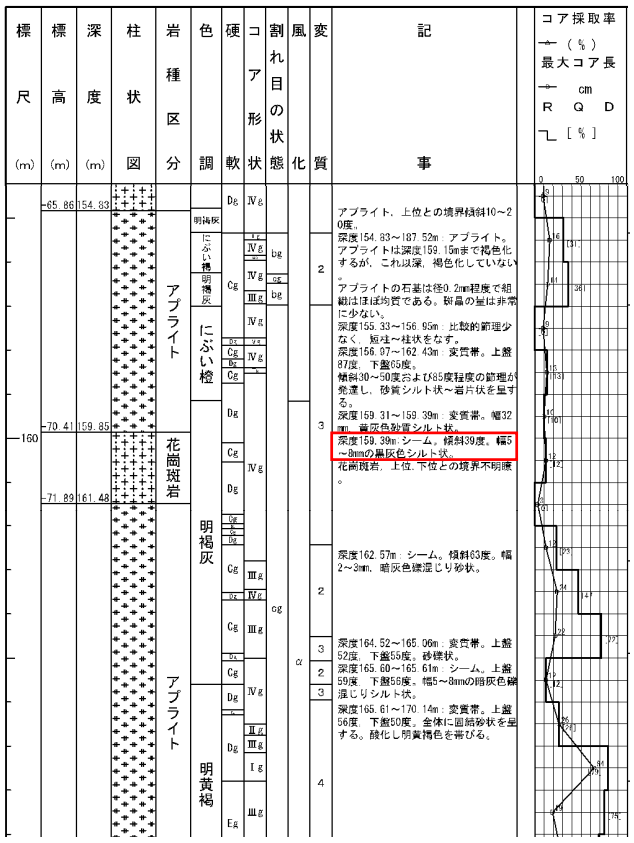
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度159.39m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



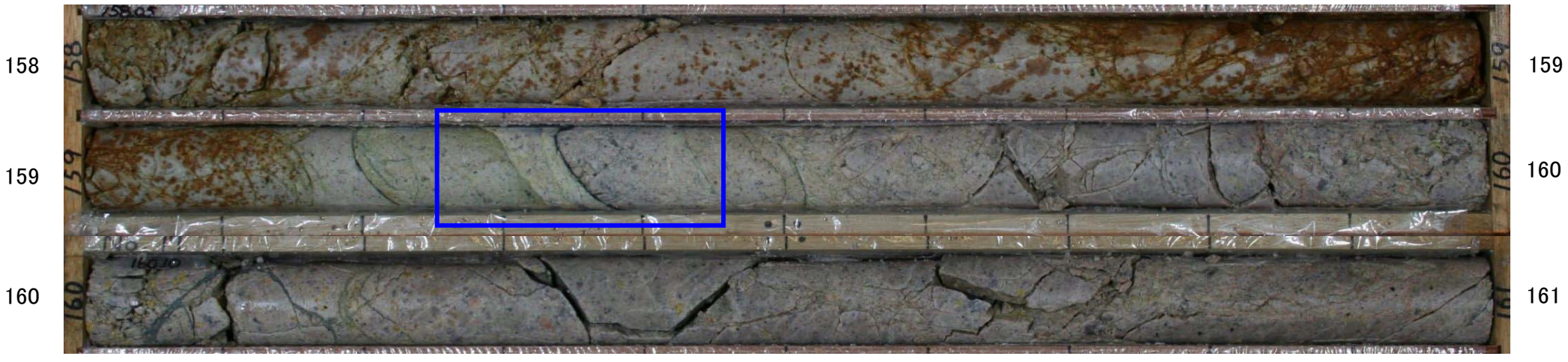
審査資料案

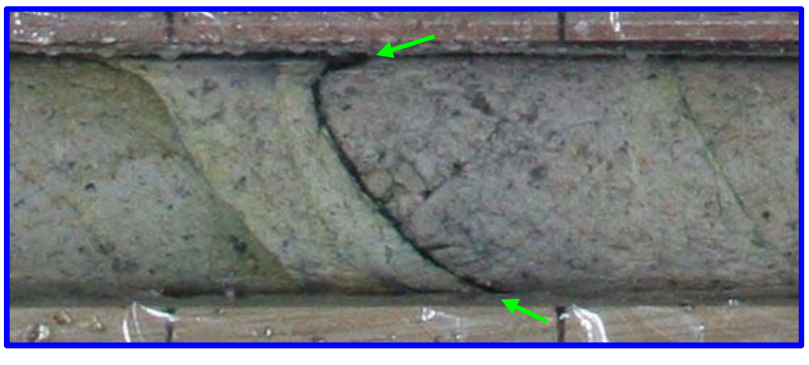
記事
154.83～159.85m ・アプライトである。
156.97～162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く，砂質シルト状～岩片状を呈する。
159.85～161.48m ・花崗斑岩である。
161.48～187.52m ・アプライトである。
164.52～165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
165.61～170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
154.83～159.85m ・アプライトである。
156.97～162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く，砂質シルト状～岩片状を呈する。
159.85～161.48m ・花崗斑岩である。
161.48～187.52m ・アプライトである。
164.52～165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
165.61～170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度159.39m:シーム。傾斜39度。幅5～8mmの黒灰色シルト状。	記載なし	記載なし





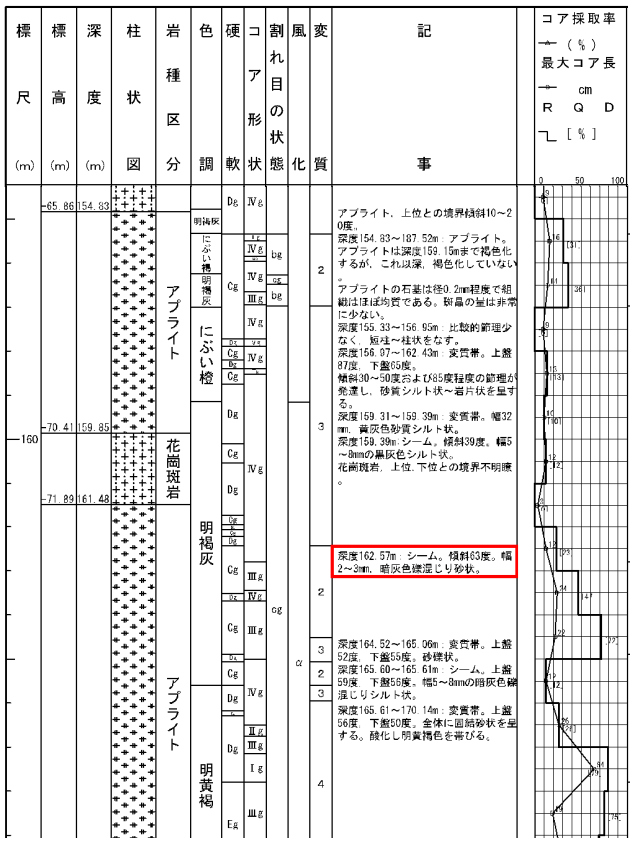
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度162.57m)

・礫混じり砂状を呈するが，礫に定向配列は認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



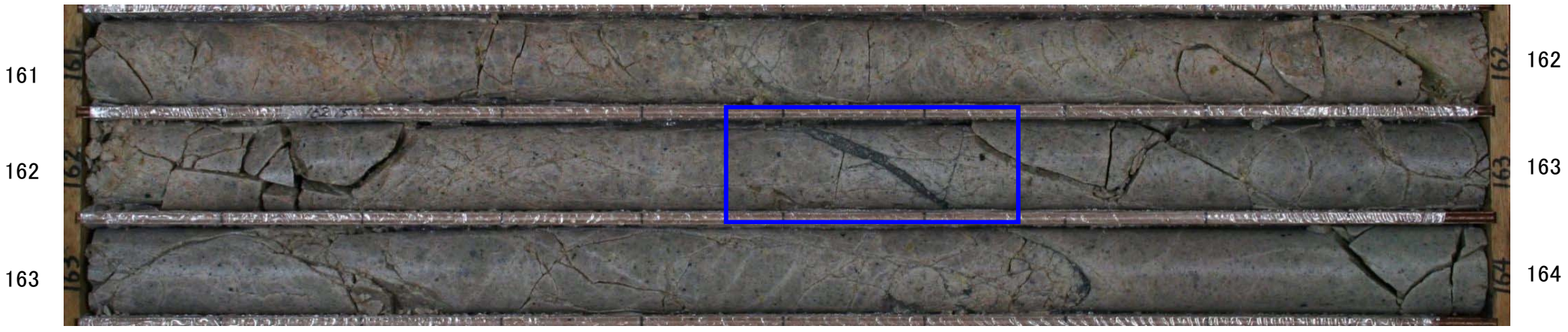
審査資料案

記事
154.83～159.85m ・アプライトである。
156.97～162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く，砂質シルト状～岩片状を呈する。
159.85～161.48m ・花崗斑岩である。
161.48～187.52m ・アプライトである。
164.52～165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
165.61～170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
154.83～159.85m ・アプライトである。
156.97～162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く，砂質シルト状～岩片状を呈する。
159.85～161.48m ・花崗斑岩である。
161.48～187.52m ・アプライトである。
164.52～165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
165.61～170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度162.57m：シーム。傾斜63度。幅2～3mm，暗灰色礫混じり砂状。	記載なし	記載なし



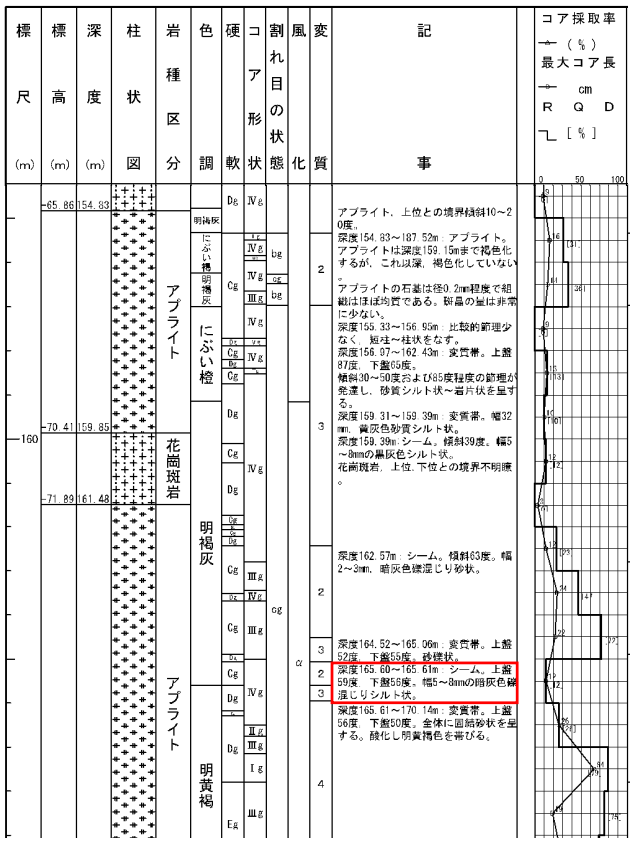
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度165.60～165.61m)

・シルト状を呈するが，上下端境界は凹凸が見られ直線性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



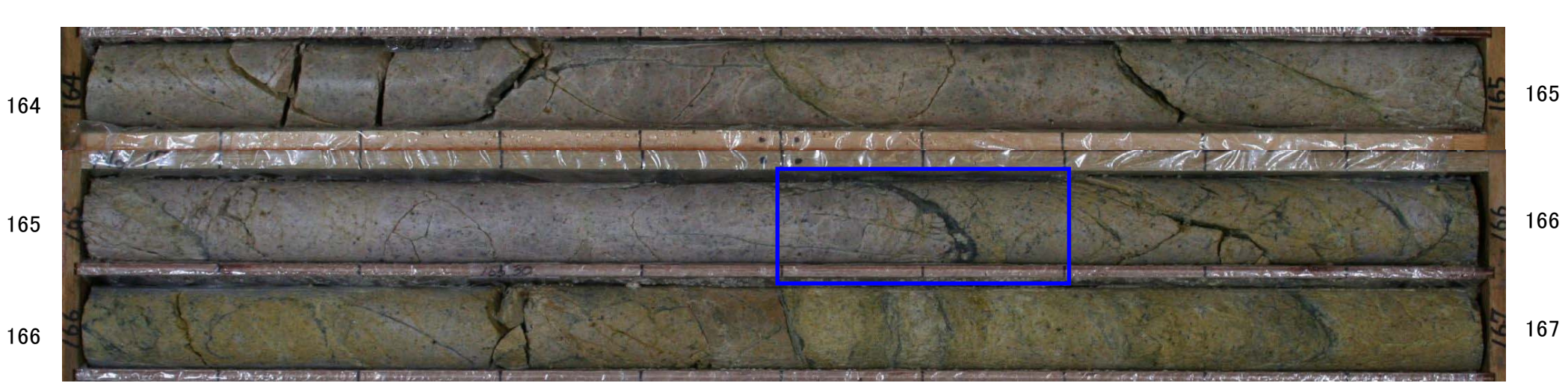
審査資料案

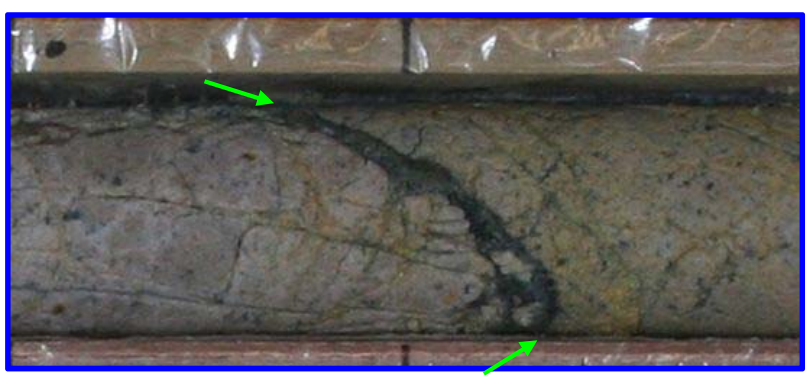
記事
154.83～159.85m ・アプライトである。
156.97～162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く，砂質シルト状～岩片状を呈する。
159.85～161.48m ・花崗斑岩である。
161.48～187.52m ・アプライトである。
164.52～165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
165.61～170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
154.83～159.85m ・アプライトである。
156.97～162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く，砂質シルト状～岩片状を呈する。
159.85～161.48m ・花崗斑岩である。
161.48～187.52m ・アプライトである。
164.52～165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
165.61～170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度165.60～165.61m：シーム。上盤59度，下盤56度。幅5～8mmの暗灰色礫混じりシルト状。	記載なし	記載なし





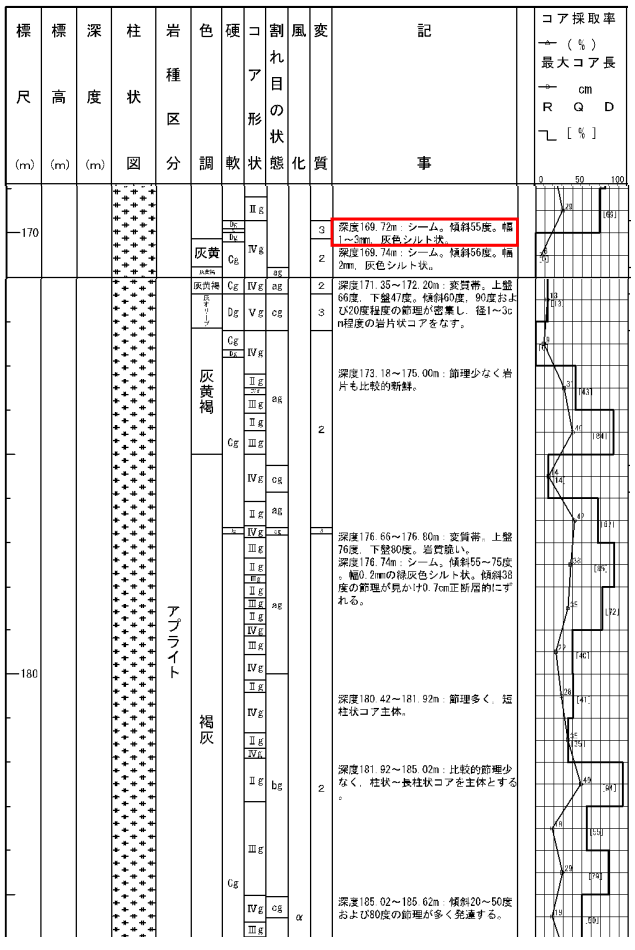
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度169.72m)

・シルト状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



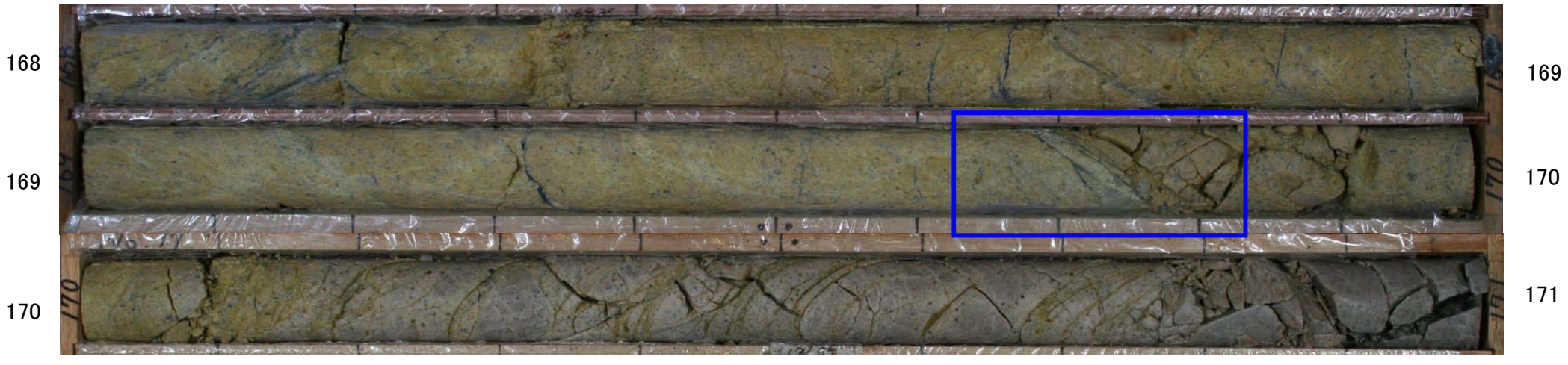
審査資料案

記事
171.35～172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し，岩片状を呈する。 176.66～176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。 181.92～185.02m ・割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
171.35～172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し，岩片状を呈する。 176.66～176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。 181.92～185.02m ・割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度169.72m：シーム。傾斜55度。幅1～3mm，灰色シルト状。	記載なし	記載なし



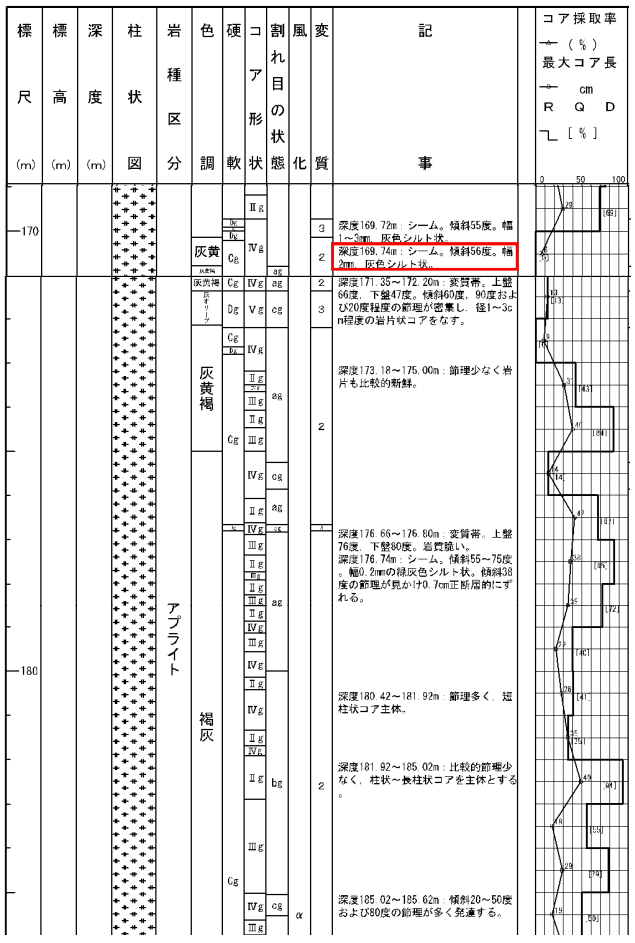
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度169.74m)

・シルト状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
171.35～172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し，岩片状を呈する。 176.66～176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。 181.92～185.02m ・割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
171.35～172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し，岩片状を呈する。 176.66～176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。 181.92～185.02m ・割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成29年12月22日）
深度169.74m:シーム。傾斜56度。幅2mm，灰色シルト状。	記載なし	記載なし

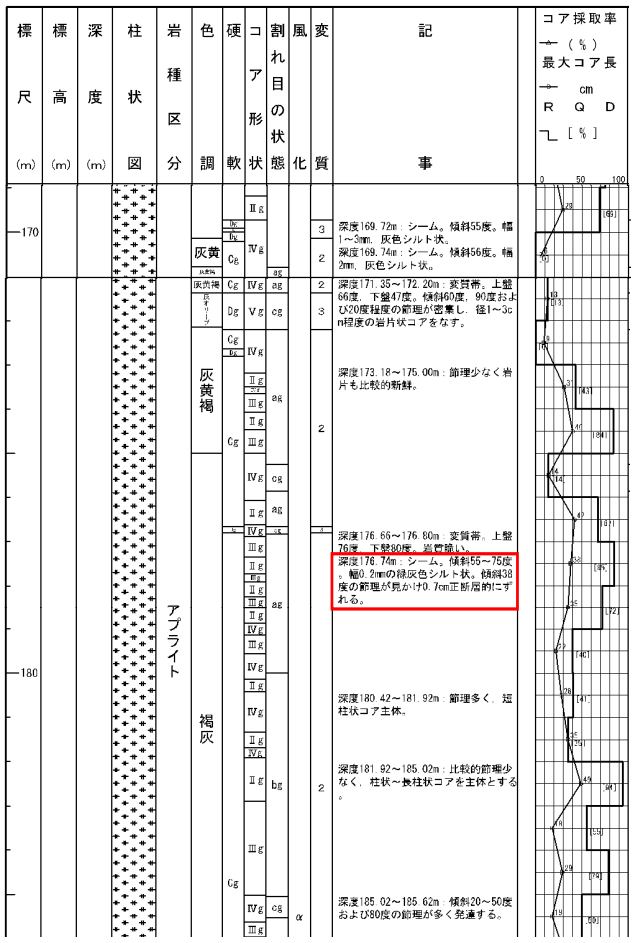
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度176.74m)

・シルト状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
(平成19年)



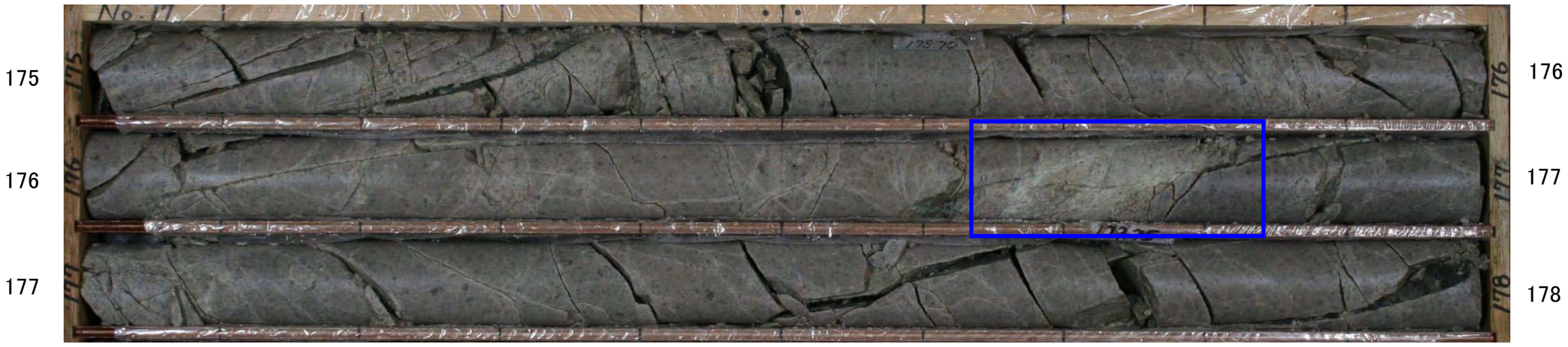
審査資料案

記事
171.35～172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し，岩片状を呈する。
176.66～176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。
181.92～185.02m ・割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事
171.35～172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し，岩片状を呈する。
176.66～176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。
181.92～185.02m ・割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度176.74m：シーム。傾斜55～75度。幅0.2mmの緑灰色シルト状。傾斜38度の節理が見かけ0.7cm正断層的にずれる。	記載なし	記載なし



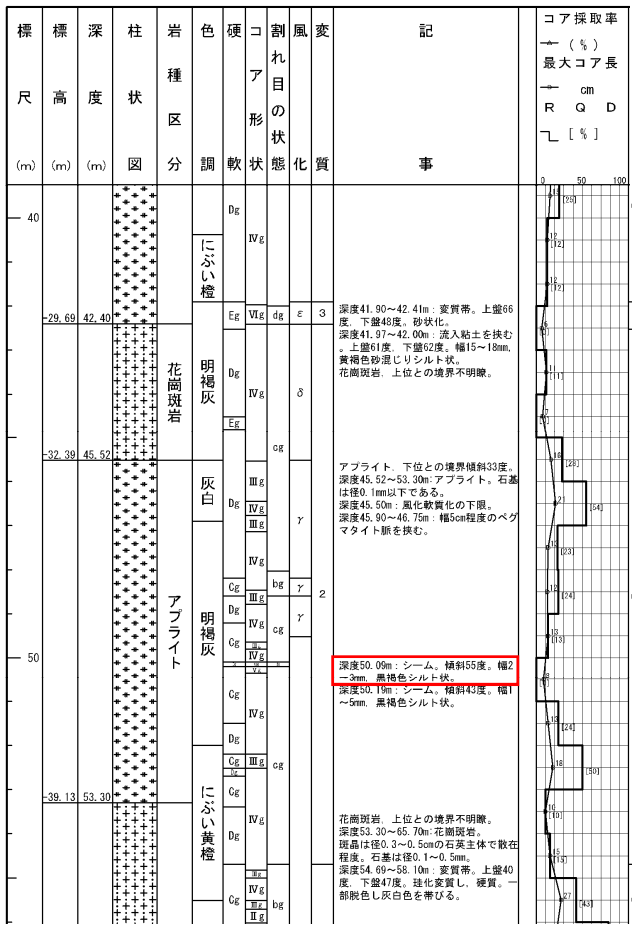
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度50.09m）

・一部で礫混じりシルト状を呈するが，礫に定向配列は認められず，その分布は湾曲し直線性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書（平成19年）



審査資料案

記　事
41.90～42.41m ・変質し，砂状を呈する。 41.97～42.00m ・黄褐色砂混じりシルト状の流入粘土を挟む。 45.52～53.30m ・アプライトである。 45.90～46.75m ・幅5cm程度のペグマタイト脈を挟む。 53.30～65.70m ・花崗斑岩である。

審査資料（平成30年11月30日）

記　事
41.90～42.41m ・変質し，砂状を呈する。 41.97～42.00m ・黄褐色砂混じりシルト状の流入粘土を挟む。 45.52～53.30m ・アプライトである。 45.90～46.75m ・幅5cm程度のペグマタイト脈を挟む。 53.30～65.70m ・花崗斑岩である。

委託報告書（平成19年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
深度50.09m：シーム。傾斜55度。幅2～3mm，黒褐色シルト状。	記載なし	記載なし

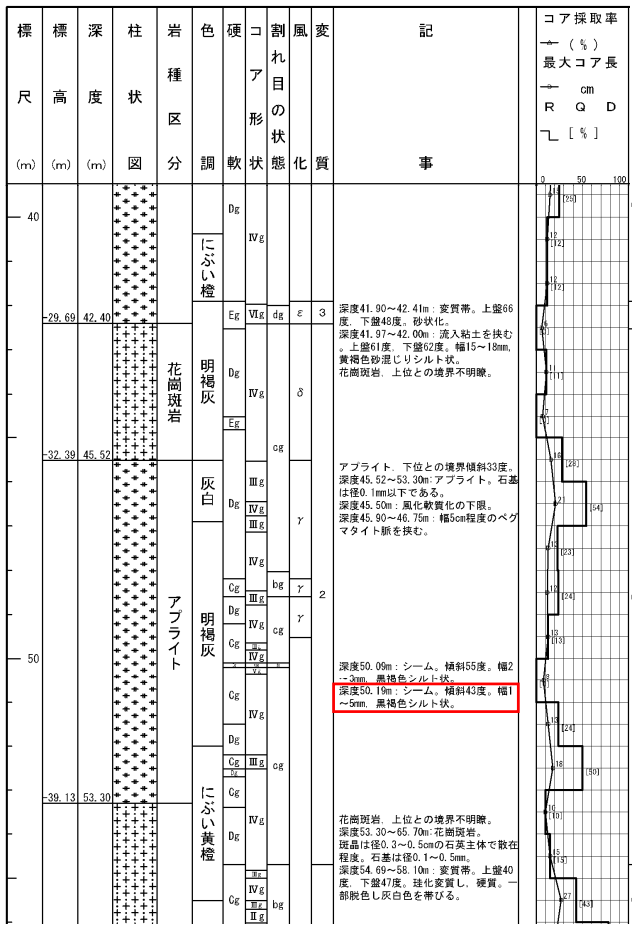
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度50.19m）

・シルト状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



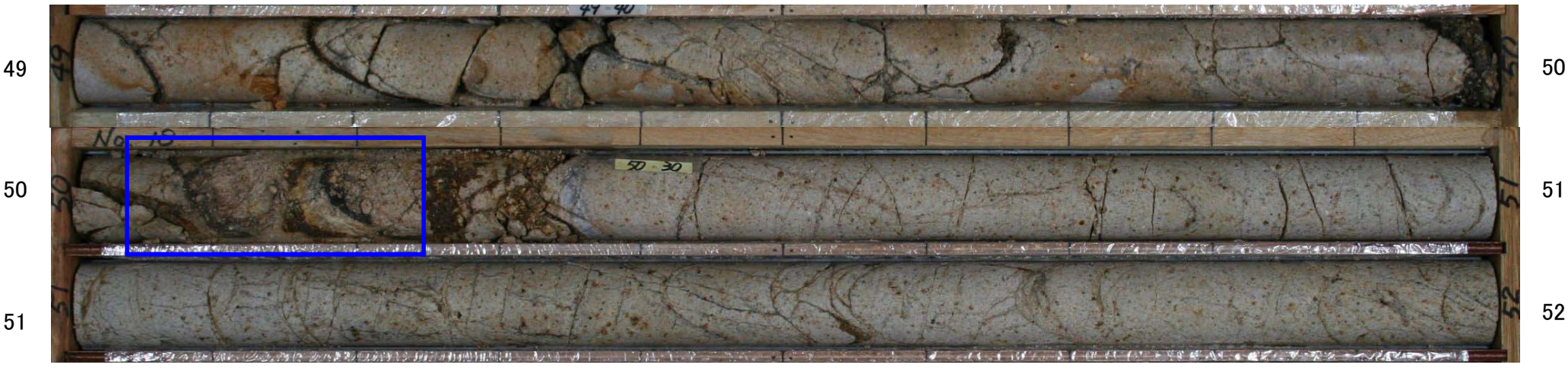
審査資料案

記事
41.90～42.41m ・変質し，砂状を呈する。 41.97～42.00m ・黄褐色砂混じりシルト状の流入粘土を挟む。 45.52～53.30m ・アプライトである。 45.90～46.75m ・幅5cm程度のペグマタイト脈を挟む。 53.30～65.70m ・花崗斑岩である。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
41.90～42.41m ・変質し，砂状を呈する。 41.97～42.00m ・黄褐色砂混じりシルト状の流入粘土を挟む。 45.52～53.30m ・アプライトである。 45.90～46.75m ・幅5cm程度のペグマタイト脈を挟む。 53.30～65.70m ・花崗斑岩である。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度50.19m：シーム。傾斜43度。幅1～5mm，黒褐色シルト状。	記載なし	記載なし



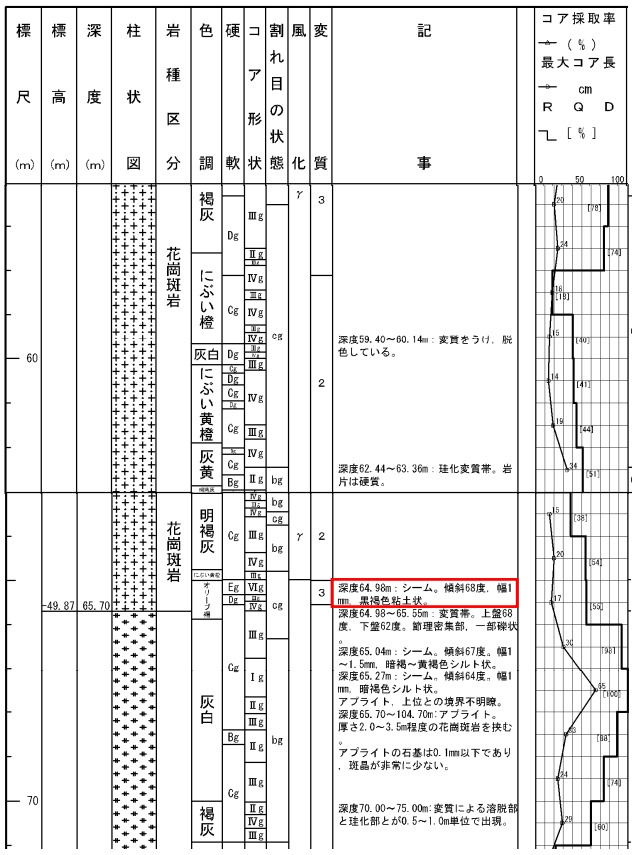
凡 例
:シーム

0 5 cm

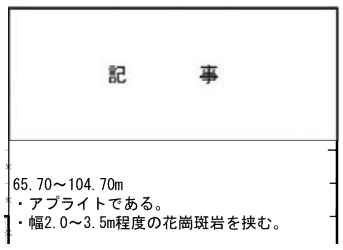
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度64.98m）

・周囲の岩盤は割れ目が多く，一部で礫状を呈するが，礫の定向配列は認められないことから，破砕部ではないと判断した。

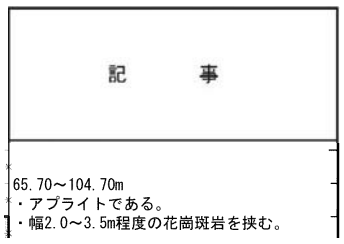
委託報告書
（平成19年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度64.98m:シーム。傾斜68度，幅1mm，黒褐色粘土状。	記載なし	記載なし

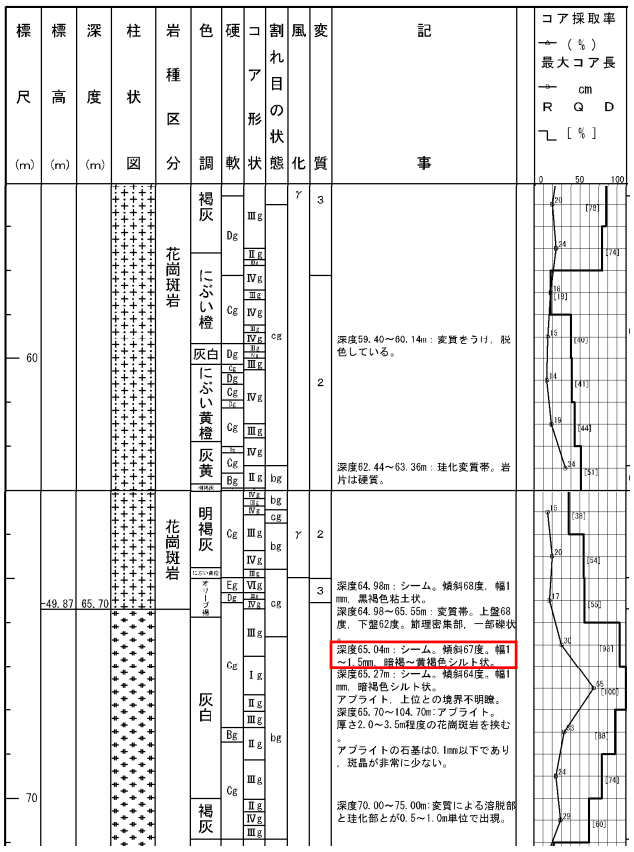
凡 例
:シーム

0　5 cm

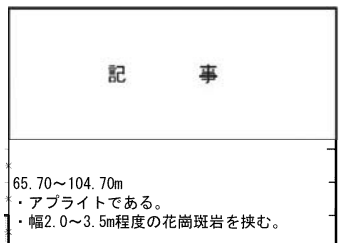
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度65.04m）

・シルト状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

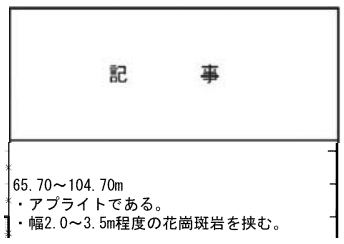
委託報告書
（平成19年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度65.04m：シーム。傾斜67度。幅1～1.5mm，暗褐～黄褐色シルト状。	記載なし	記載なし

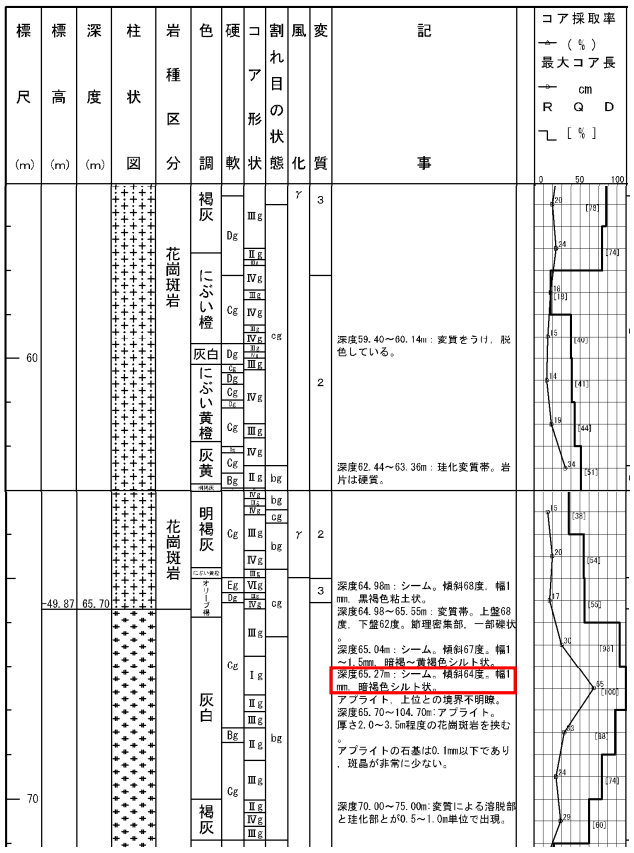
凡 例
:シーム

0　5 cm

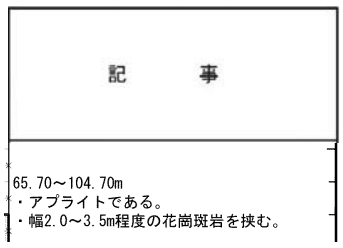
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度65.27m）

・シルト状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

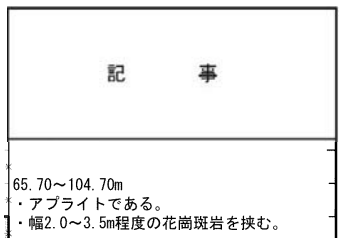
委託報告書
（平成19年）



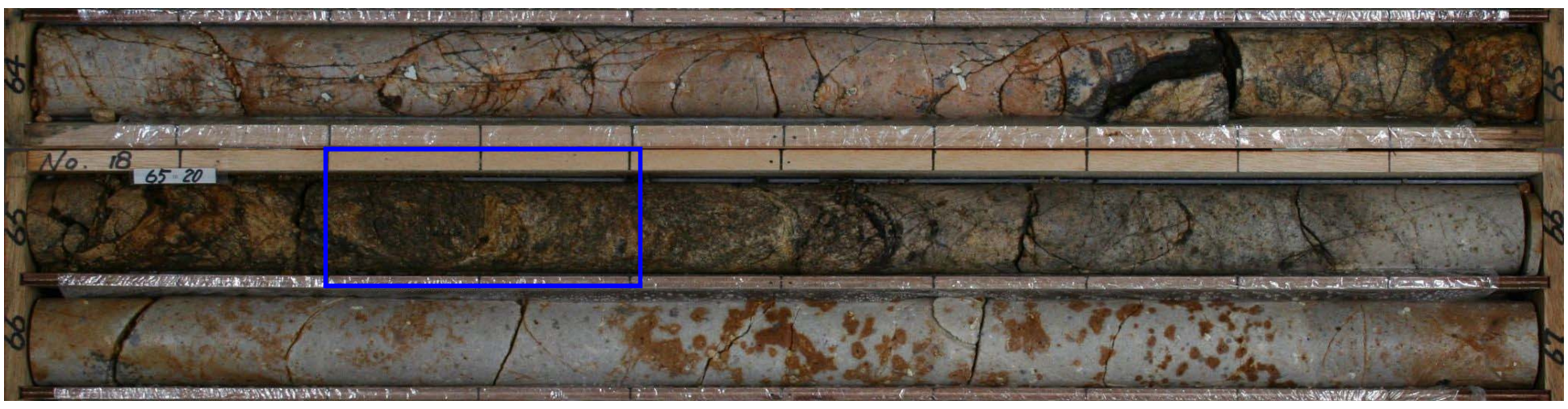
審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度65.27m：シーム。傾斜64度。幅1mm，暗褐色シルト状。	記載なし	記載なし



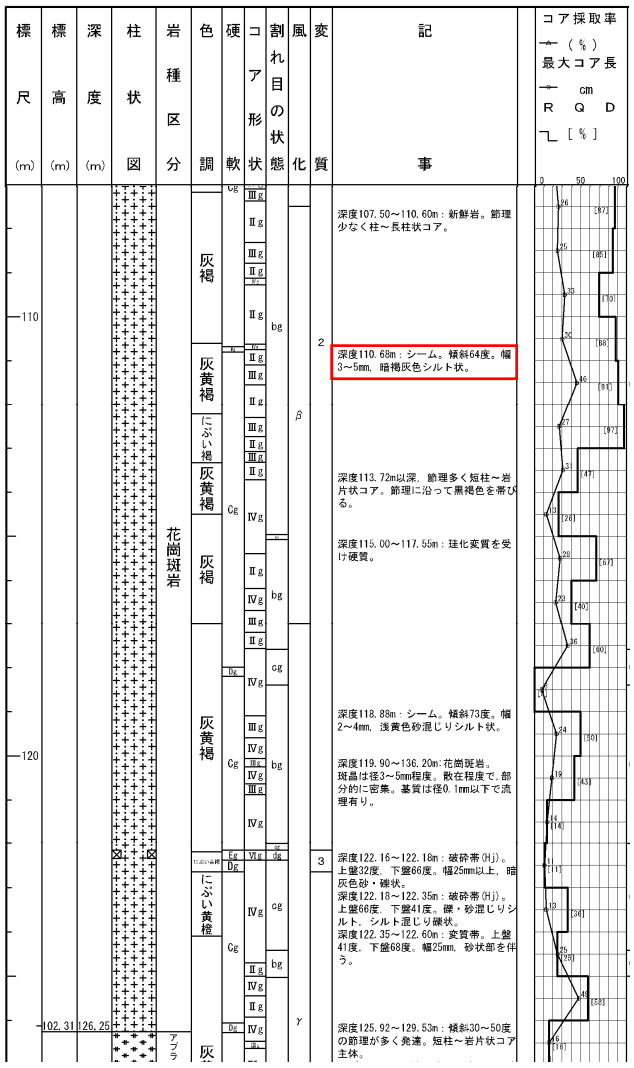
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度110.68m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。下盤側の岩盤は機械割れにより乱れている。

委託報告書
（平成19年）



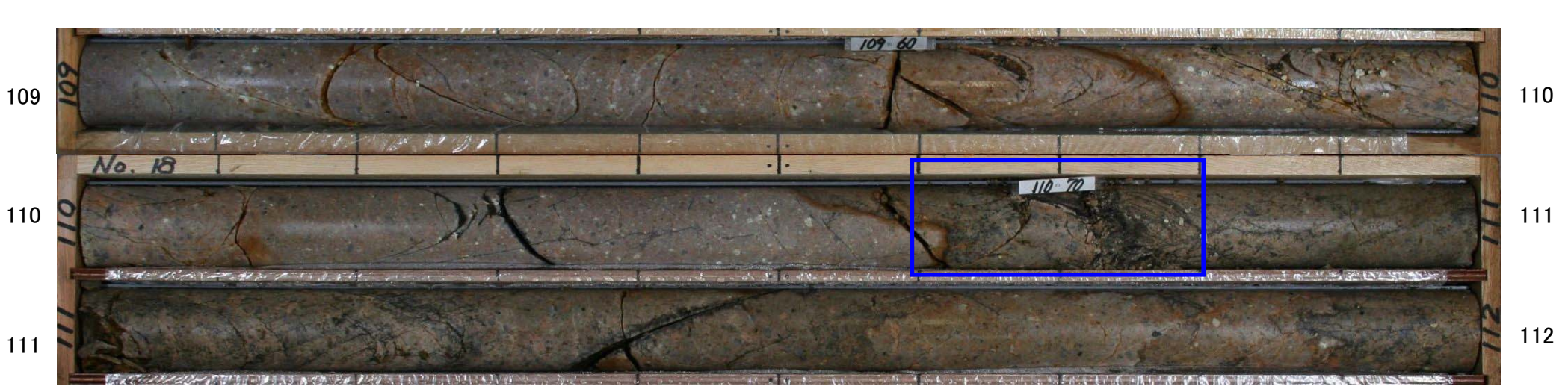
審査資料案

記事
110.68m ・変質している。 ・暗褐灰色シルト状を呈する。
118.88m ・変質している。 ・淺黄色砂混じりシルト状を呈する。
●122.16～122.35m(f-18-2破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN6° E87° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は32°，下端境界の傾斜は66° である。 122.35～122.60m ・変質し，砂状を呈する。 125.92～129.53m ・割れ目が多く発達する。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
110.68m ・変質している。 ・暗褐灰色シルト状を呈する。
118.88m ・変質している。 ・淺黄色砂混じりシルト状を呈する。
●122.16～122.35m(f-18-2破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN6° E87° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は32°，下端境界の傾斜は66° である。 122.35～122.60m ・変質し，砂状を呈する。 125.92～129.53m ・割れ目が多く発達する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度110.68m：シーム。傾斜64度。幅3～5mm，暗褐灰色シルト状。	110.68m ・変質している。 ・暗褐灰色シルト状を呈する。	110.68m ・変質している。 ・暗褐灰色シルト状を呈する。



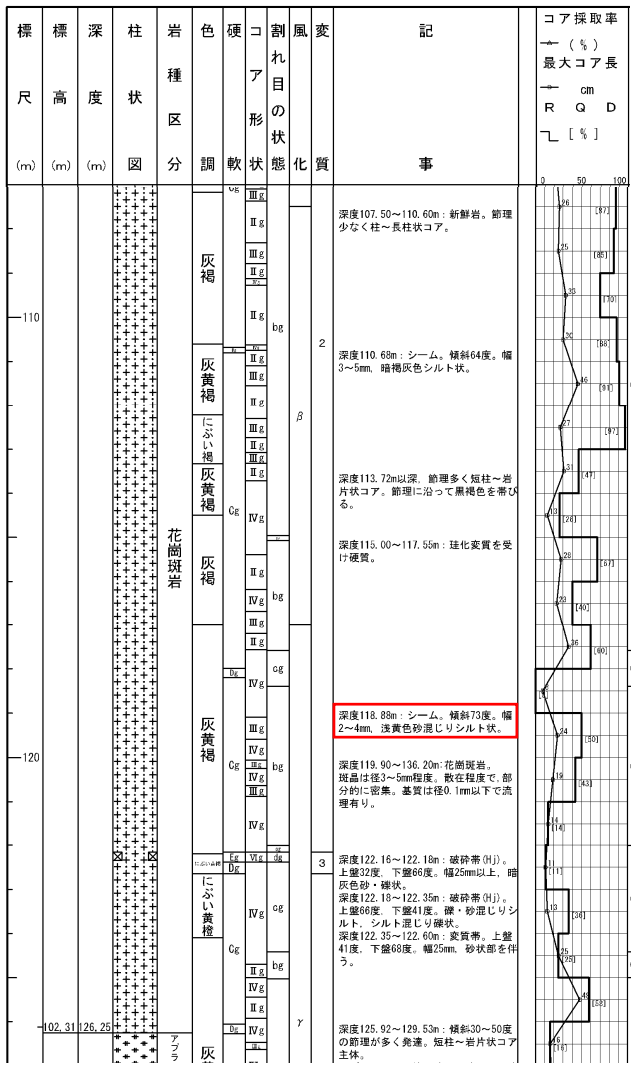
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度118.88m）

・周囲の岩盤は割れ目が多く，一部で礫状を呈するが，礫の定向配列は認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



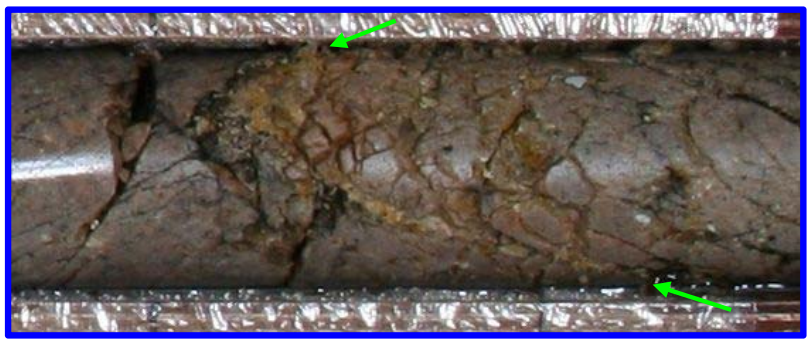
審査資料案

記事
110.68m ・変質している。 ・暗褐灰色シルト状を呈する。
118.88m ・変質している。 ・浅黄色砂混じりシルト状を呈する。
●122.16～122.35m(f-18-2破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN6° E87° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は32°，下端境界の傾斜は66° である。 122.35～122.60m ・変質し，砂状を呈する。 125.92～129.53m ・割れ目が多く発達する。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
110.68m ・変質している。 ・暗褐灰色シルト状を呈する。
118.88m ・変質している。 ・浅黄色砂混じりシルト状を呈する。
●122.16～122.35m(f-18-2破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN6° E87° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は32°，下端境界の傾斜は66° である。 122.35～122.60m ・変質し，砂状を呈する。 125.92～129.53m ・割れ目が多く発達する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度118.88m：シーム。傾斜73度。幅2～4mm，浅黄色砂混じりシルト状。	118.88m ・変質している。 ・浅黄色砂混じりシルト状を呈する。	118.88m ・変質している。 ・浅黄色砂混じりシルト状を呈する。



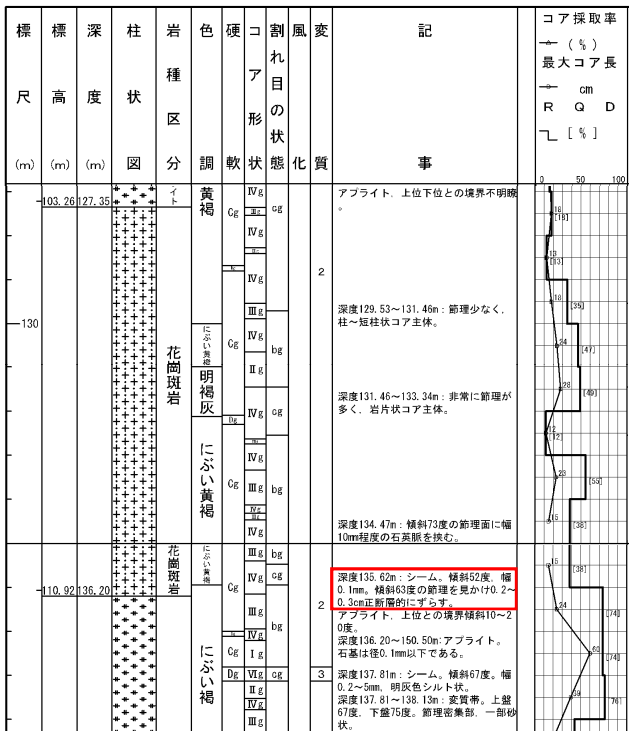
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度135.62m）

・該当の挟在物の分布は局所的であり連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



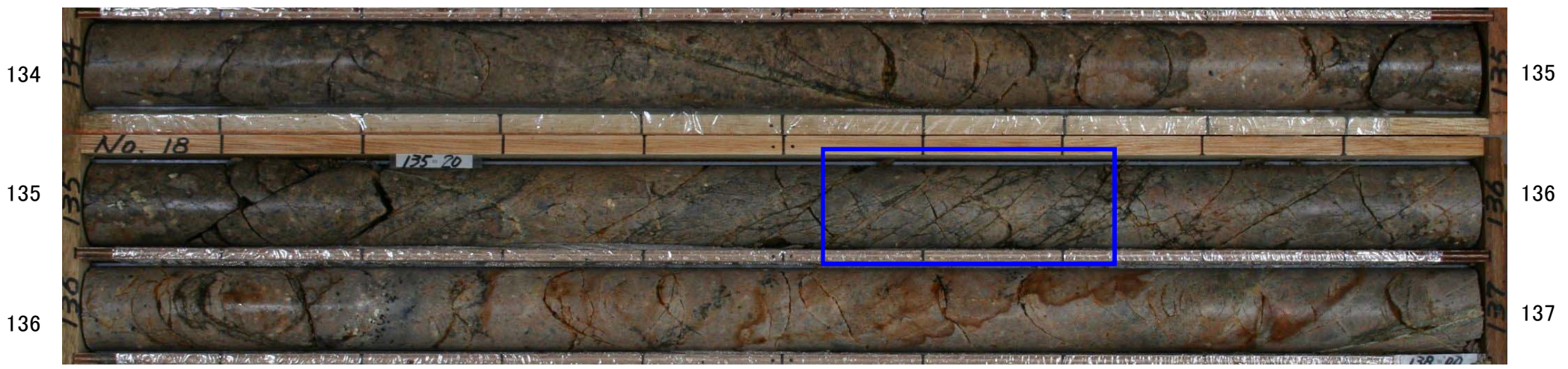
審査資料案

記事
126.25～127.35m ・アプライトを挟む。 134.47m ・幅10mm程度の石英脈を挟む。 135.62m ・変質している。 136.20～150.50m ・アプライトである。 137.81～138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白～褐色シルト状を呈する。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
126.25～127.35m ・アプライトを挟む。 134.47m ・幅10mm程度の石英脈を挟む。 135.62m ・変質している。 136.20～150.50m ・アプライトである。 137.81～138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白～褐色シルト状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度135.62m：シーム。傾斜52度，幅0.1mm。傾斜63度の節理を見かけ0.2～0.3cm正断層的にずらす。	135.62m ・変質している。	135.62m ・変質している。



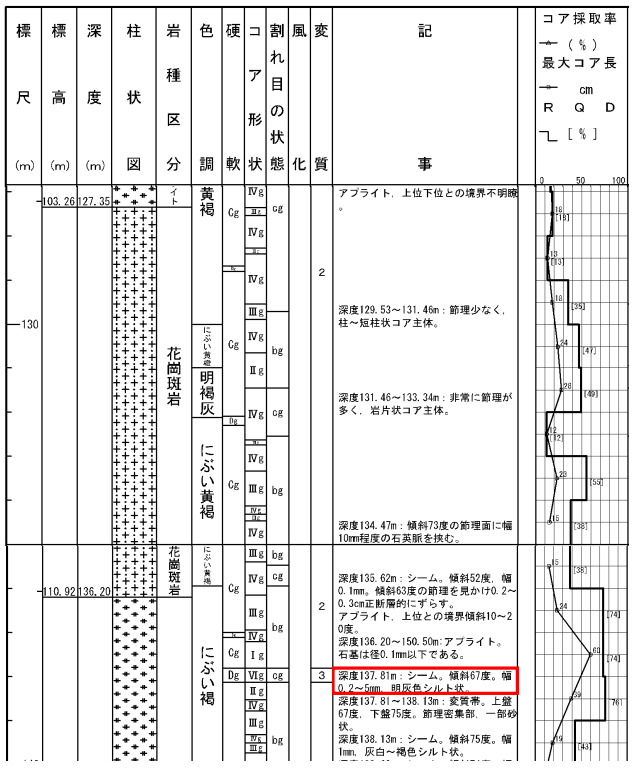
凡 例
:シーム

0 5 cm

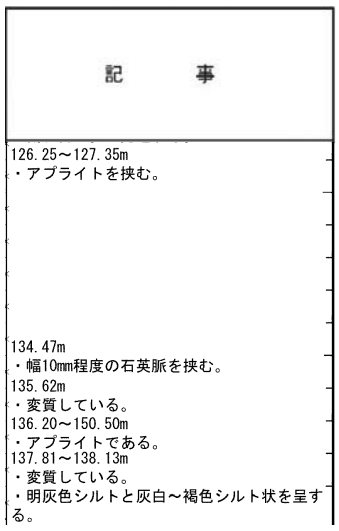
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度137.81m）

・シルト状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。
　一部の岩盤は機械割れにより乱れている。

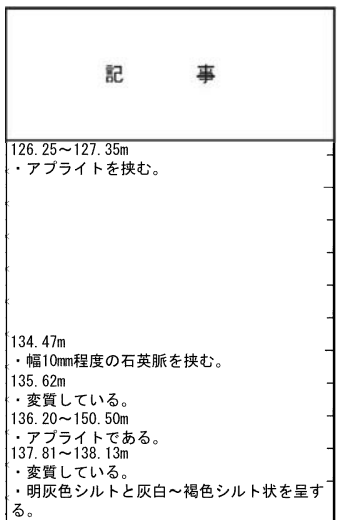
委託報告書
（平成19年）



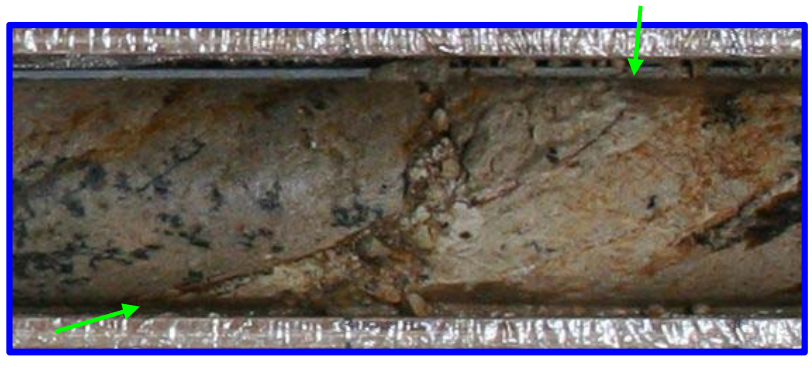
審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度137.81m：シーム。傾斜67度。幅0.2～5mm，明灰色シルト状。 深度137.81～138.13m：変質帯。上盤67度，下盤75度。節理密集部，一部砂状。 深度138.13m：シーム。傾斜75度。幅1mm，灰白～褐色シルト状。	137.81～138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白～褐色シルト状を呈する。	137.81～138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白～褐色シルト状を呈する。



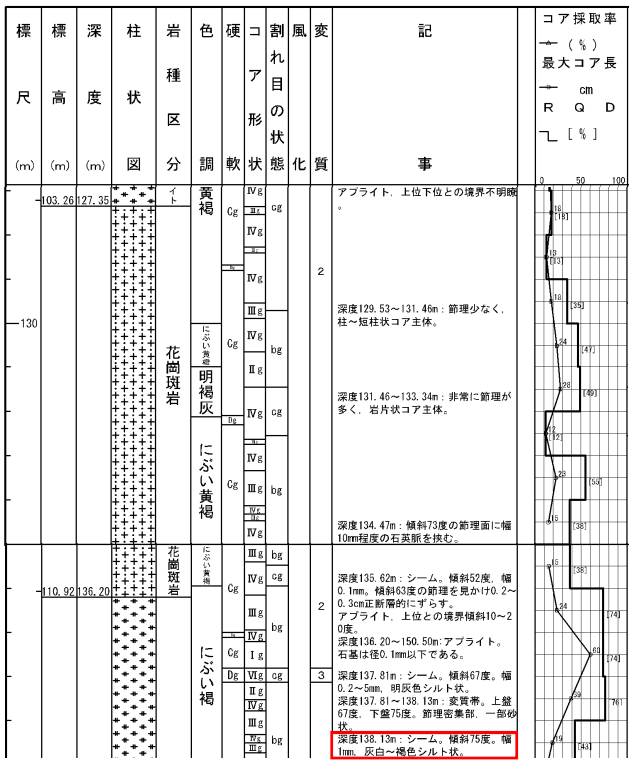
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度138.13m）

・シルト状を呈するが，その分布は湾曲・殲滅し直線性・連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記　事
126.25～127.35m ・アプライトを挟む。 134.47m ・幅10mm程度の石英脈を挟む。 135.62m ・変質している。 136.20～150.50m ・アプライトである。 137.81～138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白～褐色シルト状を呈する。

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事
126.25～127.35m ・アプライトを挟む。 134.47m ・幅10mm程度の石英脈を挟む。 135.62m ・変質している。 136.20～150.50m ・アプライトである。 137.81～138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白～褐色シルト状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度137.81m：シーム。傾斜67度。幅0.2～5mm，明灰色シルト状。 深度137.81～138.13m：変質帯。上盤67度，下盤75度。節理密集部，一部砂状。 深度138.13m：シーム。傾斜75度。幅1mm，灰白～褐色シルト状。	137.81～138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白～褐色シルト状を呈する。	137.81～138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白～褐色シルト状を呈する。

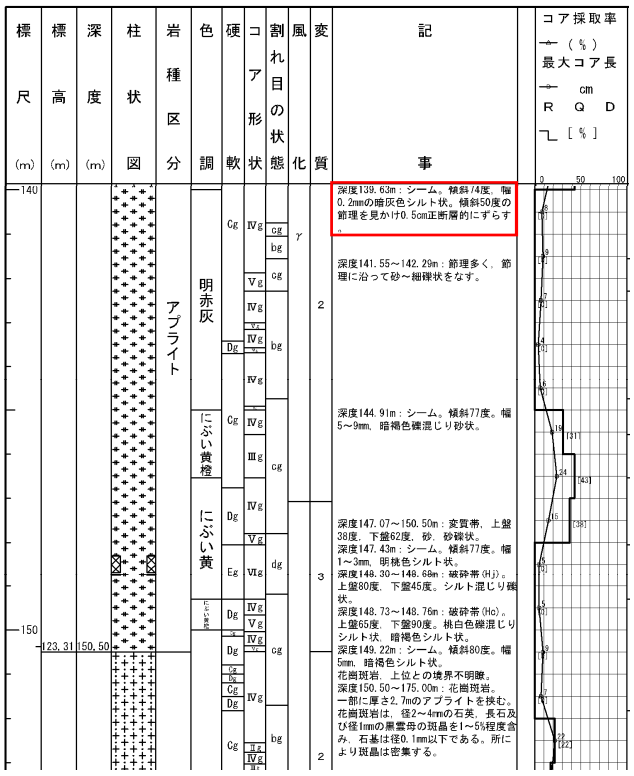
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度139.63m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



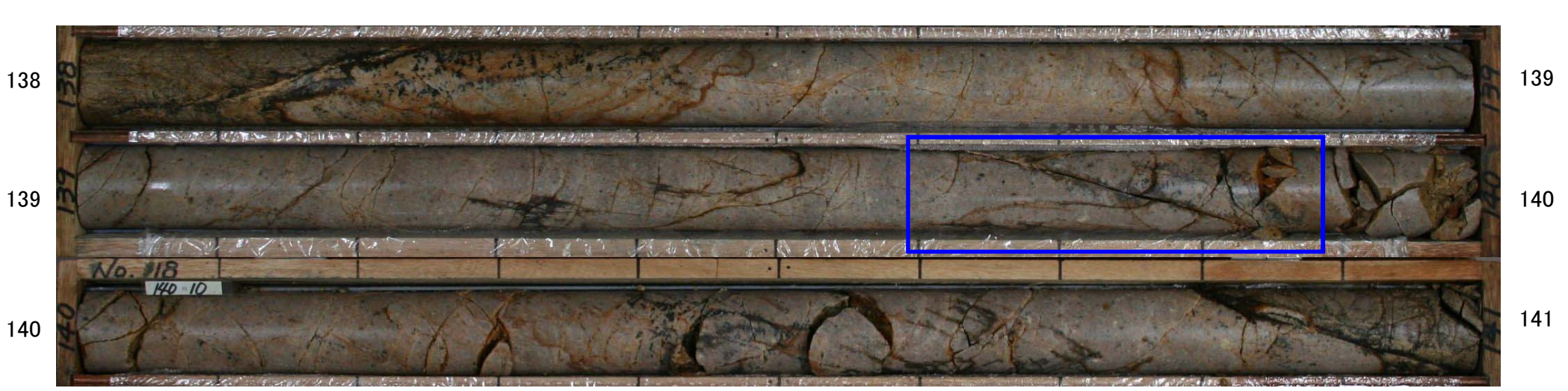
審査資料案

記　事
139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。 ●148.30～148.76m(D-39破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事
139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。 ●148.30～148.76m(D-39破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度139.63m：シーム。傾斜74度，幅0.2mmの暗灰色シルト状。 傾斜50度の節理を見かけ0.5cm正断層的にずらす。	139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。	139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。



凡　例
:シーム

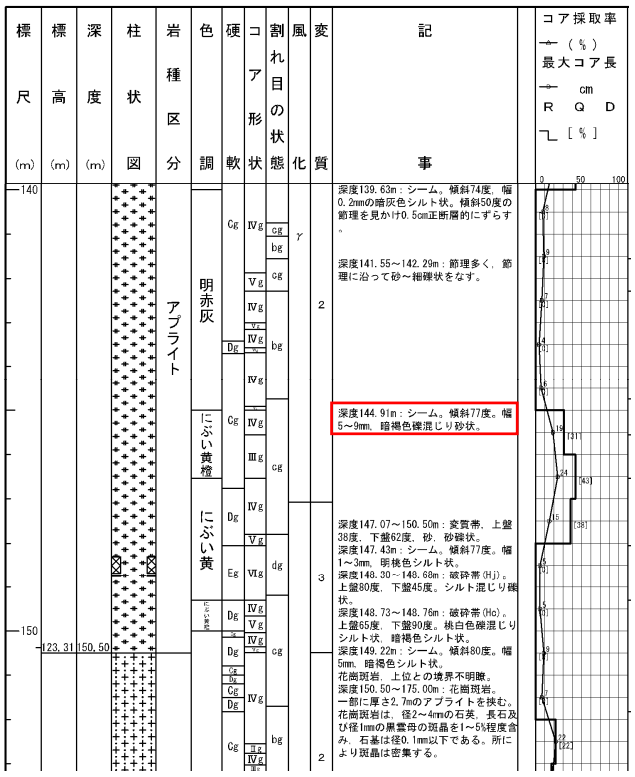
0　5 cm

※ 今回の審査資料作成の過程で，委託報告書のシームの深度が誤記であることを確認した。
次回の審査資料で修正版を提示する。
（誤）139.63m ⇒ （正）139.73m

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度144.91m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。 ●148.30～148.76m(D-39破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。 ●148.30～148.76m(D-39破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度144.91m：シーム。傾斜77度。幅5～9mm，暗褐色礫混じり砂状。	記載なし	記載なし

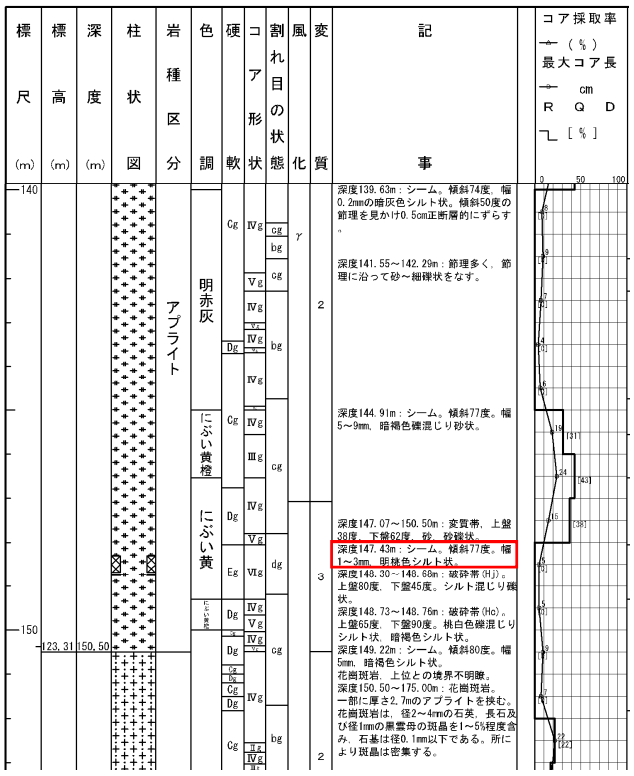
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度147.43m）

・シルト状を呈するが，その分布は膨縮し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



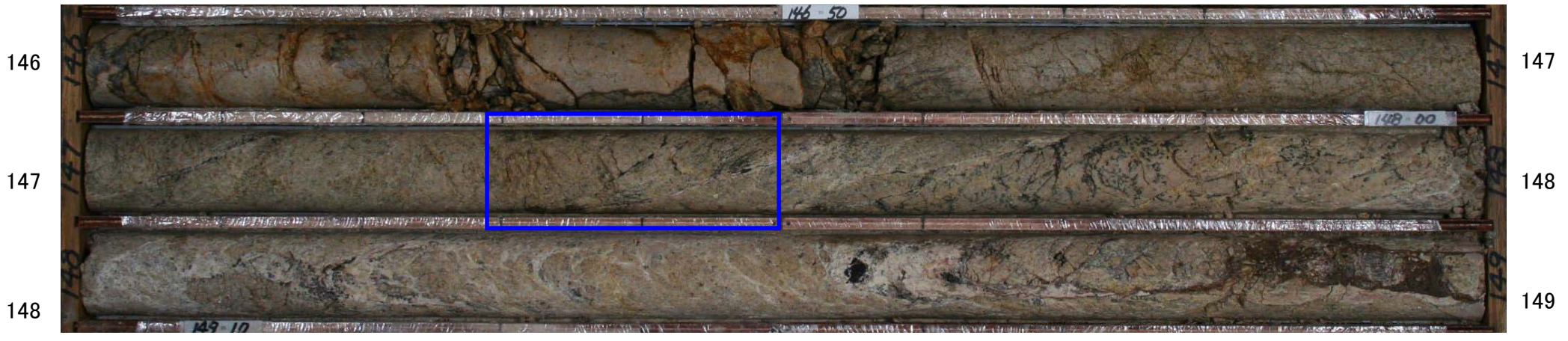
審査資料案

記事
139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。 ●148.30～148.76m(D-39破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。 ●148.30～148.76m(D-39破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度147.43m：シーム。傾斜77度。幅1～3mm，明桃色シルト状。	記載なし	記載なし



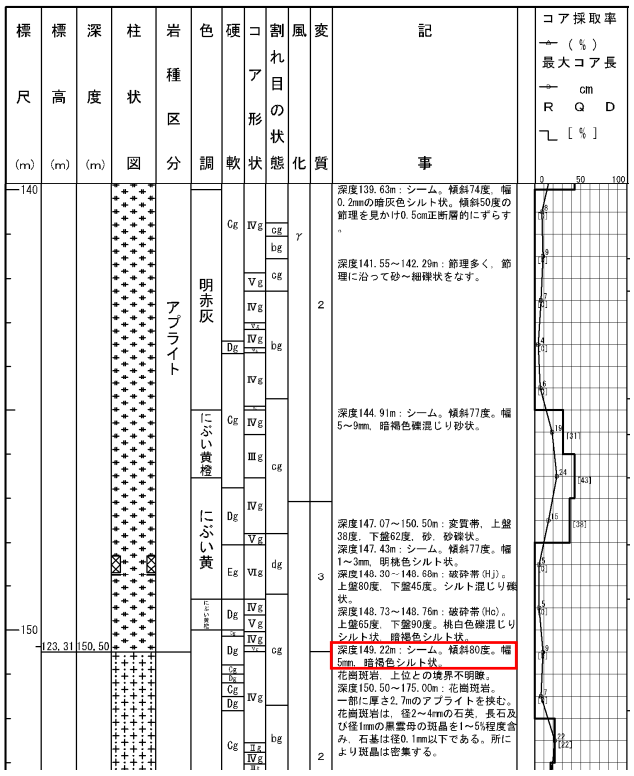
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No18孔 深度149.22m）

・シルト状を呈するが，その分布は湾曲し直線性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



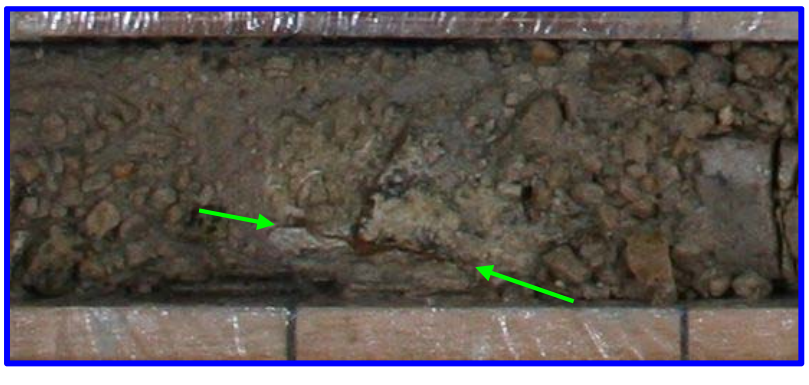
審査資料案

記事
139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。 ●148.30～148.76m(D-39破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。 ●148.30～148.76m(D-39破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度149.22m：シーム。傾斜80度。幅5mm，暗褐色シルト状。	記載なし	記載なし



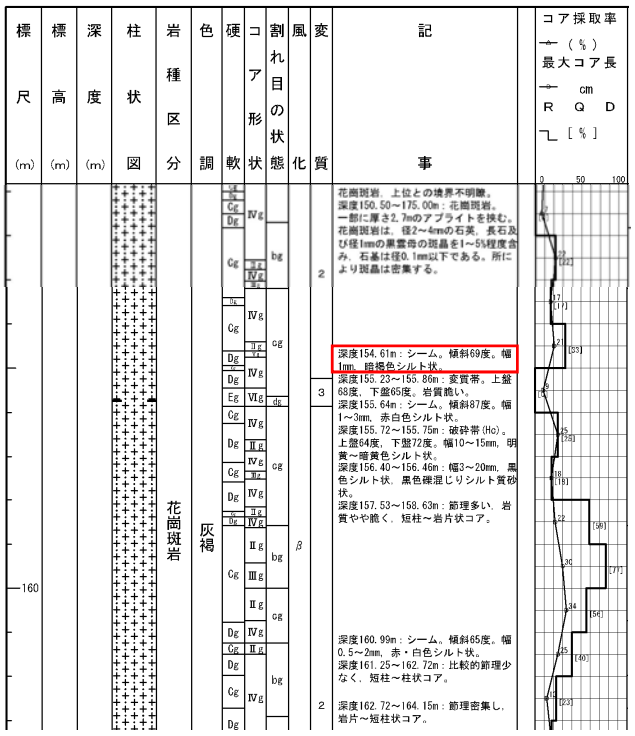
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度154.61m）

・シルト状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



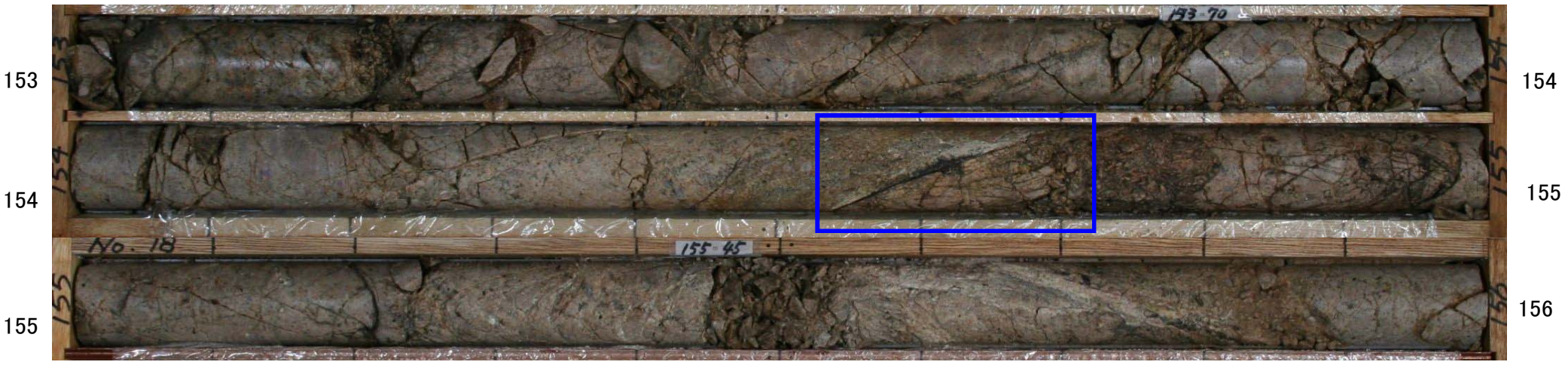
審査資料案

記事
150.50～175.00m ・花崗斑岩である。 154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。 155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。 ●155.72～155.75m ・破砕部である。 ・主に暗黄色の固結粘土状部からなる。 ・明黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN36°E76°Wである。 ・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は72°である。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
150.50～175.00m ・花崗斑岩である。 154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。 155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。 ●155.72～155.75m ・破砕部である。 ・主に暗黄色の固結粘土状部からなる。 ・明黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN36°E76°Wである。 ・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は72°である。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度154.61m：シーム。傾斜69度。幅1mm，暗褐色シルト状。	154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。	154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。



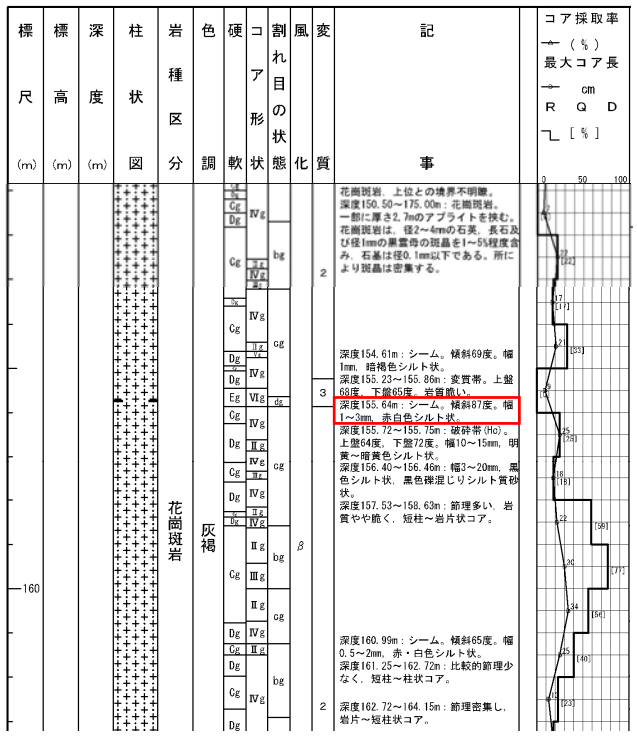
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度155.64m）

・シルト状を呈するが，その分布は湾曲し直線性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



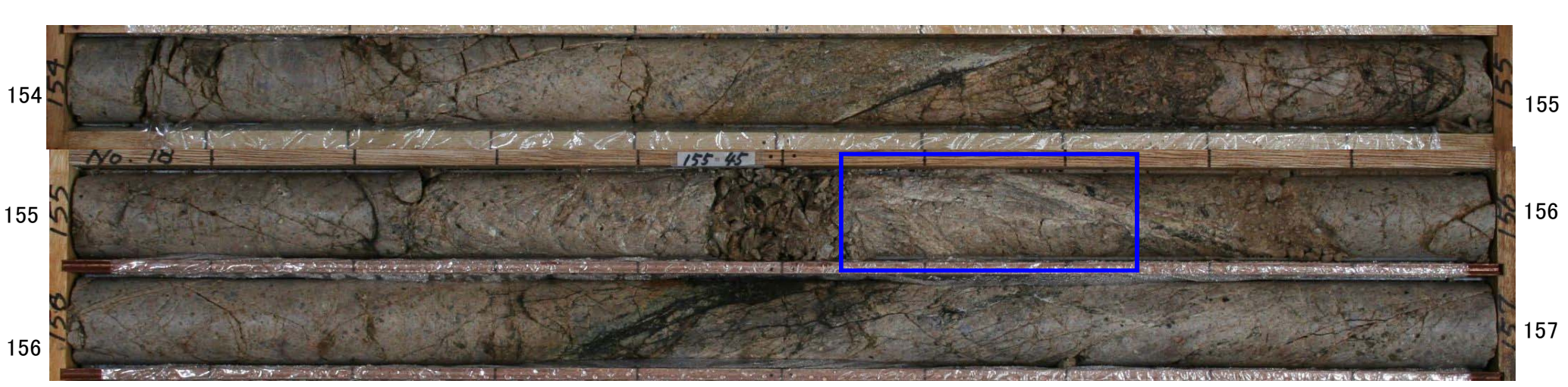
審査資料案

記事
150.50～175.00m ・花崗斑岩である。 154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。 155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。 ●155.72～155.75m ・破砕部である。 ・主に暗黄色の固結粘土状部からなる。 ・明黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN36°E76°Wである。 ・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は72°である。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
150.50～175.00m ・花崗斑岩である。 154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。 155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。 ●155.72～155.75m ・破砕部である。 ・主に暗黄色の固結粘土状部からなる。 ・明黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN36°E76°Wである。 ・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は72°である。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度155.64m：シーム。傾斜87度。幅1～3mm，赤白色シルト状。	155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。	155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。



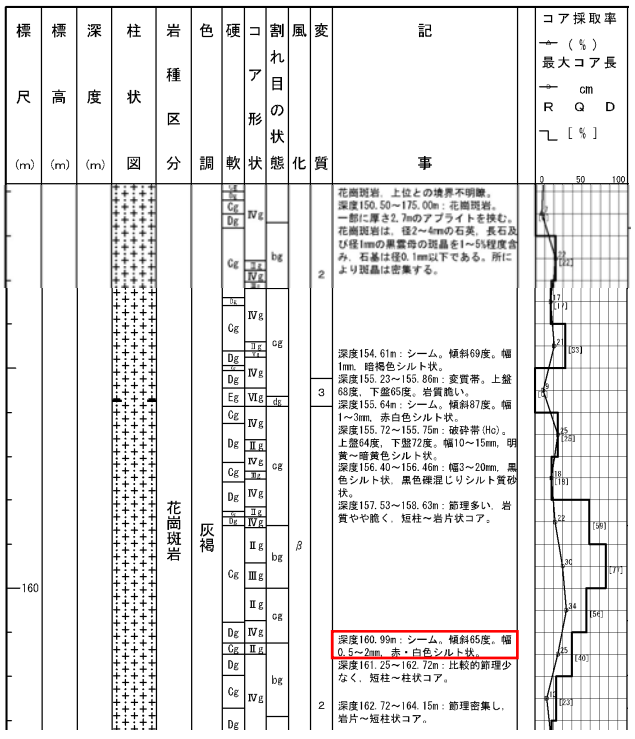
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.18孔 深度160.99m）

・シルト状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書（平成19年）



審査資料案

記事
150.50～175.00m ・花崗斑岩である。 154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。 155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。 ●155.72～155.75m ・破砕部である。 ・主に暗黄色の固結粘土状部からなる。 ・明黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN36°E76°Wである。 ・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は72°である。

審査資料（平成30年11月30日）

記事
150.50～175.00m ・花崗斑岩である。 154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。 155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。 ●155.72～155.75m ・破砕部である。 ・主に暗黄色の固結粘土状部からなる。 ・明黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN36°E76°Wである。 ・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は72°である。

委託報告書（平成19年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
深度160.99m：シーム。傾斜65度。幅0.5～2mm，赤・白色シルト状。	記載なし	記載なし

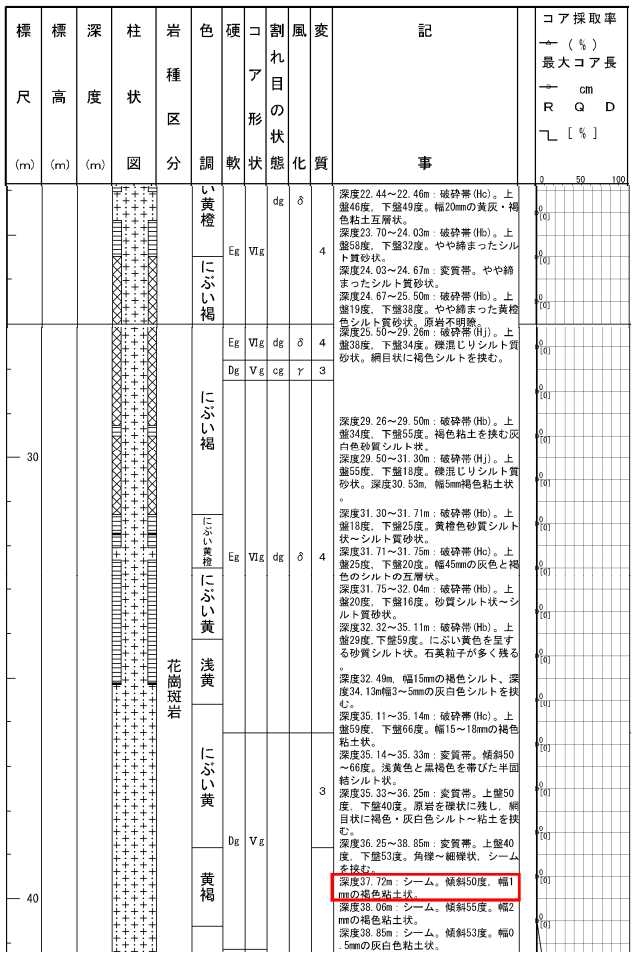
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度37.72m）

・シーム近傍の岩盤中に粒子の定向配列は認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書（平成19年）



審査資料案

記事
●22.44～22.46m ・破砕部である。 ・黄灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 ・走向・傾斜はN34° W72° Eである。 ・上端境界の傾斜は46°，下端境界の傾斜は49°である。 ●23.70～35.14m(浦底断層) ・破砕部である。 ・左ずれ逆断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm ・走向・傾斜はN41° W87° NEである。 35.14～38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状，網目状の褐色・灰白色シルト～粘土状，角礫～細礫状を呈する。

審査資料（平成30年11月30日）

記事
●22.44～22.46m ・破砕部である。 ・黄灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 ・走向・傾斜はN34° W72° Eである。 ・上端境界の傾斜は46°，下端境界の傾斜は49°である。 ●23.70～35.14m(浦底断層) ・破砕部である。 ・左ずれ逆断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm ・走向・傾斜はN41° W87° NEである。 35.14～38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状，網目状の褐色・灰白色シルト～粘土状，角礫～細礫状を呈する。

委託報告書（平成19年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
深度35.14～35.33m：変質帯。傾斜50度～66度。浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。 深度35.33～36.25m：変質帯。上盤50度，下盤40度。原岩を礫状に残し，網目状に褐色・灰白色シルト～粘土を挟む。 深度36.25～38.85m：変質帯。上盤40度，下盤53度。角礫～細礫状，シームを挟む。 深度37.72m：シーム。傾斜50度，幅1mmの褐色粘土状。 深度38.06m：シーム。傾斜55度。幅2mmの褐色粘土状。 深度38.85m：シーム。傾斜53度。幅0.5mmの灰白色粘土状。	35.14～38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状，網目状の褐色・灰白色シルト～粘土状，角礫～細礫状を呈する。	35.14～38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状，網目状の褐色・灰白色シルト～粘土状，角礫～細礫状を呈する。

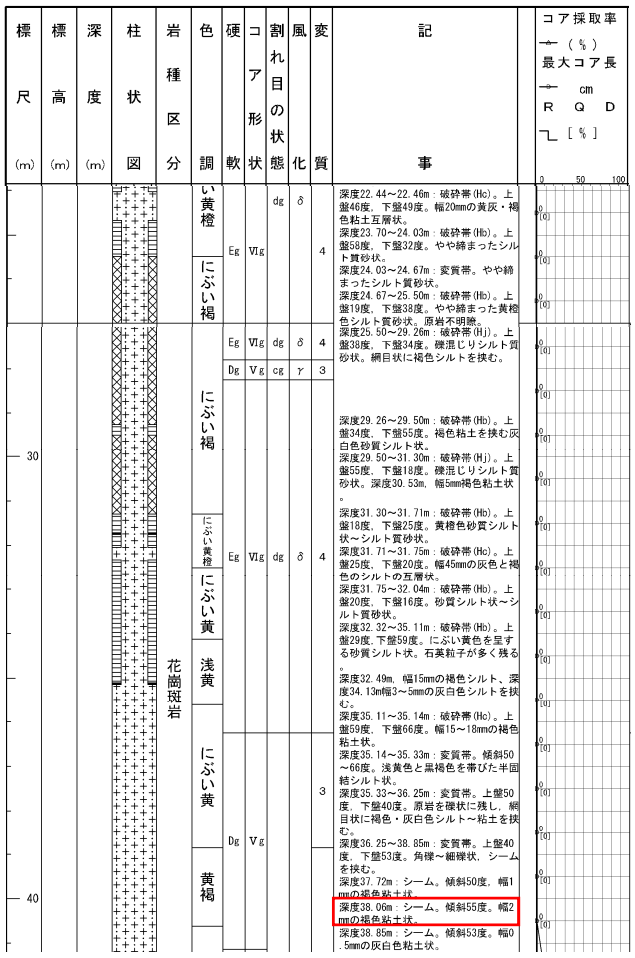
凡 例
:シーム

0 5 cm

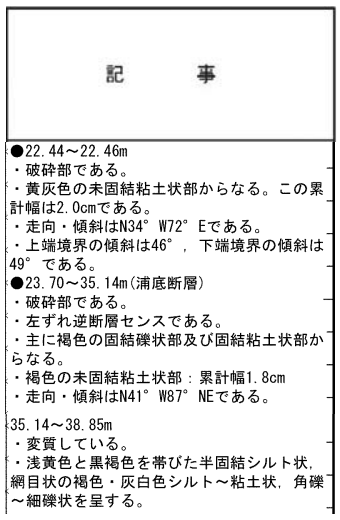
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度38.06m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

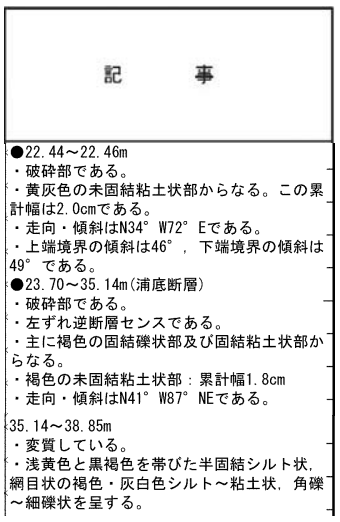
委託報告書
（平成19年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度35.14～35.33m：変質帯。傾斜50度～66度。浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。 深度35.33～36.25m：変質帯。上盤50度，下盤40度。原岩を礫状に残し，網目状に褐色・灰白色シルト～粘土を挟む。 深度36.25～38.85m：変質帯。上盤40度，下盤53度。角礫～細礫状，シームを挟む。 深度37.72m：シーム。傾斜50度，幅1mmの褐色粘土状。 深度38.06m：シーム。傾斜55度。幅2mmの褐色粘土状。 深度38.85m：シーム。傾斜53度。幅0.5mmの灰白色粘土状。	35.14～38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状，網目状の褐色・灰白色シルト～粘土状，角礫～細礫状を呈する。	35.14～38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状，網目状の褐色・灰白色シルト～粘土状，角礫～細礫状を呈する。

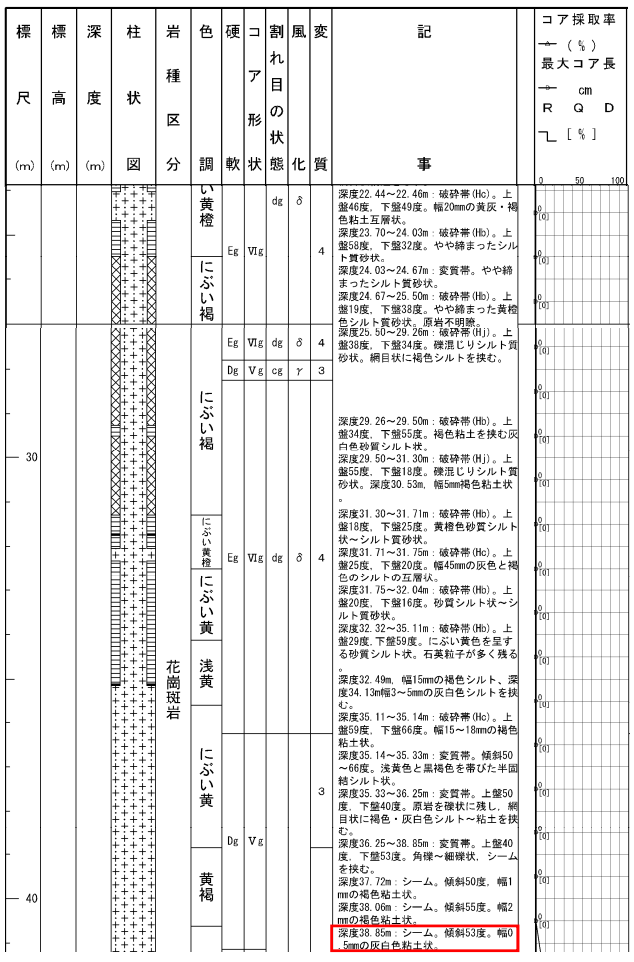
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度38.85m）

・シルト状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記　事
●22.44～22.46m ・破砕部である。 ・黄灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 ・走向・傾斜はN34°W72°Eである。 ・上端境界の傾斜は46°，下端境界の傾斜は49°である。 ●23.70～35.14m(浦底断層) ・破砕部である。 ・左ずれ逆断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm ・走向・傾斜はN41°W87°NEである。 35.14～38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状，網目状の褐色・灰白色シルト～粘土状，角礫～細礫状を呈する。

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事
●22.44～22.46m ・破砕部である。 ・黄灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 ・走向・傾斜はN34°W72°Eである。 ・上端境界の傾斜は46°，下端境界の傾斜は49°である。 ●23.70～35.14m(浦底断層) ・破砕部である。 ・左ずれ逆断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm ・走向・傾斜はN41°W87°NEである。 35.14～38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状，網目状の褐色・灰白色シルト～粘土状，角礫～細礫状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度35.14～35.33m：変質帯。傾斜50度～66度。浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。 深度35.33～36.25m：変質帯。上盤50度，下盤40度。原岩を礫状に残し，網目状に褐色・灰白色シルト～粘土を挟む。 深度36.25～38.85m：変質帯。上盤40度，下盤53度。角礫～細礫状，シームを挟む。 深度37.72m：シーム。傾斜50度，幅1mmの褐色粘土状。 深度38.06m：シーム。傾斜55度。幅2mmの褐色粘土状。 深度38.85m：シーム。傾斜53度。幅0.5mmの灰白色粘土状。	35.14～38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状，網目状の褐色・灰白色シルト～粘土状，角礫～細礫状を呈する。	35.14～38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状，網目状の褐色・灰白色シルト～粘土状，角礫～細礫状を呈する。

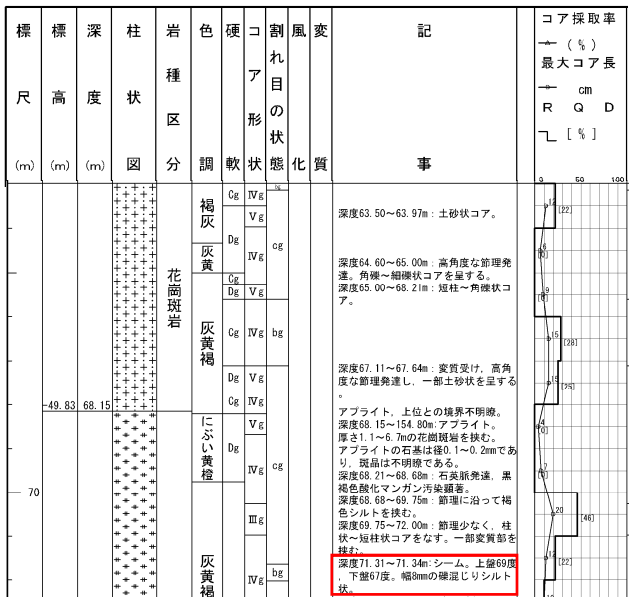
凡 例
:シーム

0 5 cm

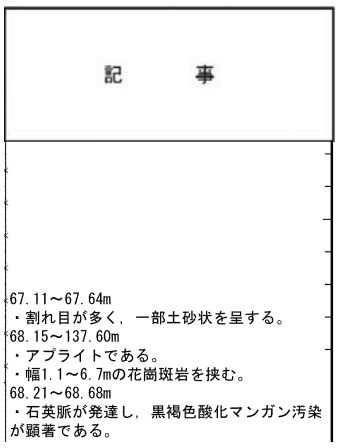
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度71.31～71.34m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

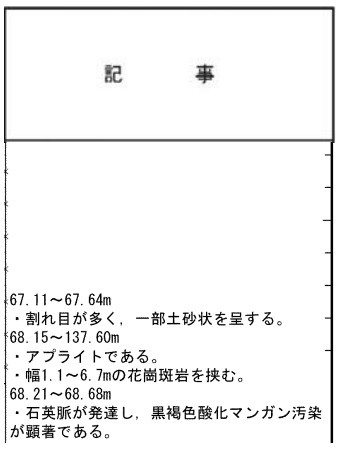
委託報告書
（平成19年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度71.31～71.34m:シーム。上盤69度，下盤67度。幅8mmの礫混じりシルト状。	記載なし	記載なし

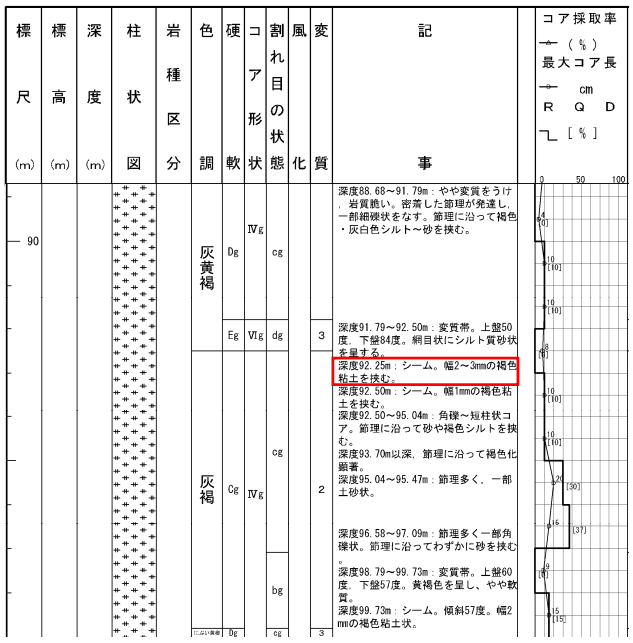
凡 例
:シーム

0 5 cm

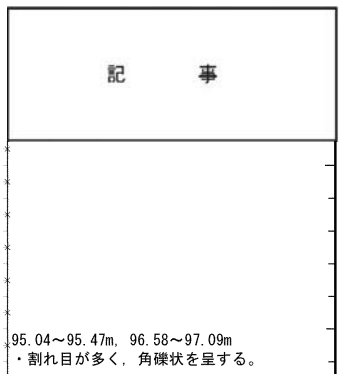
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度92.25m）

・粘土状を呈するが，その分布は湾曲し直線性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

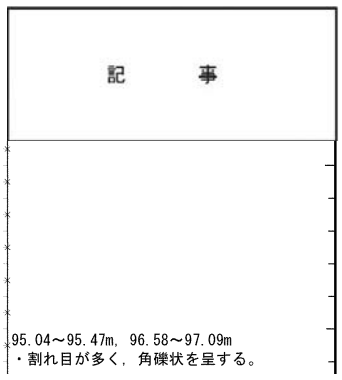
委託報告書
（平成19年）



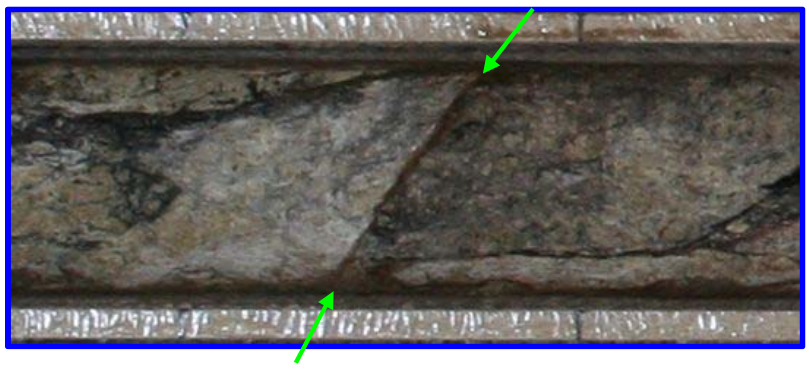
審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度92.25m：シーム。幅2～3mmの褐色粘土を挟む。	記載なし	記載なし



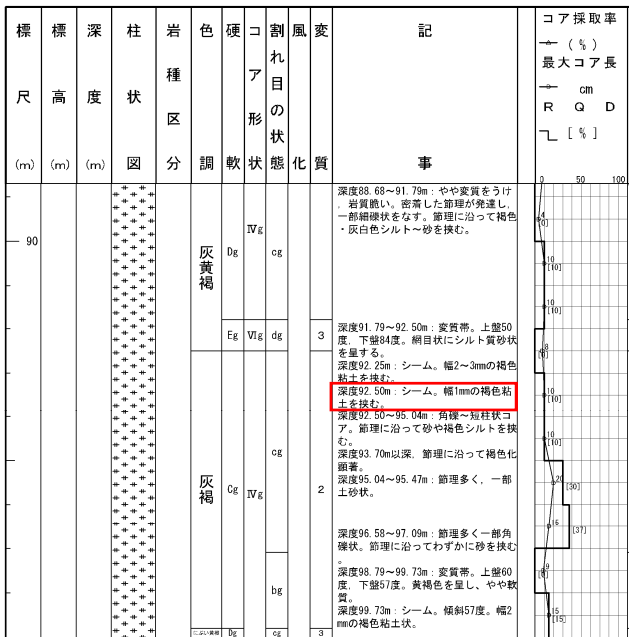
凡 例
:シーム

0 5 cm

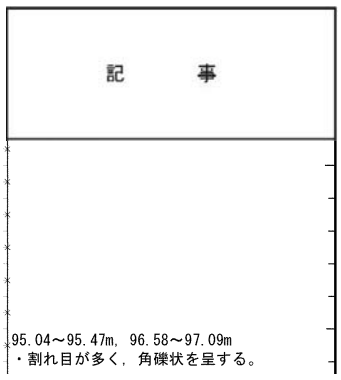
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度92.50m）

・粘土状を呈するが，その分布は湾曲・殲滅し直線性・連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

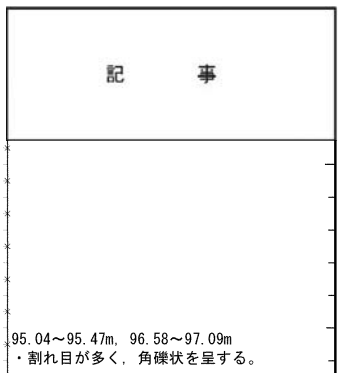
委託報告書
（平成19年）



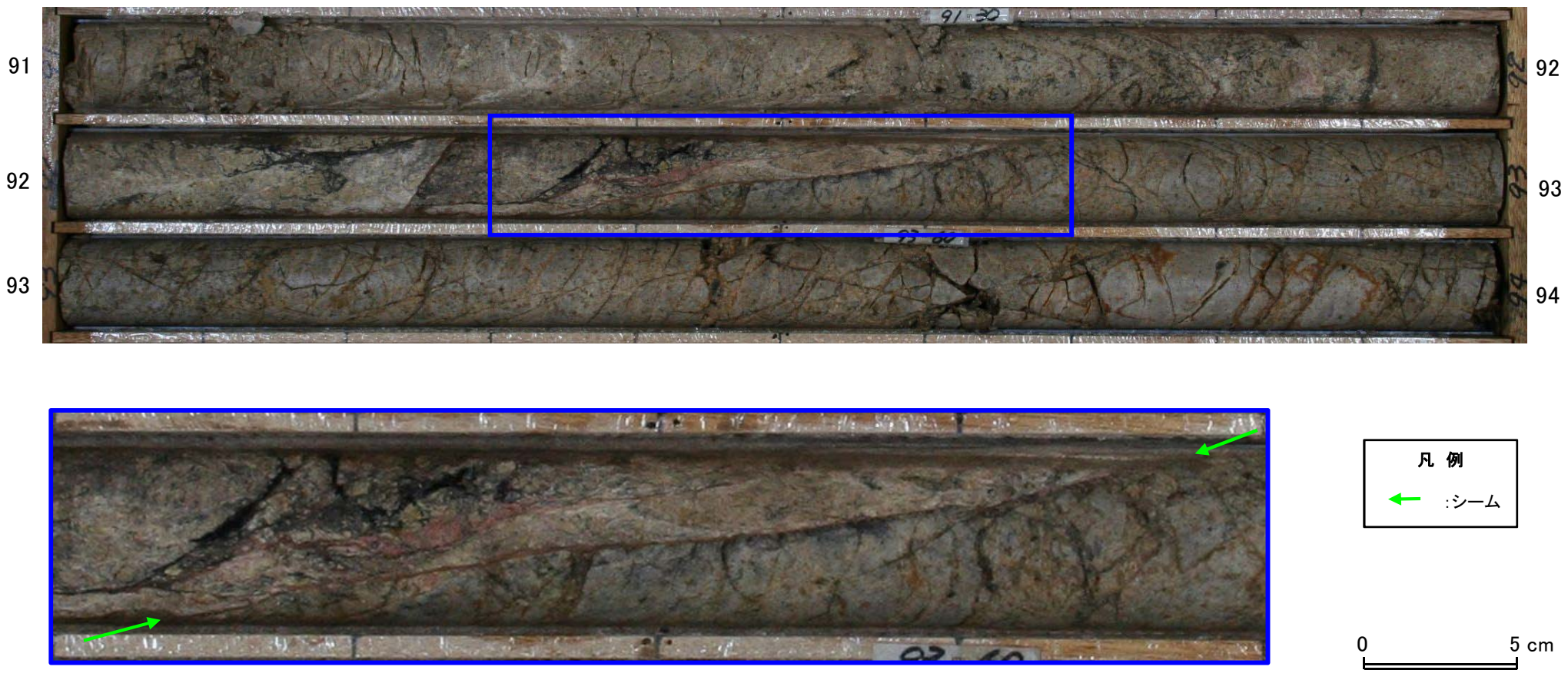
審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



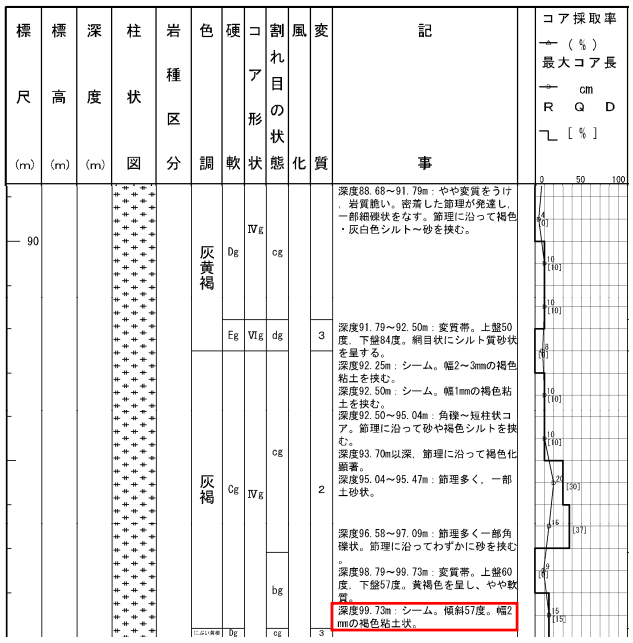
委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度92.50m：シーム。幅1mmの褐色粘土を挟む。	記載なし	記載なし



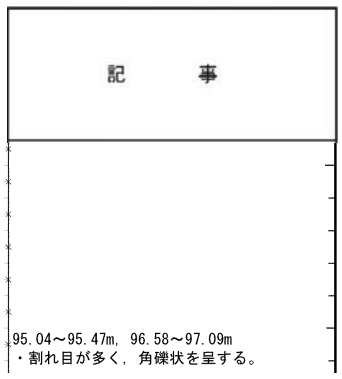
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度99.73m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

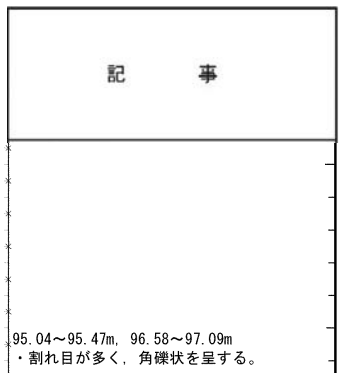
委託報告書
（平成19年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度99.73m：シーム。傾斜57度。幅2mmの褐色粘土状。	記載なし	記載なし

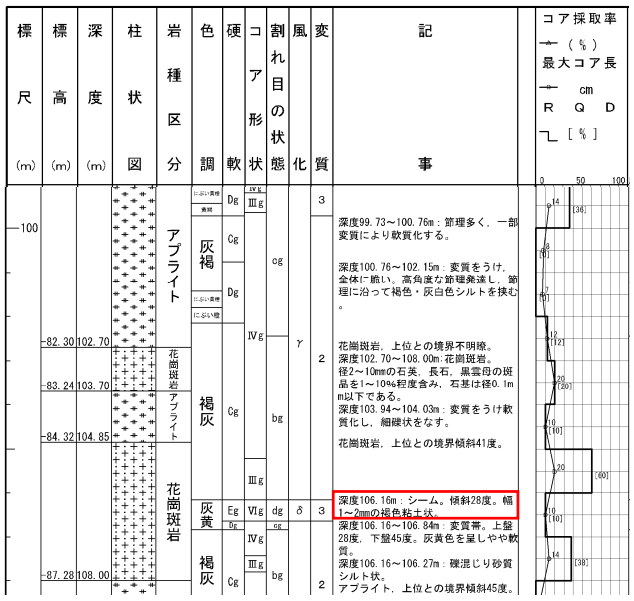
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度106.16m）

・粘土状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



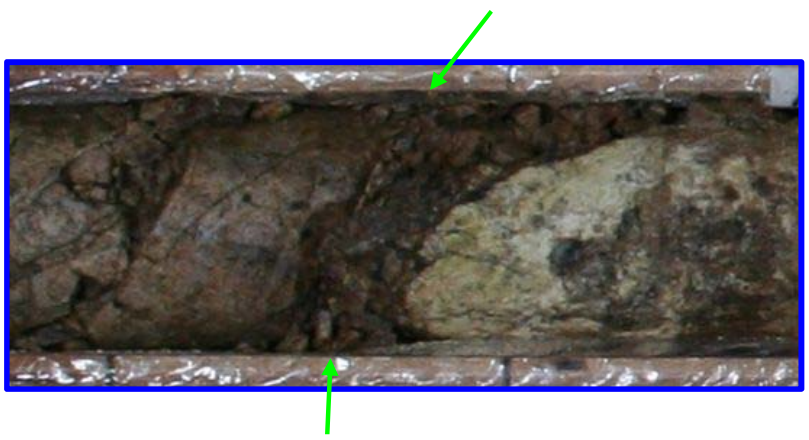
審査資料案

記事
99.73～100.76m ・割れ目が多く，短柱状を呈する。 100.76～102.15m ・変質している。 102.70～103.70m，104.85～108.00m ・花崗斑岩を挟む。 103.94～104.03m ・変質している。 ・細礫状を呈する。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
99.73～100.76m ・割れ目が多く，短柱状を呈する。 100.76～102.15m ・変質している。 102.70～103.70m，104.85～108.00m ・花崗斑岩を挟む。 103.94～104.03m ・変質している。 ・細礫状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度106.16m：シーム。傾斜28度。幅1～2mmの褐色粘土状。	記載なし	記載なし



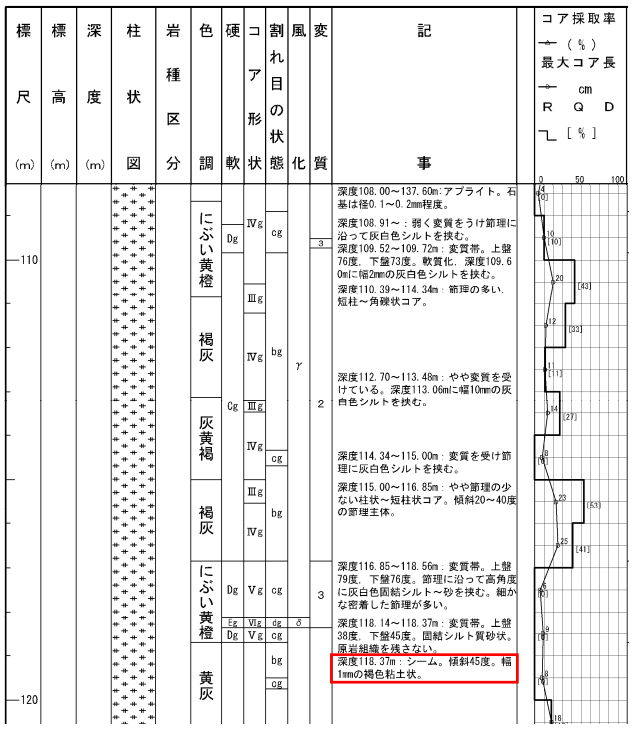
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度118.37m）

・シーム近傍の岩盤中に粒子の定向配列は認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
109.52～109.72m ・変質している。 ・灰白色シルト状を呈する。
116.85～118.56m ・変質している。 ・灰白色固結シルト～砂状を呈する。
118.14～118.37m ・変質している。 ・固結シルト質砂状である。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
109.52～109.72m ・変質している。 ・灰白色シルト状を呈する。
116.85～118.56m ・変質している。 ・灰白色固結シルト～砂状を呈する。
118.14～118.37m ・変質している。 ・固結シルト質砂状である。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度118.37m：シーム。傾斜45度。幅1mmの褐色粘土状。	記載なし	記載なし

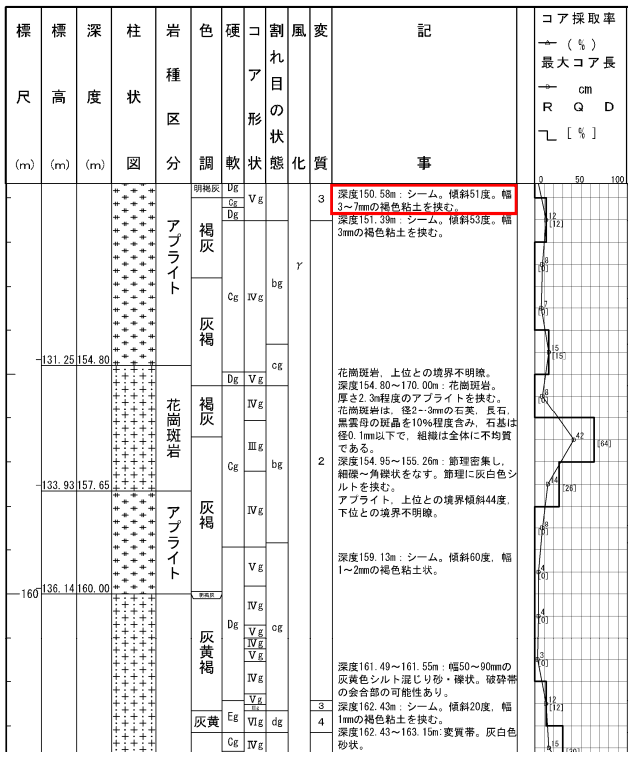
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度150.58m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



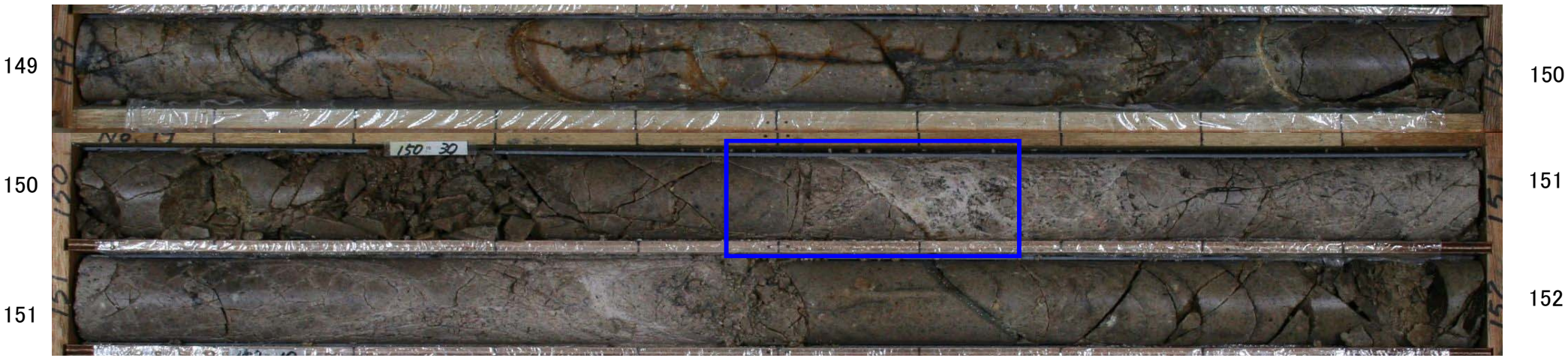
審査資料案

記事
154.80～170.00m ・花崗斑岩である。 154.95～155.26m ・割れ目が密集し，細礫～角礫状を呈する。 157.65～160.00m ・アプライトである。   162.43～163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
154.80～170.00m ・花崗斑岩である。 154.95～155.26m ・割れ目が密集し，細礫～角礫状を呈する。 157.65～160.00m ・アプライトである。   162.43～163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度150.58m：シーム。傾斜51度。幅3～7mmの褐色粘土を挟む。	記載なし	記載なし



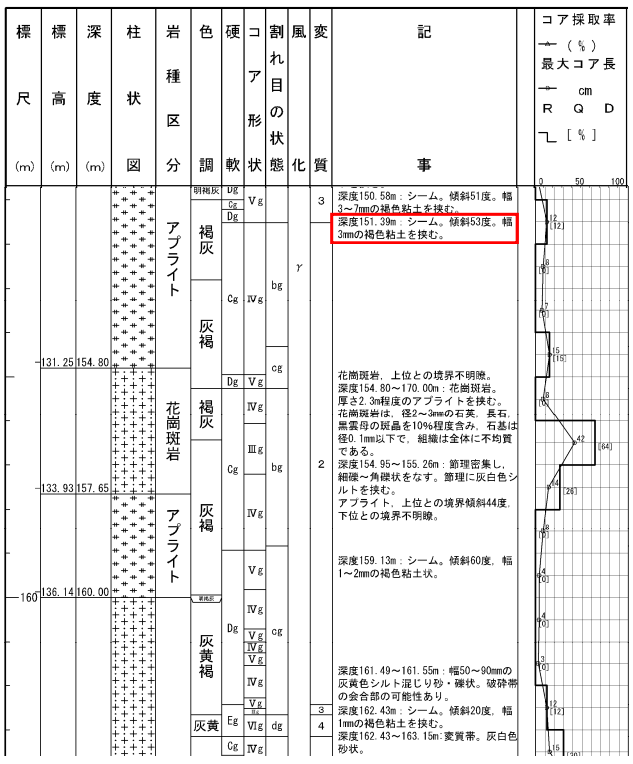
凡 例
:シーム

0 5 cm

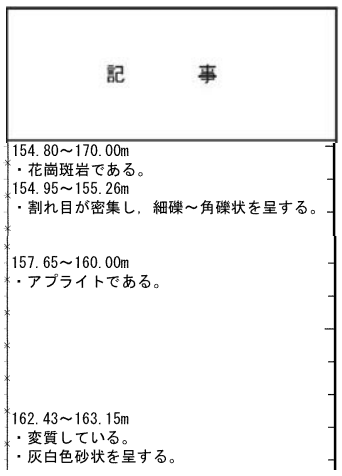
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度151.39m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

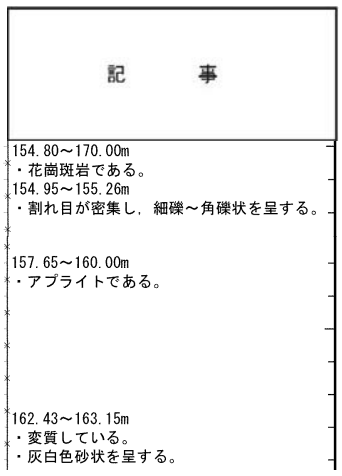
委託報告書
（平成19年）



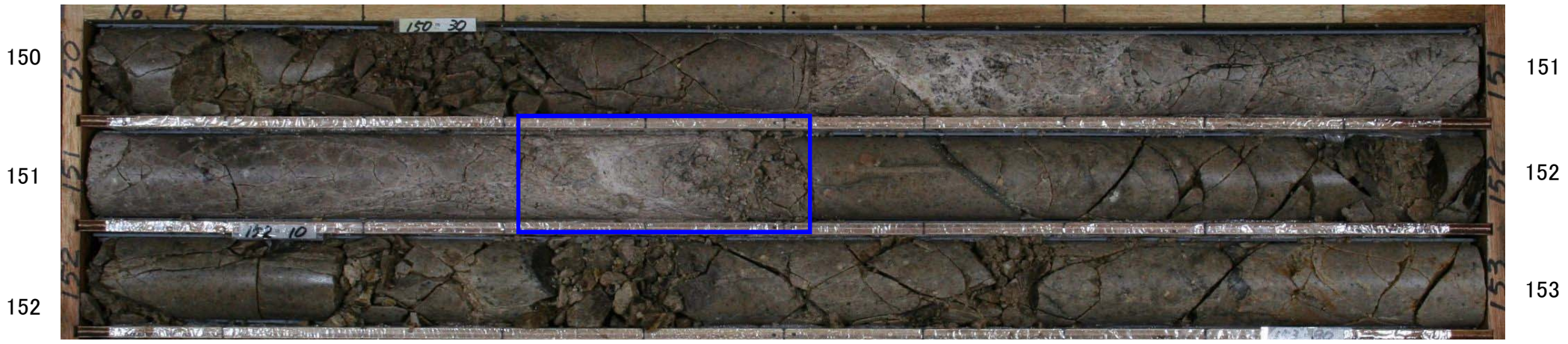
審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度151.39m：シーム。傾斜53度。幅3mmの褐色粘土を挟む。	記載なし	記載なし



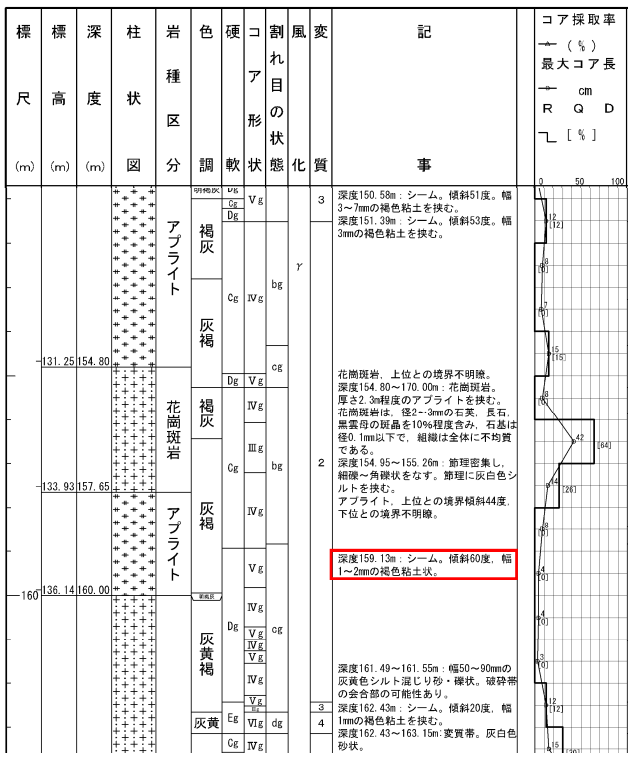
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度159.13m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



審査資料案

記事
154.80～170.00m ・花崗斑岩である。 154.95～155.26m ・割れ目が密集し，細礫～角礫状を呈する。 157.65～160.00m ・アプライトである。 162.43～163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
154.80～170.00m ・花崗斑岩である。 154.95～155.26m ・割れ目が密集し，細礫～角礫状を呈する。 157.65～160.00m ・アプライトである。 162.43～163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度159.13m：シーム。傾斜60度，幅1～2mmの褐色粘土状。	記載なし	記載なし

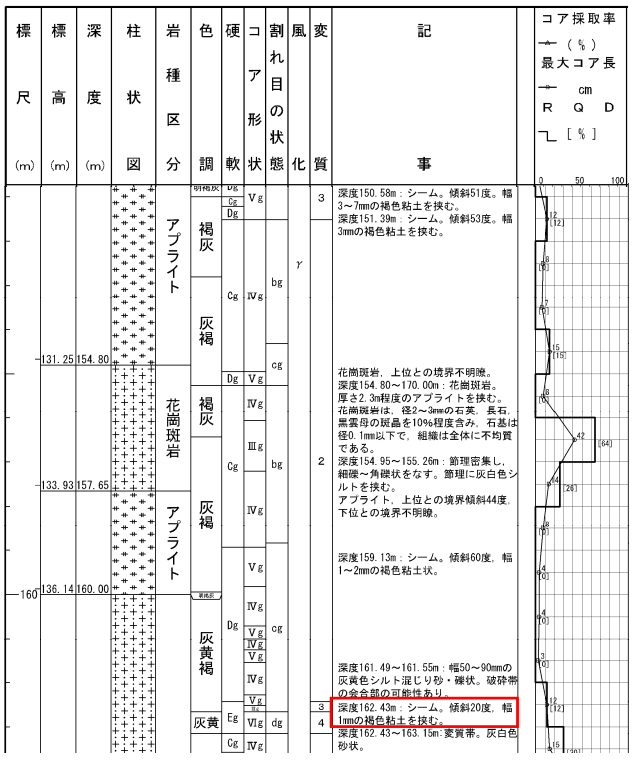
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度162.43m）

・粘土状を呈するが，その分布は膨縮し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成19年）



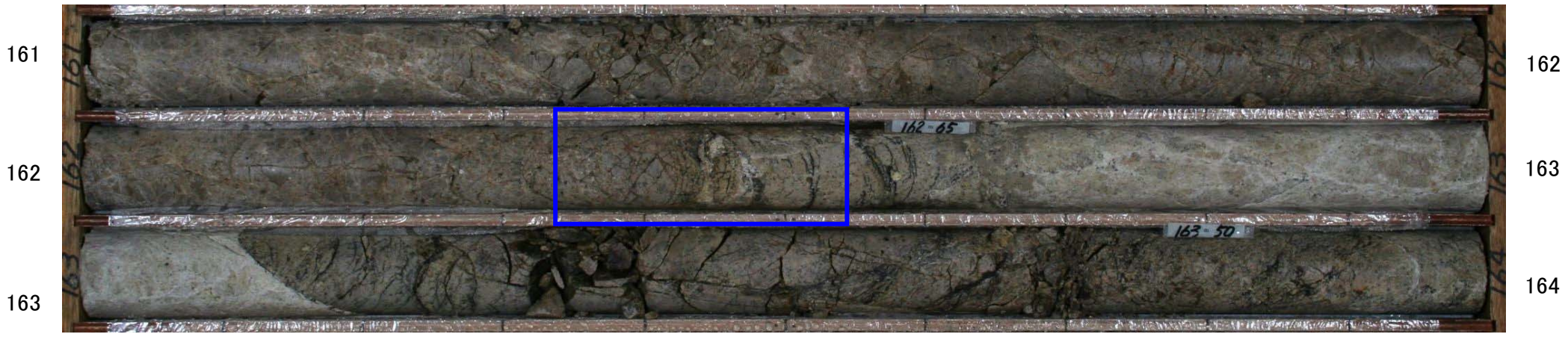
審査資料案

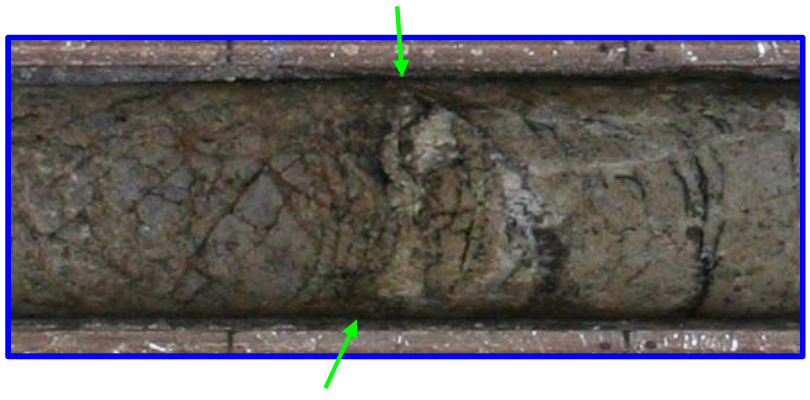
記事
154.80～170.00m ・花崗斑岩である。 154.95～155.26m ・割れ目が密集し，細礫～角礫状を呈する。 157.65～160.00m ・アプライトである。   162.43～163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
154.80～170.00m ・花崗斑岩である。 154.95～155.26m ・割れ目が密集し，細礫～角礫状を呈する。 157.65～160.00m ・アプライトである。   162.43～163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。

委託報告書 （平成19年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
深度162.43m：シーム。傾斜20度，幅1mmの褐色粘土を挟む。	記載なし	記載なし





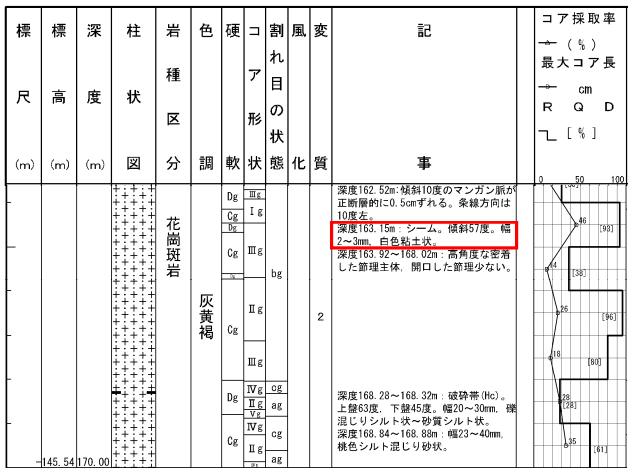
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H19-No.19孔 深度163.15m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書（平成19年）



審査資料案

記事
162.43～163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。 ●168.28～168.32m ・破砕部である。 ・主に明青灰色の固結粘土状部からなる。 ・明青灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・上端境界の傾斜は63°，下端境界の傾斜は45°である。

審査資料（平成30年11月30日）

記事
162.43～163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。 ●168.28～168.32m ・破砕部である。 ・主に明青灰色の固結粘土状部からなる。 ・明青灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・上端境界の傾斜は63°，下端境界の傾斜は45°である。

委託報告書（平成19年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
深度163.15m：シーム。傾斜57度。幅2～3mm，白色粘土状。	記載なし	記載なし

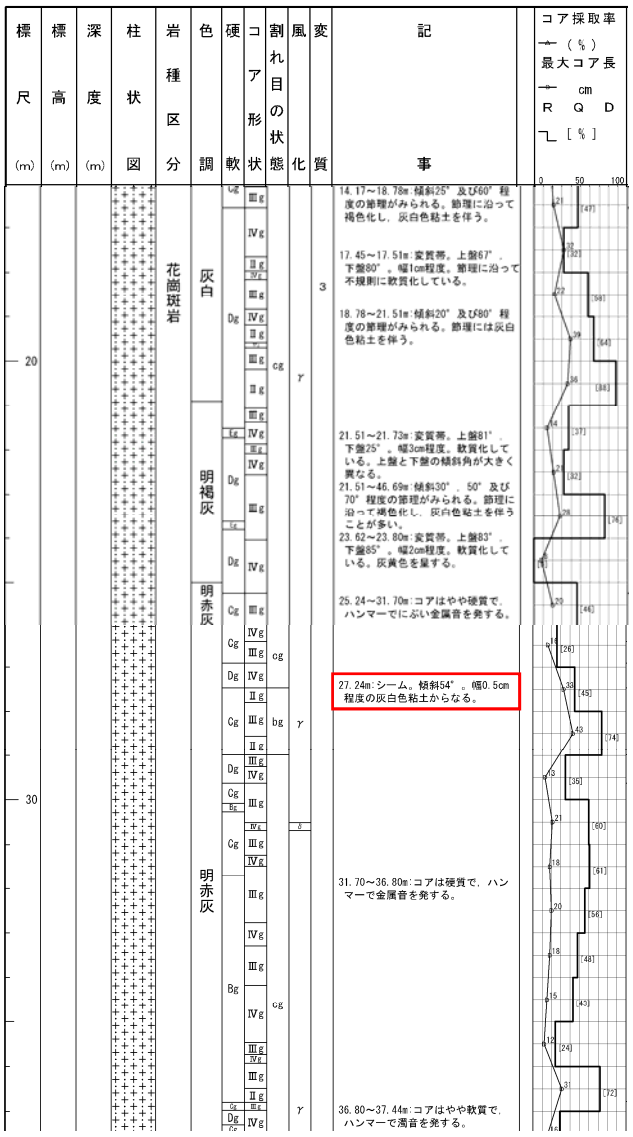
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-1孔 深度27.24m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書（平成20年）



審査資料案

記事
14.17～18.78m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。 17.45～17.51m ・変質している。 ・割れ目沿いに軟質化する。 18.78～21.51m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。 21.51～21.73m ・変質している。 ・軟質化する。 21.51～46.69m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴うことが多い。 ●23.62～24.62m(D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25° E72° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は81°，下端境界の傾斜は25°である。 25.24～31.70m ・やや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。 27.24m ・幅0.5cmの灰白色粘土からなる。 31.70～36.80m ・硬質で，ハンマーで金属音を発する。 36.80～37.44m ・やや軟質で，ハンマーで濁音を発する。

審査資料（平成30年11月30日）

記事
14.17～18.78m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。 17.45～17.51m ・変質している。 ・割れ目沿いに軟質化する。 18.78～21.51m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。 21.51～21.73m ・変質している。 ・軟質化する。 21.51～46.69m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴うことが多い。 ●23.62～24.62m(D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25° E72° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は81°，下端境界の傾斜は25°である。 25.24～31.70m ・やや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。 27.24m ・幅0.5cmの灰白色粘土からなる。 31.70～36.80m ・硬質で，ハンマーで金属音を発する。 36.80～37.44m ・やや軟質で，ハンマーで濁音を発する。

委託報告書（平成20年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
27.24m:シーム。傾斜54°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。	27.24m ・幅0.5cmの灰白色粘土からなる。	27.24m ・幅0.5cmの灰白色粘土からなる。

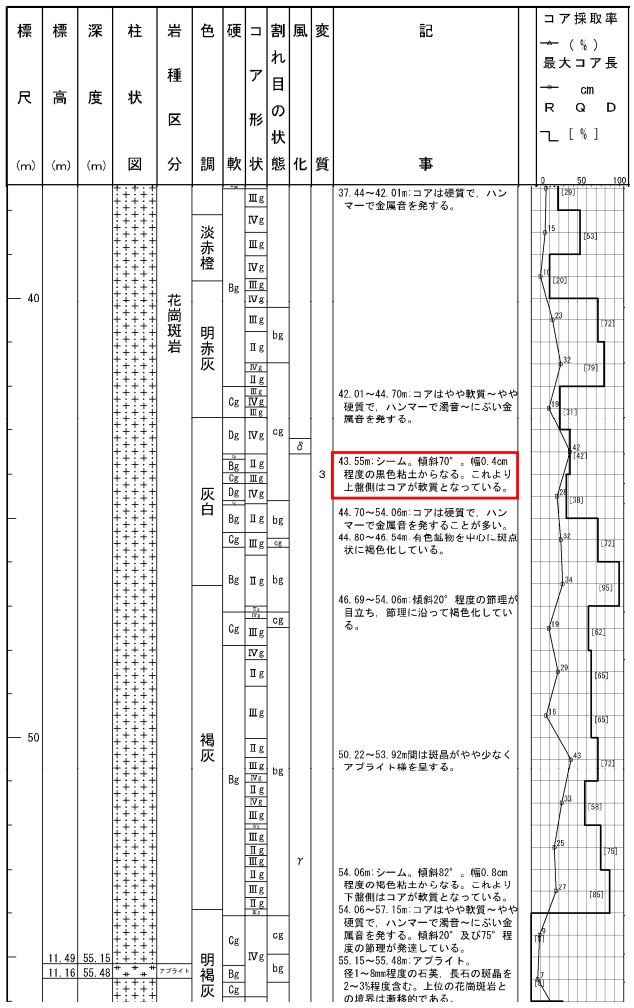
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-1孔 深度43.55m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書（平成20年）



審査資料案

記事
37.44～42.01m ・硬質で，ハンマーで金属音を発する。 42.01～44.70m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。 44.70～54.06m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 44.80～46.54m ・有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。 46.69～54.06m ・割れ目沿いに褐色化している。 50.22～53.92m ・斑晶がやや少なく，アプライト様を呈する。 54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。 54.06～57.15m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 55.15～55.48m ・アプライトである。

審査資料（平成30年11月30日）

記事
37.44～42.01m ・硬質で，ハンマーで金属音を発する。 42.01～44.70m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。 44.70～54.06m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 44.80～46.54m ・有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。 46.69～54.06m ・割れ目沿いに褐色化している。 50.22～53.92m ・斑晶がやや少なく，アプライト様を呈する。 54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。 54.06～57.15m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 55.15～55.48m ・アプライトである。

委託報告書（平成20年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
43.55m:シーム。傾斜70°。幅0.4cm程度の黒色粘土からなる。これより上盤側はコアが軟質となっている。	43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。	43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。

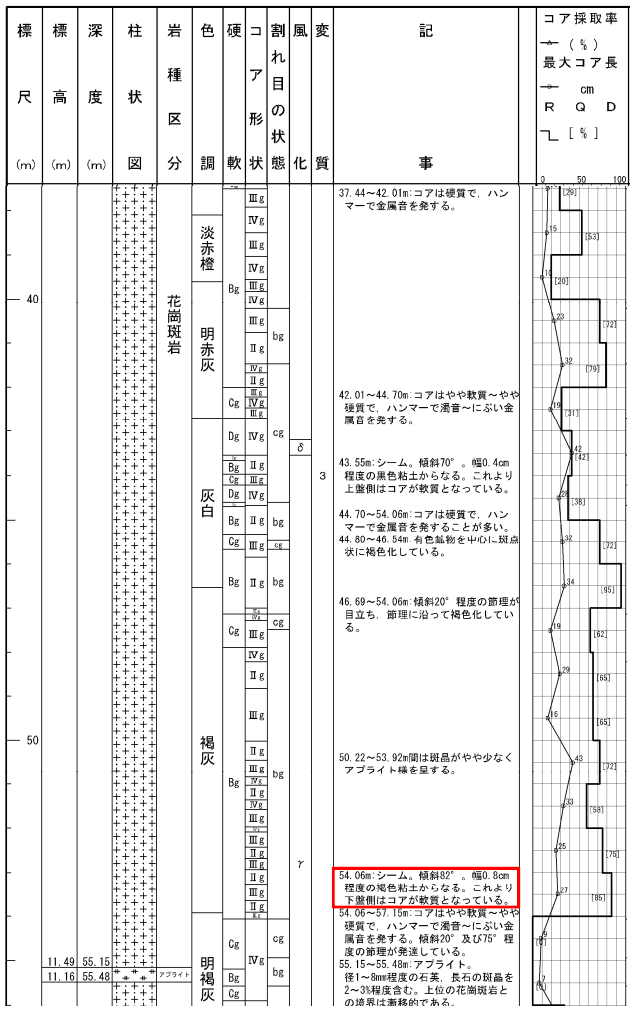
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-1孔 深度54.06m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書（平成20年）



審査資料案

記事
37.44～42.01m ・硬質で，ハンマーで金属音を発する。 42.01～44.70m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。 44.70～54.06m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 44.80～46.54m ・有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。 46.69～54.06m ・割れ目沿いに褐色化している。 50.22～53.92m ・斑晶がやや少なく，アプライト様を呈する。 54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。 54.06～57.15m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 55.15～55.48m ・アプライトである。

審査資料（平成30年11月30日）

記事
37.44～42.01m ・硬質で，ハンマーで金属音を発する。 42.01～44.70m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。 44.70～54.06m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 44.80～46.54m ・有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。 46.69～54.06m ・割れ目沿いに褐色化している。 50.22～53.92m ・斑晶がやや少なく，アプライト様を呈する。 54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。 54.06～57.15m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 55.15～55.48m ・アプライトである。

委託報告書（平成20年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
54.06m:シーム。傾斜82°。幅0.8cm程度の褐色粘土からなる。これより下盤側はコアが軟質となっている。	54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。	54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。

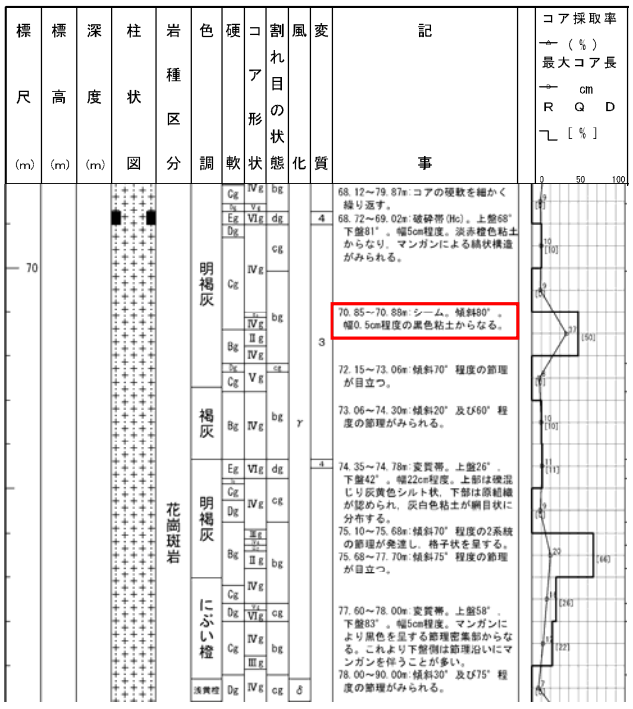
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-1孔 深度70.85～70.88m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書（平成20年）



審査資料案

記事

68.12～79.87m
・硬軟を細かく繰り返す。
●68.72～69.02m(f-①-1-3破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・主に淡赤橙色の固結礫状部からなる。
・淡赤橙色の未固結粘土状部：累計幅4.7cm
・走向・傾斜はN36° E66° Wである。
・上端境界の傾斜は68°，下端境界の傾斜は81°である。
・マンガンの縞状構造を伴う。
70.85～70.88m
・幅0.5cmの黒色粘土からなる。
72.15～73.06m
・割れ目が目立つ。
73.06～74.30m
・割れ目が分布する。
74.35～74.78m
・変質している。
・上部は灰黄色の礫混じりシルト状，下部は灰白色粘土が網目状に分布する。
75.10～75.68m
・2系統の割れ目が発達し，格子状を呈する。
75.68～77.70m
・割れ目が目立つ。
77.60～78.00m
・変質している。
・マンガンを伴う割れ目密集部である。
78.00～90.00m
・割れ目が分布する。

審査資料（平成30年11月30日）

記事

68.12～79.87m
・硬軟を細かく繰り返す。
●68.72～69.02m(f-①-1-3破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・主に淡赤橙色の固結礫状部からなる。
・淡赤橙色の未固結粘土状部：累計幅4.7cm
・走向・傾斜はN36° E66° Wである。
・上端境界の傾斜は68°，下端境界の傾斜は81°である。
・マンガンの縞状構造を伴う。
70.85～70.88m
・幅0.5cmの黒色粘土からなる。
72.15～73.06m
・割れ目が目立つ。
73.06～74.30m
・割れ目が分布する。
74.35～74.78m
・変質している。
・上部は灰黄色の礫混じりシルト状，下部は灰白色粘土が網目状に分布する。
75.10～75.68m
・2系統の割れ目が発達し，格子状を呈する。
75.68～77.70m
・割れ目が目立つ。
77.60～78.00m
・変質している。
・マンガンを伴う割れ目密集部である。
78.00～90.00m
・割れ目が分布する。

委託報告書（平成20年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
70.85～70.88m:シーム。傾斜80°。幅0.5cm程度の黒色粘土からなる。	70.85～70.88m ・幅0.5cm程度の黒色粘土からなる。	70.85～70.88m ・幅0.5cm程度の黒色粘土からなる。

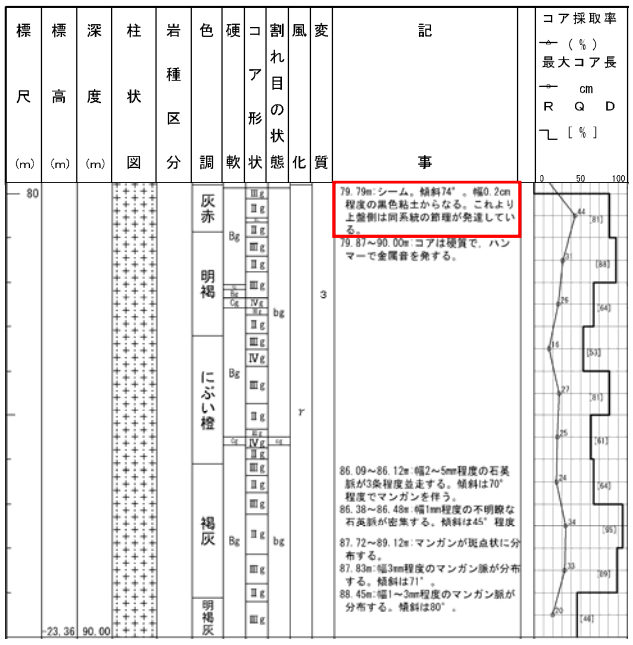
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-1孔 深度79.79m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記事
79.79m ・幅0.2cmの黒色粘土からなる。 79.87～90.00m ・硬質で，ハンマーで金属音を発する。 86.09～86.12m ・幅2～5mmの石英脈が3条程度並走する。 ・マンガンを伴う。 86.38～86.48m ・幅約1mmの不明瞭な石英脈が密集する。 87.72～89.12m ・マンガンが斑点状に分布する。 87.83m ・幅約3mmのマンガン脈が分布する。 88.45m ・幅1～3mmのマンガン脈が分布する。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
79.79m ・幅0.2cmの黒色粘土からなる。 79.87～90.00m ・硬質で，ハンマーで金属音を発する。 86.09～86.12m ・幅2～5mmの石英脈が3条程度並走する。 ・マンガンを伴う。 86.38～86.48m ・幅約1mmの不明瞭な石英脈が密集する。 87.72～89.12m ・マンガンが斑点状に分布する。 87.83m ・幅約3mmのマンガン脈が分布する。 88.45m ・幅1～3mmのマンガン脈が分布する。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
79.79m:シーム。傾斜74°。幅0.2cm程度の黒色粘土からなる。 これより上盤側は同系統の節理が発達している。	79.79m ・幅0.2cmの黒色粘土からなる。	79.79m ・幅0.2cmの黒色粘土からなる。

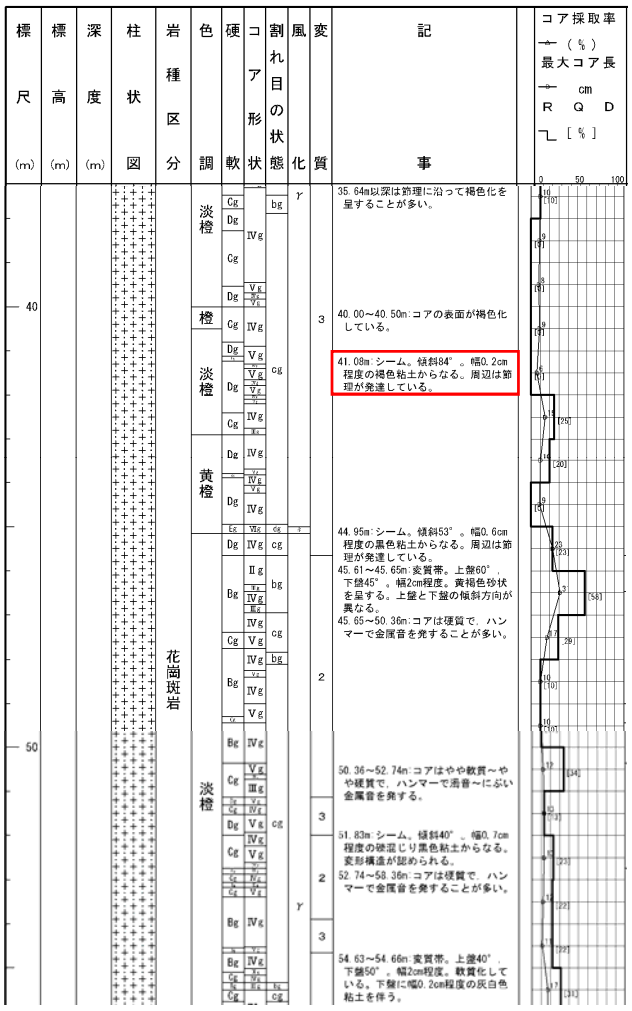
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-2孔 深度41.08m）

・粘土状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記事
35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 40.00～40.50m ・コアの表面が褐色化している。 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 45.61～45.65m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は45°である。 45.65～50.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 50.36～52.74m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 52.74～58.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 54.63～54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 40.00～40.50m ・コアの表面が褐色化している。 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 45.61～45.65m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は45°である。 45.65～50.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 50.36～52.74m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 52.74～58.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 54.63～54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
41.08m:シーム。傾斜84°。幅0.2cm程度の褐色粘土からなる。 周辺は節理が発達している。	41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。	41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。

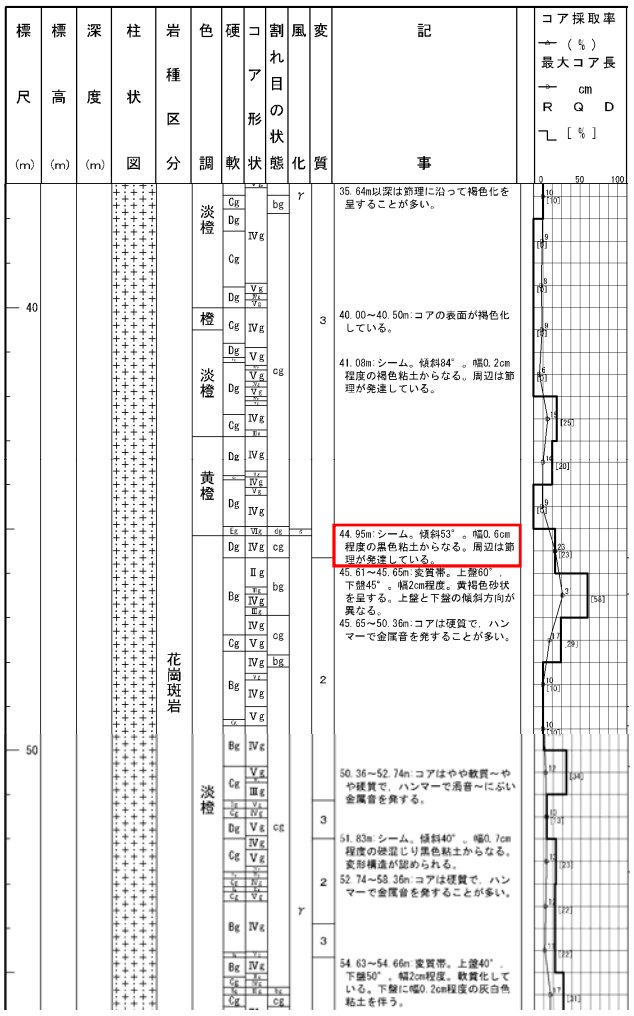
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-2孔 深度44.95m）

・一部で礫混じり粘土状を呈するが，礫に定向配列は認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記事
35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 40.00～40.50m ・コアの表面が褐色化している。 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 45.61～45.65m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は45°である。 45.65～50.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 50.36～52.74m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 52.74～58.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 54.63～54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 40.00～40.50m ・コアの表面が褐色化している。 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 45.61～45.65m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は45°である。 45.65～50.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 50.36～52.74m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 52.74～58.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 54.63～54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
44.95m:シーム。傾斜53°。幅0.6cm程度の黒色粘土からなる。 周辺は節理が発達している。	44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。	44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。

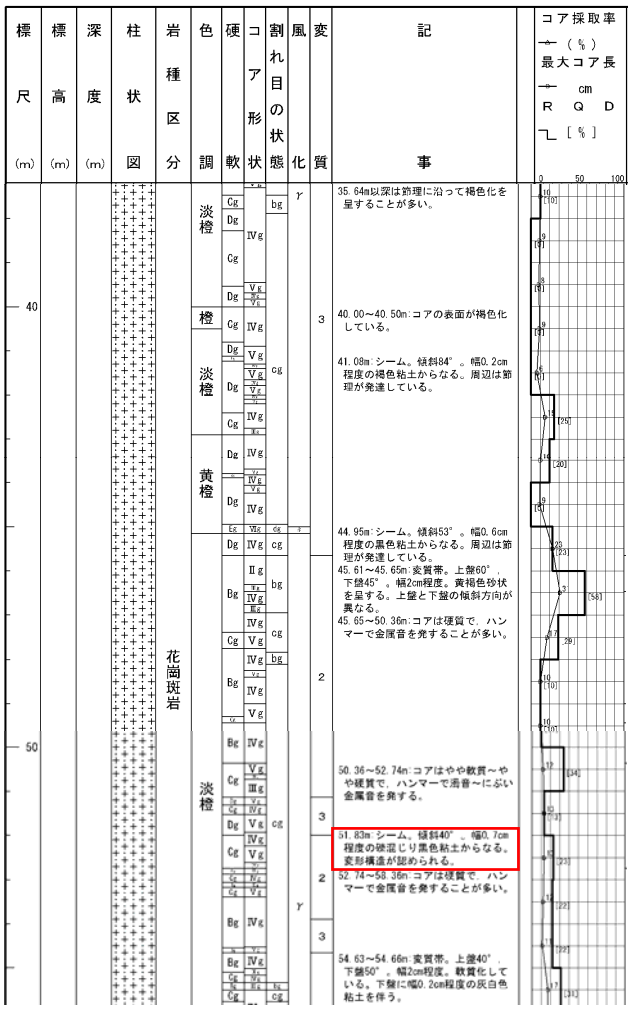
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-2孔 深度51.83m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記事
35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 40.00～40.50m ・コアの表面が褐色化している。 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 45.61～45.65m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は45°である。 45.65～50.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 50.36～52.74m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 52.74～58.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 54.63～54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 40.00～40.50m ・コアの表面が褐色化している。 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 45.61～45.65m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は45°である。 45.65～50.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 50.36～52.74m ・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 52.74～58.36m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 54.63～54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
51.83m:シーム。傾斜40°。幅0.7cm程度の礫混じり黒色粘土からなる。変形構造が認められる。	51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。	51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。

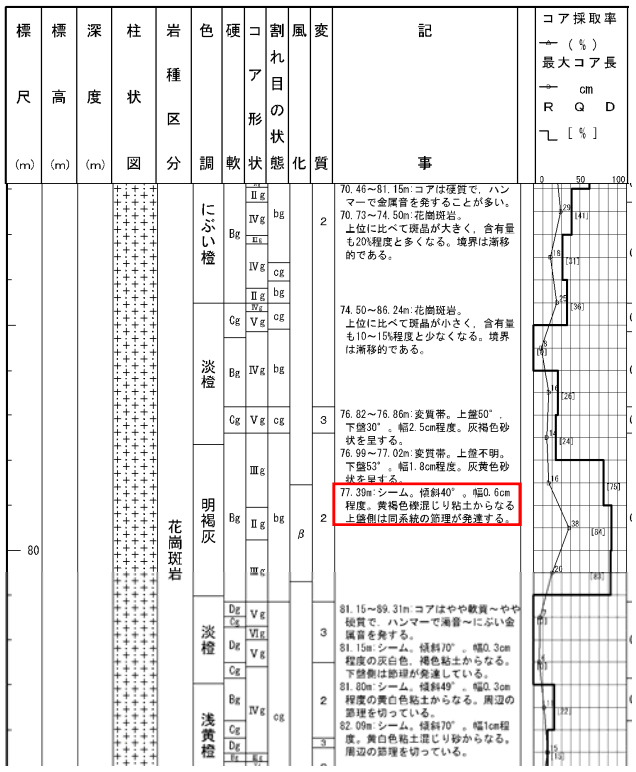
凡 例
:シーム

0 5 cm

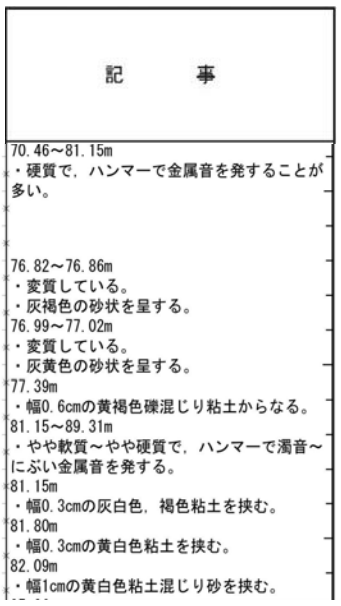
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-2孔 深度77.39m）

・シームと同系統の節理は連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

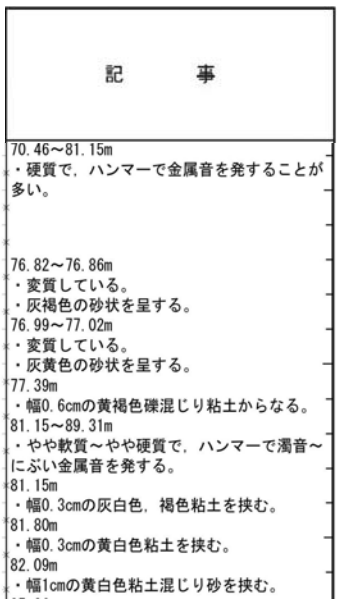


記　事

70.46～81.15m
・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。

76.82～76.86m
・変質している。
・灰褐色の砂状を呈する。
76.99～77.02m
・変質している。
・灰黄色の砂状を呈する。
77.39m
・幅0.6cmの黄褐色礫混じり粘土からなる。
81.15～89.31m
・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
81.15m
・幅0.3cmの灰白色，褐色粘土を挟む。
81.80m
・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。
82.09m
・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。

審査資料
（平成30年11月30日）

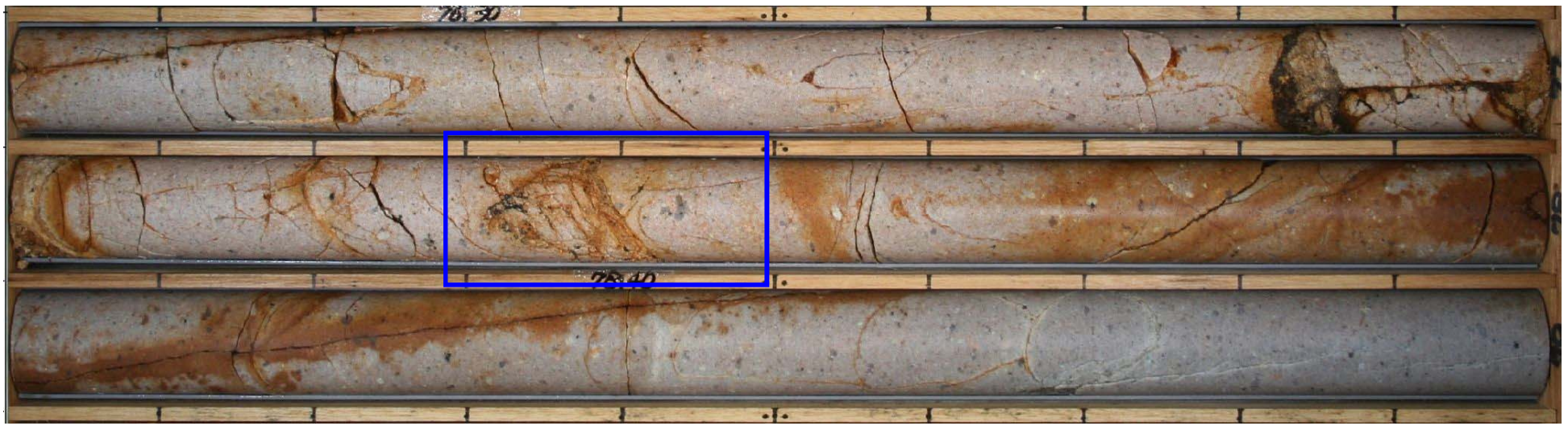


記　事

70.46～81.15m
・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。

76.82～76.86m
・変質している。
・灰褐色の砂状を呈する。
76.99～77.02m
・変質している。
・灰黄色の砂状を呈する。
77.39m
・幅0.6cmの黄褐色礫混じり粘土からなる。
81.15～89.31m
・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
81.15m
・幅0.3cmの灰白色，褐色粘土を挟む。
81.80m
・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。
82.09m
・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。

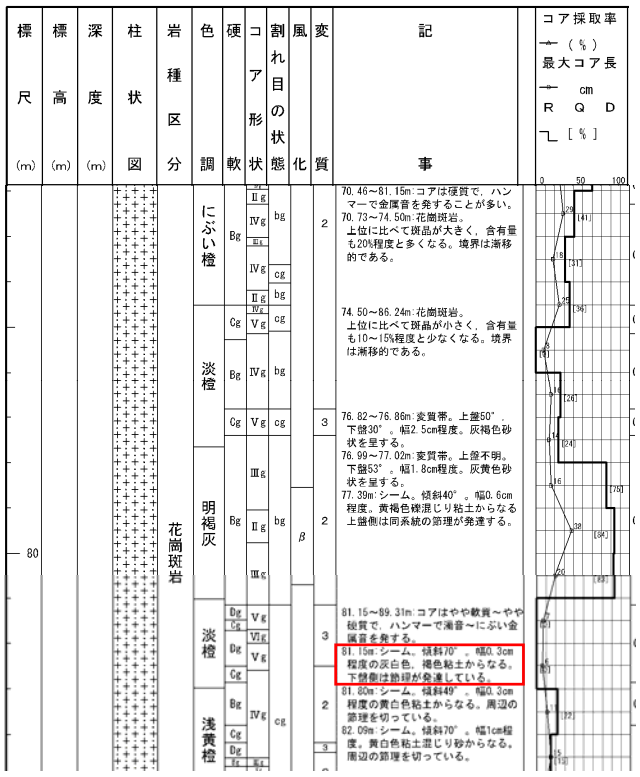
委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
77.39m:シーム。傾斜40°。幅0.6cm程度。黄褐色礫混じり粘土からなる。上盤側は同系統の節理が発達する。	77.39m ・幅0.6cmの黄褐色礫混じり粘土からなる。	77.39m ・幅0.6cmの黄褐色礫混じり粘土からなる。



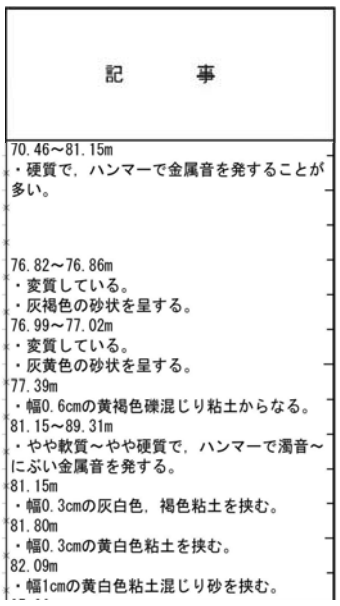
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-2孔 深度81.15m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

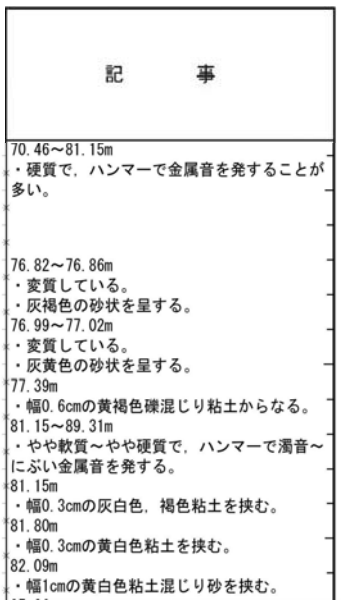


記事

70.46～81.15m
・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。

76.82～76.86m
・変質している。
・灰褐色の砂状を呈する。
76.99～77.02m
・変質している。
・灰黄色の砂状を呈する。
77.39m
・幅0.6cmの黄褐色礫混じり粘土からなる。
81.15～89.31m
・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
81.15m
・幅0.3cmの灰白色，褐色粘土を挟む。
81.80m
・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。
82.09m
・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。

審査資料
（平成30年11月30日）



記事

70.46～81.15m
・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。

76.82～76.86m
・変質している。
・灰褐色の砂状を呈する。
76.99～77.02m
・変質している。
・灰黄色の砂状を呈する。
77.39m
・幅0.6cmの黄褐色礫混じり粘土からなる。
81.15～89.31m
・やや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
81.15m
・幅0.3cmの灰白色，褐色粘土を挟む。
81.80m
・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。
82.09m
・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
81.15m:シーム。傾斜70°。幅0.3cm程度の灰白色，褐色粘土からなる。下盤側は節理が発達している。	81.15m ・幅0.3cmの灰白色，褐色粘土を挟む。	81.15m ・幅0.3cmの灰白色，褐色粘土を挟む。

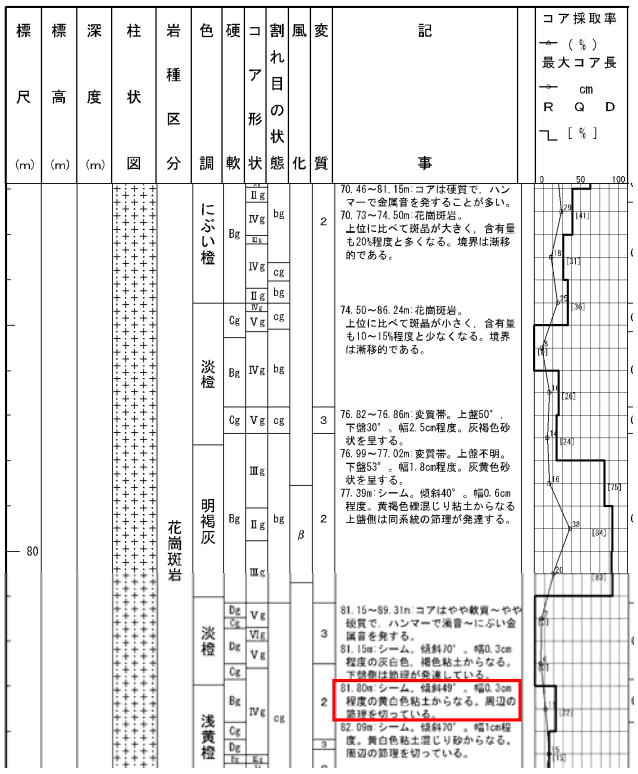
凡 例
:シーム

0 5 cm

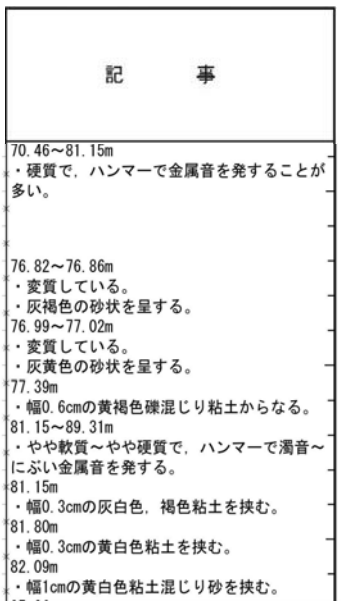
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-2孔 深度81.80m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

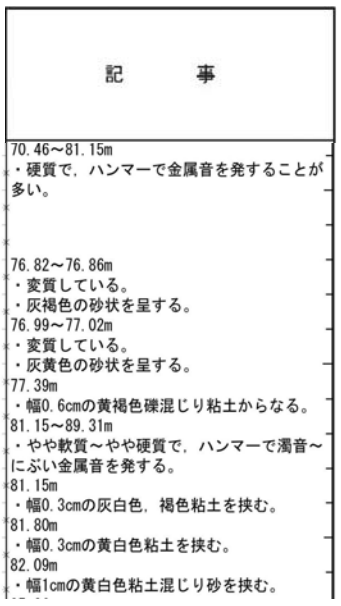
委託報告書
（平成20年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
81.80m:シーム。傾斜49°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。	81.80m ・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。	81.80m ・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。

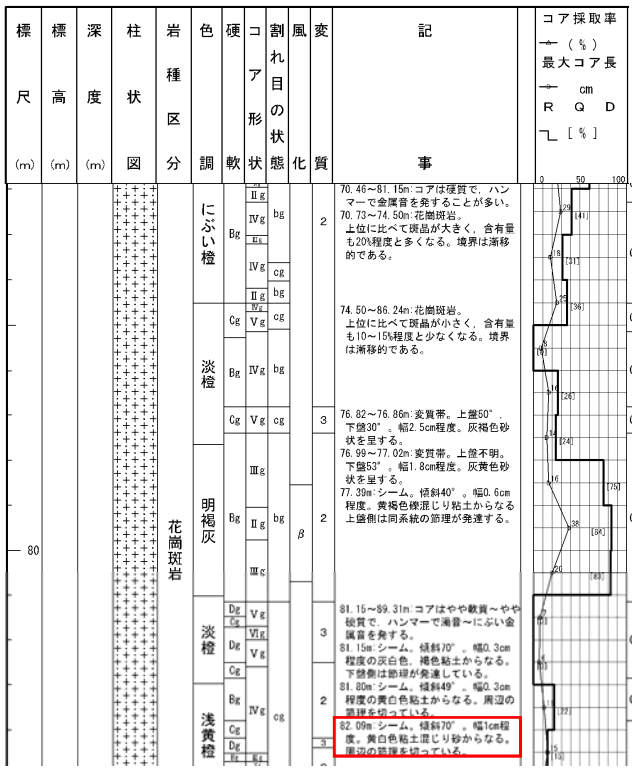
凡 例
:シーム

0 5 cm

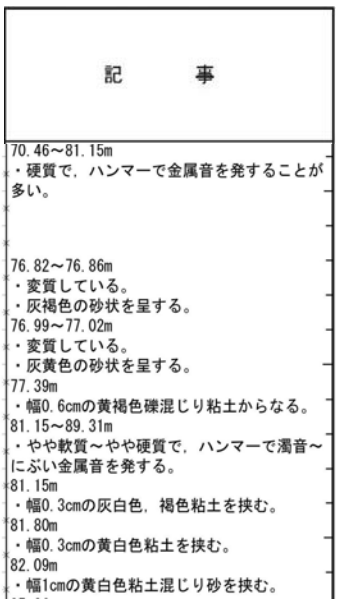
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-2孔 深度82.09m）

・砂状を呈するが，その分布は膨縮し直線性・連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

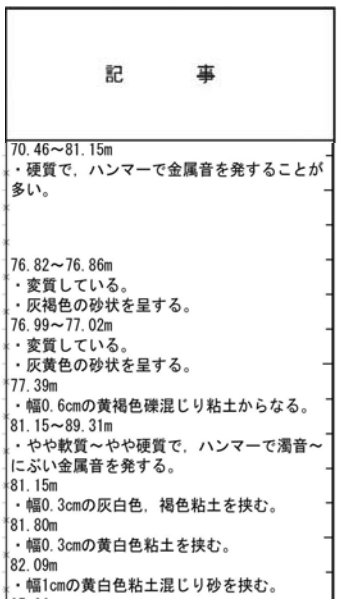
委託報告書
（平成20年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
82.09m:シーム。傾斜70°。幅1cm程度。黄白色粘土混じり砂からなる。周辺の節理を切っている。	82.09m ・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。	82.09m ・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。

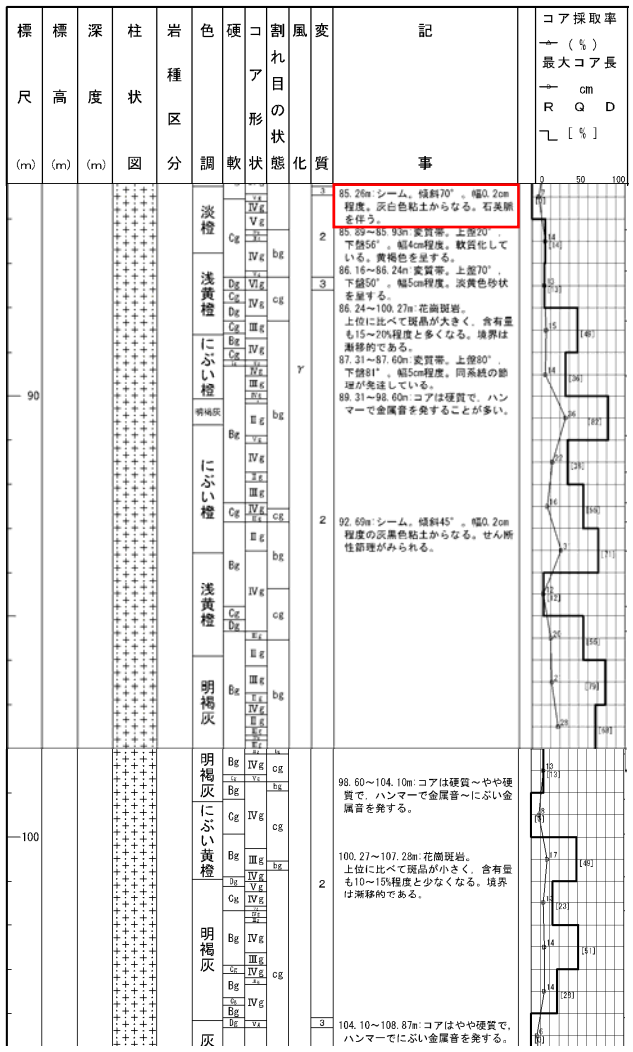
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-2孔 深度85.26m）

・砂状を呈するが，その分布は膨縮し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書（平成20年）



審査資料案

記事

85.26m
・幅0.2cmの灰白色粘土を挟み，石英脈を伴う。
85.89～85.93m
・変質している。
・黄褐色を呈し軟質化している。
86.16～86.24m
・変質している。
・淡黄色の砂状を呈する。
87.31～87.60m
・変質している。
・同系統の割れ目が発達している。
89.31～98.60m
・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。

92.69m
・幅0.2cmの灰黒色粘土からなる。

98.60～104.10m
・硬質～やや硬質で，ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。

104.10～108.87m
・やや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。

審査資料（平成30年11月30日）

記事

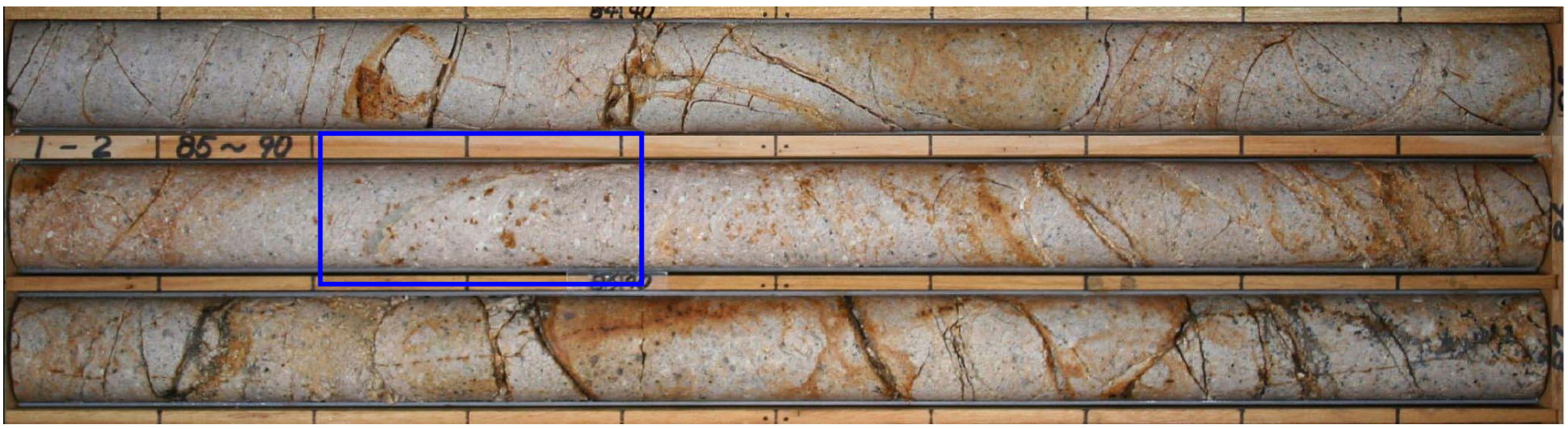
85.26m
・幅0.2cmの灰白色粘土を挟み，石英脈を伴う。
85.89～85.93m
・変質している。
・黄褐色を呈し軟質化している。
86.16～86.24m
・変質している。
・淡黄色の砂状を呈する。
87.31～87.60m
・変質している。
・同系統の割れ目が発達している。
89.31～98.60m
・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。

92.69m
・幅0.2cmの灰黒色粘土からなる。

98.60～104.10m
・硬質～やや硬質で，ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。

104.10～108.87m
・やや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。

委託報告書（平成20年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
85.26m:シーム。傾斜70°。幅0.2cm程度。灰白色粘土からなる。石英脈を伴う。	85.26m ・幅0.2cmの灰白色粘土を挟み，石英脈を伴う。	85.26m ・幅0.2cmの灰白色粘土を挟み，石英脈を伴う。



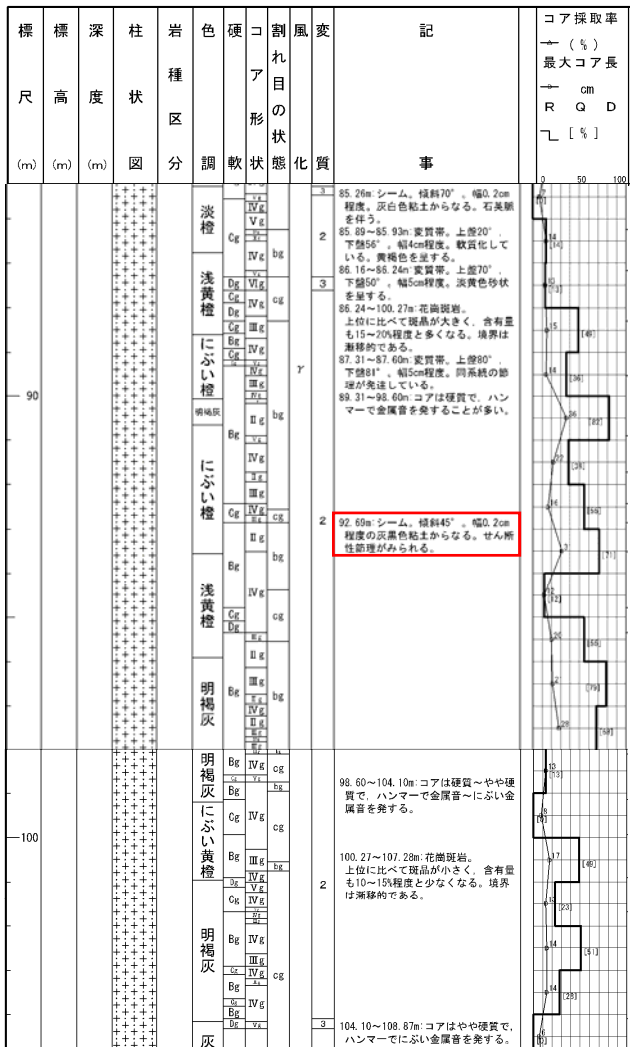
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-2孔 深度92.69m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書（平成20年）



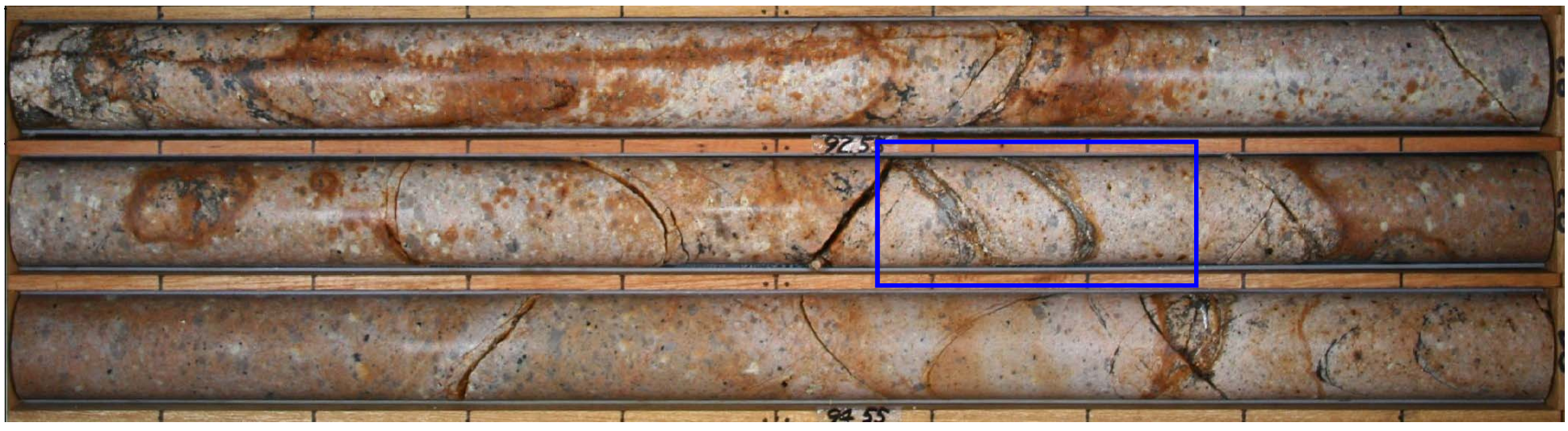
審査資料案

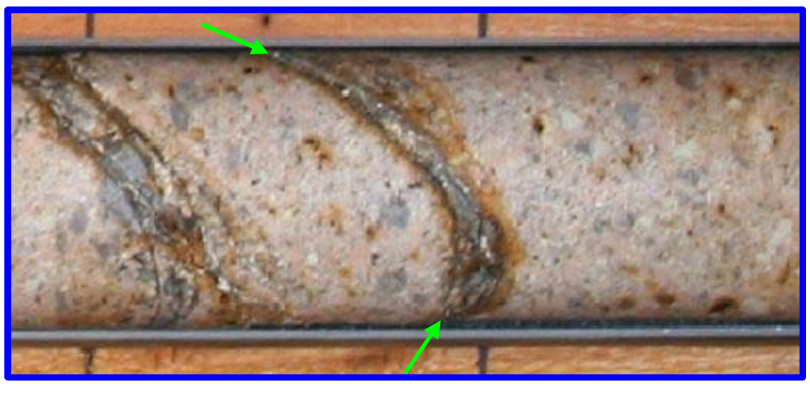
記事
85.26m ・幅0.2cmの灰白色粘土を挟み，石英脈を伴う。 85.89～85.93m ・変質している。 ・黄褐色を呈し軟質化している。 86.16～86.24m ・変質している。 ・淡黄色の砂状を呈する。 87.31～87.60m ・変質している。 ・同系統の割れ目が発達している。 89.31～98.60m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
92.69m ・幅0.2cmの灰黒色粘土からなる。
98.60～104.10m ・硬質～やや硬質で，ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。
104.10～108.87m ・やや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。

審査資料（平成30年11月30日）

記事
85.26m ・幅0.2cmの灰白色粘土を挟み，石英脈を伴う。 85.89～85.93m ・変質している。 ・黄褐色を呈し軟質化している。 86.16～86.24m ・変質している。 ・淡黄色の砂状を呈する。 87.31～87.60m ・変質している。 ・同系統の割れ目が発達している。 89.31～98.60m ・硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
92.69m ・幅0.2cmの灰黒色粘土からなる。
98.60～104.10m ・硬質～やや硬質で，ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。
104.10～108.87m ・やや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。

委託報告書（平成20年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
92.69m:シーム。傾斜45°。幅0.2cm程度の灰黒色粘土からなる。せん断性節理がみられる。	92.69m ・幅0.2cmの灰黒色粘土からなる。	92.69m ・幅0.2cmの灰黒色粘土からなる。





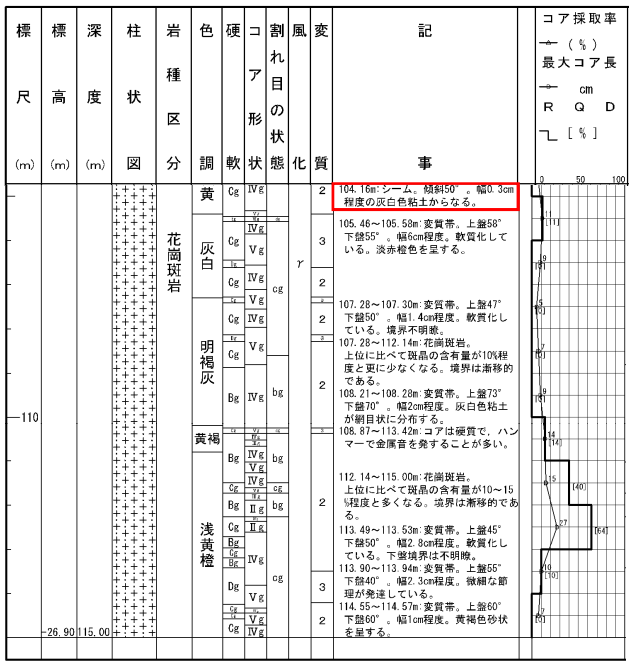
凡 例
:シーム

0 5 cm

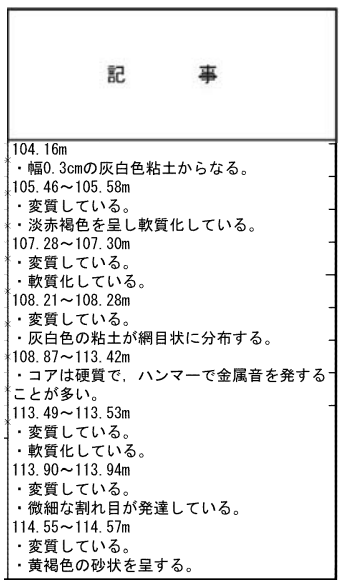
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-2孔 深度104.16m）

・砂状を呈するが，その分布は膨縮し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



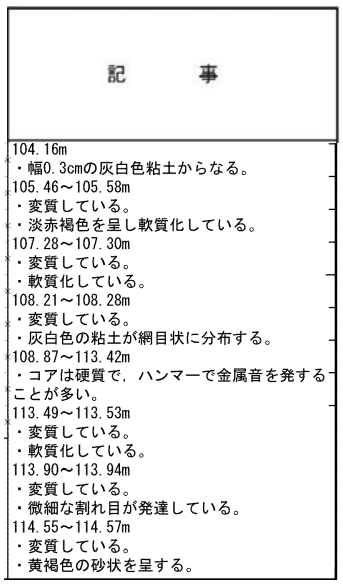
審査資料案



記事

104.16m
・幅0.3cmの灰白色粘土からなる。
105.46～105.58m
・変質している。
・淡赤褐色を呈し軟質化している。
107.28～107.30m
・変質している。
・軟質化している。
108.21～108.28m
・変質している。
・灰白色の粘土が網目状に分布する。
108.87～113.42m
・コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
113.49～113.53m
・変質している。
・軟質化している。
113.90～113.94m
・変質している。
・微細な割れ目が発達している。
114.55～114.57m
・変質している。
・黄褐色の砂状を呈する。

審査資料
（平成30年11月30日）



記事

104.16m
・幅0.3cmの灰白色粘土からなる。
105.46～105.58m
・変質している。
・淡赤褐色を呈し軟質化している。
107.28～107.30m
・変質している。
・軟質化している。
108.21～108.28m
・変質している。
・灰白色の粘土が網目状に分布する。
108.87～113.42m
・コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
113.49～113.53m
・変質している。
・軟質化している。
113.90～113.94m
・変質している。
・微細な割れ目が発達している。
114.55～114.57m
・変質している。
・黄褐色の砂状を呈する。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
104.16m:シーム。傾斜50°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。	104.16m ・幅0.3cmの灰白色粘土からなる。	104.16m ・幅0.3cmの灰白色粘土からなる。

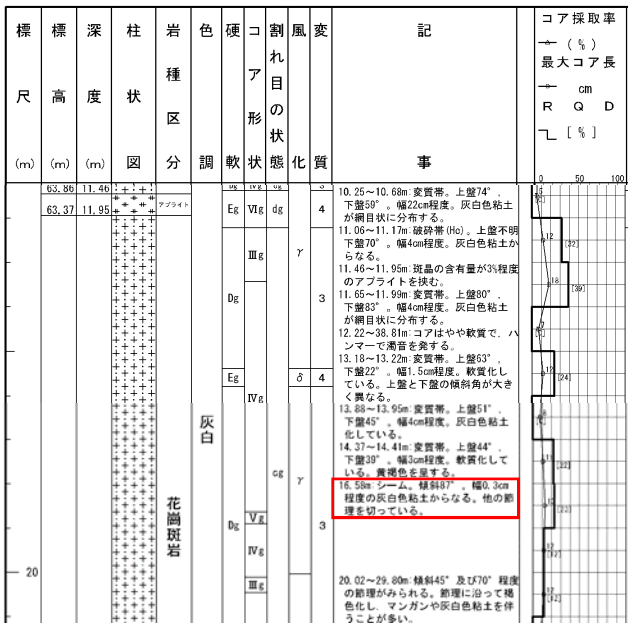
凡 例
:シーム

0 5 cm

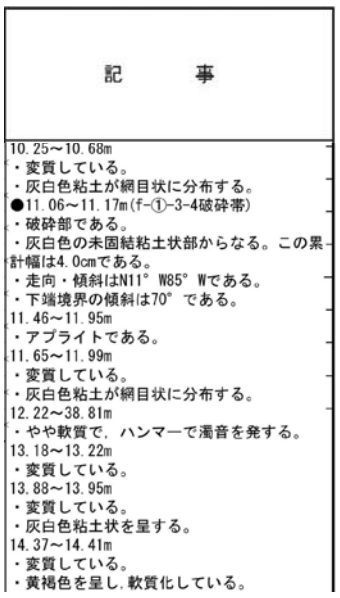
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-3孔 深度16.58m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

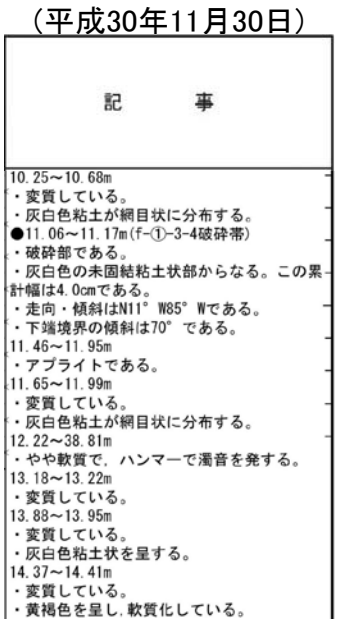
委託報告書
（平成20年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
16.58m:シーム。傾斜87°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。他の節理を切っている。	記載なし	記載なし

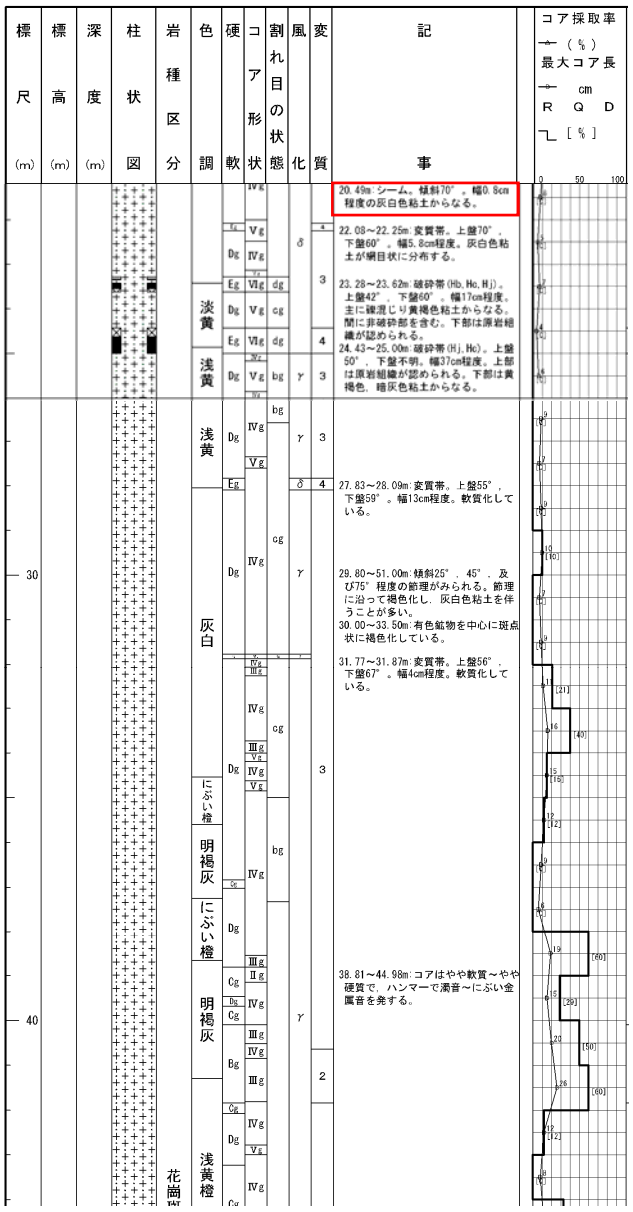
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-3孔 深度20.49m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



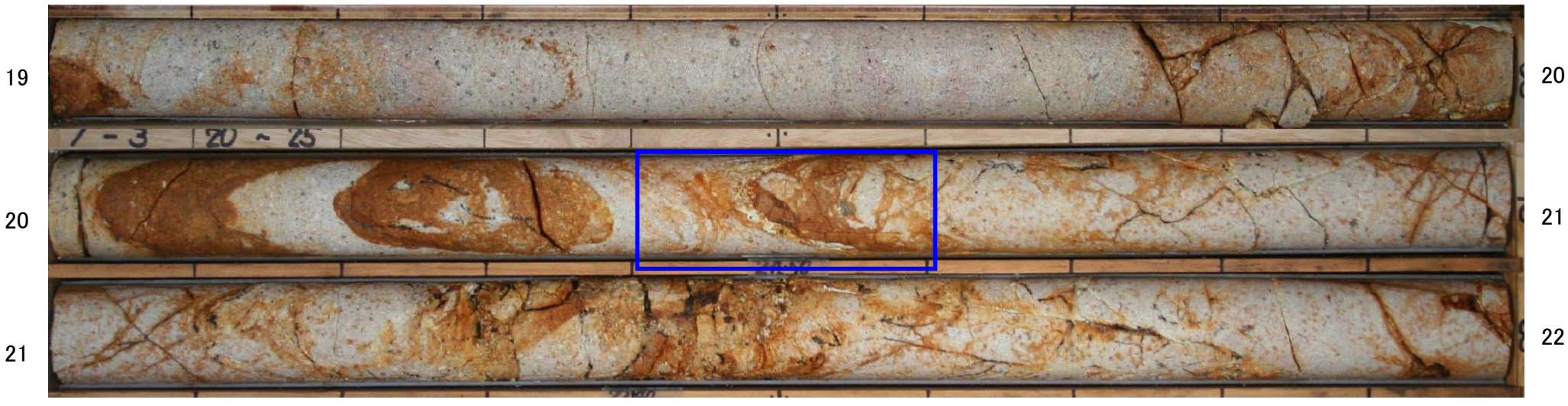
審査資料案

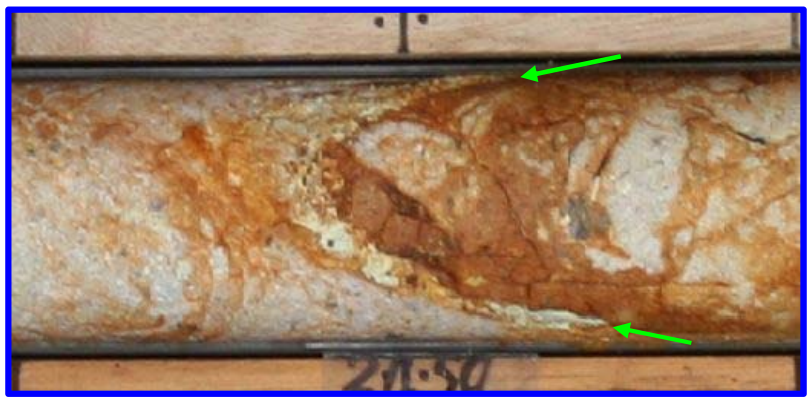
記事
22.08～22.25m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ●23.28～23.62m(f-①-3-5破砕帯) ・破砕部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° E48° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は42°，下端境界の傾斜は60°である。 ●24.43～25.00m(f-①-3-6破砕帯) ・破砕部である。 ・黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN26° W64° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は50°である。 29.80～51.00m ・割れ目沿いに褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。
30.00～33.50m ・斑点状に褐色化している。 31.77～31.87m ・変質している。 ・軟質化している。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
22.08～22.25m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ●23.28～23.62m(f-①-3-5破砕帯) ・破砕部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° E48° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は42°，下端境界の傾斜は60°である。 ●24.43～25.00m(f-①-3-6破砕帯) ・破砕部である。 ・黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN26° W64° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は50°である。 29.80～51.00m ・割れ目沿いに褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。
30.00～33.50m ・斑点状に褐色化している。 31.77～31.87m ・変質している。 ・軟質化している。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
20.49m:シーム。傾斜70°。幅0.8cm程度の灰白色粘土からなる。	記載なし	記載なし





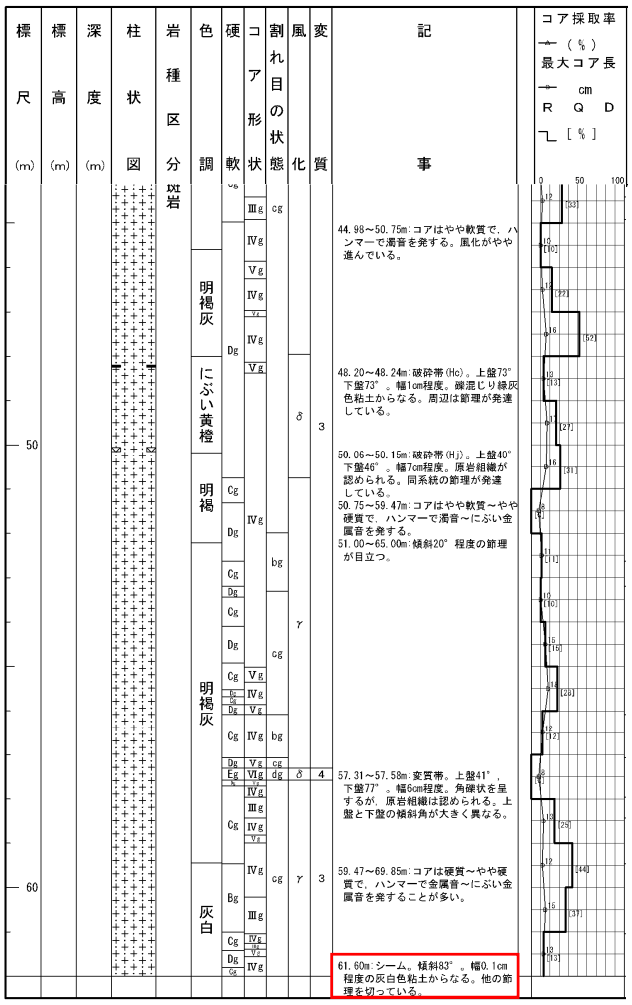
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-3孔 深度61.60m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記事
●48.20～48.24m(f-①-3-7破砕帯) ・破砕部である。 ・主に黄褐色の固結礫状部からなる。 ・緑灰色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN35°E69°Wである。 ・上端境界の傾斜は73°，下端境界の傾斜は73°である。 ●50.06～50.15m(f-①-3-8破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN38°E61°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は40°，下端境界の傾斜は46°である。 51.00～65.00m ・割れ目が目立つ。 57.31～57.58m ・変質している。 ・角礫状を呈するが，原岩組織は残る。

審査資料
（平成30年11月30日）

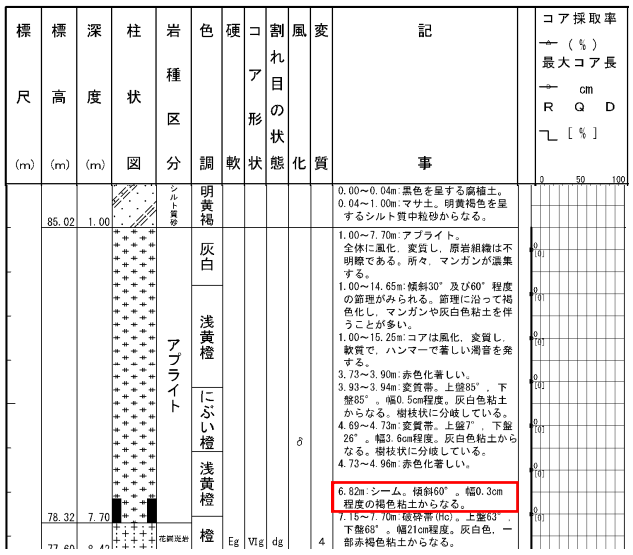
記事
●48.20～48.24m(f-①-3-7破砕帯) ・破砕部である。 ・主に黄褐色の固結礫状部からなる。 ・緑灰色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN35°E69°Wである。 ・上端境界の傾斜は73°，下端境界の傾斜は73°である。 ●50.06～50.15m(f-①-3-8破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN38°E61°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は40°，下端境界の傾斜は46°である。 51.00～65.00m ・割れ目が目立つ。 57.31～57.58m ・変質している。 ・角礫状を呈するが，原岩組織は残る。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
61.60m:シーム。傾斜83°。幅0.1cm程度の灰白色粘土からなる。他の節理を切っている。	記載なし	記載なし

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-4孔 深度6.82m）

・破砕部と同系統の高角度な割れ目が分布し，組織が不明瞭となっている区間を一連の破砕部であると判断した（平成20年破砕部再観察結果）。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

審査資料
（平成30年11月30日）

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
3.93～3.94m:変質帯。上盤85°，下盤85°。幅0.5cm程度。灰白色粘土からなる。樹枝状に分岐している。 4.69～4.73m:変質帯。上盤7°，下盤26°。幅3.6cm程度。灰白色粘土からなる。樹枝状に分岐している。 4.73～4.96m:赤色化著しい。 6.82m:シーム。傾斜60°。幅0.3cm程度の褐色粘土からなる。 7.15～7.70m:破砕帯(Hc)。上盤63°，下盤68°。幅21cm程度。灰白色，一部赤褐色粘土からなる。	●3.93～7.70m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・主に浅黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・上端境界の傾斜は85°，下端境界の傾斜は68°である。	●3.93～7.70m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・主に浅黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・上端境界の傾斜は85°，下端境界の傾斜は68°である。

凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-4孔 深度10.91m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）

審査資料案

記事
7.55～8.42m ・赤～褐色化が著しい。 7.70～9.83m ・花崗斑岩とアプライトが互層状に分布する。 9.83～90.00m ・花崗斑岩が主体である。 10.73～13.00m ・赤色化が著しい。 10.73～14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。 ●12.25～12.26m(f-①-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・境界の傾斜は40°である。 12.70～13.60m ・アプライトである。 ●12.70～15.25m(D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32°E80°Wである。 ・上端境界の傾斜は72°，下端境界の傾斜は70°である。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
7.55～8.42m ・赤～褐色化が著しい。 7.70～9.83m ・花崗斑岩とアプライトが互層状に分布する。 9.83～90.00m ・花崗斑岩が主体である。 10.73～13.00m ・赤色化が著しい。 10.73～14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。 ●12.25～12.26m(f-①-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・境界の傾斜は40°である。 12.70～13.60m ・アプライトである。 ●12.70～15.25m(D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32°E80°Wである。 ・上端境界の傾斜は72°，下端境界の傾斜は70°である。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
10.91m:シーム。傾斜66°。幅0.3cm程度の褐色，灰白色粘土からなる。他の節理を切っている。	記載なし	記載なし

凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-4孔 深度11.28m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）

審査資料案

記事
7.55～8.42m ・赤～褐色化が著しい。 7.70～9.83m ・花崗斑岩とアプライトが互層状に分布する。 9.83～90.00m ・花崗斑岩が主体である。 10.73～13.00m ・赤色化が著しい。 10.73～14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。 ●12.25～12.26m(f-①-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・境界の傾斜は40°である。 12.70～13.60m ・アプライトである。 ●12.70～15.25m(D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32°E80°Wである。 ・上端境界の傾斜は72°，下端境界の傾斜は70°である。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
7.55～8.42m ・赤～褐色化が著しい。 7.70～9.83m ・花崗斑岩とアプライトが互層状に分布する。 9.83～90.00m ・花崗斑岩が主体である。 10.73～13.00m ・赤色化が著しい。 10.73～14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。 ●12.25～12.26m(f-①-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・境界の傾斜は40°である。 12.70～13.60m ・アプライトである。 ●12.70～15.25m(D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32°E80°Wである。 ・上端境界の傾斜は72°，下端境界の傾斜は70°である。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
11.28m:シーム。傾斜64°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は節理が発達している。	記載なし	記載なし

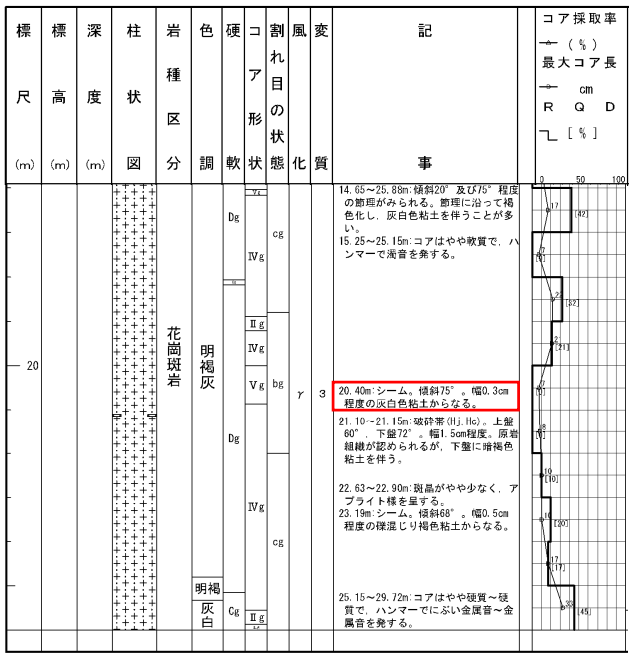
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-4孔 深度20.40m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記　事

●21.10～21.15m(f-①-4-3破砕帯)
・破砕部である。
・明褐灰色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN19°E74°Wである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は72°である。

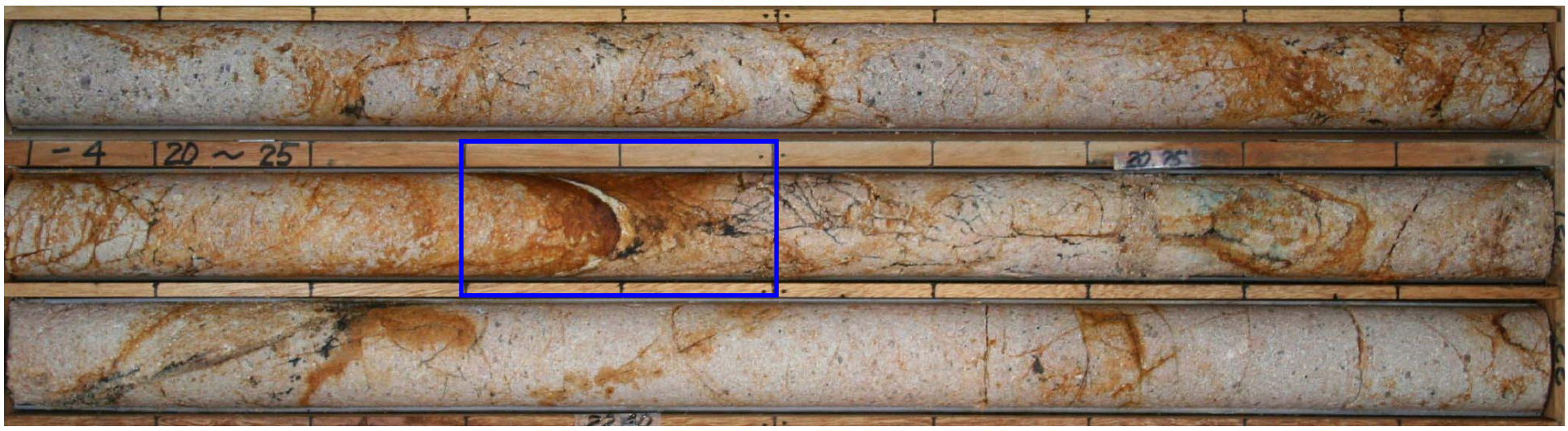
審査資料
（平成30年11月30日）

記　事

●21.10～21.15m(f-①-4-3破砕帯)
・破砕部である。
・明褐灰色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN19°E74°Wである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は72°である。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
20.40m:シーム。傾斜75°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。	記載なし	記載なし

19　20



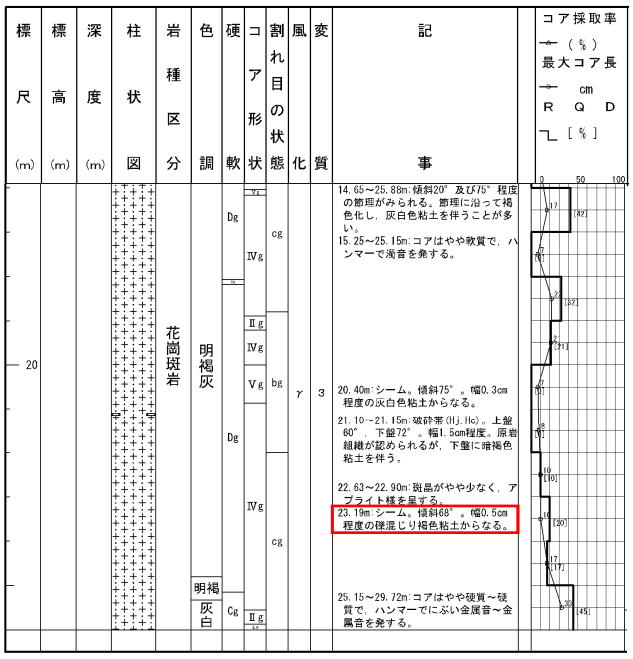
凡　例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-4孔 深度23.19m）

・粘土状部にせん断構造・変形構造が認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記事

審査資料
（平成30年11月30日）

記事

●21.10～21.15m(f-①-4-3破砕帯)
・破砕部である。
・明褐灰色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN19°E74°Wである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は72°である。

●21.10～21.15m(f-①-4-3破砕帯)
・破砕部である。
・明褐灰色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN19°E74°Wである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は72°である。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
23.19m:シーム。傾斜68°。幅0.5cm程度の礫混じり褐色粘土からなる。	記載なし	記載なし

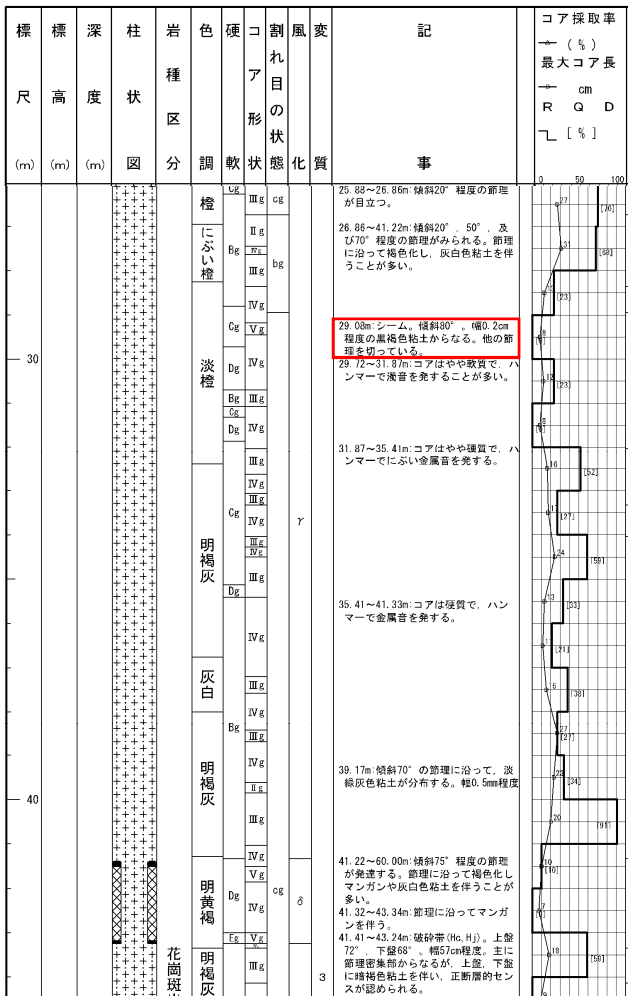
凡 例
:シーム

0 5 cm

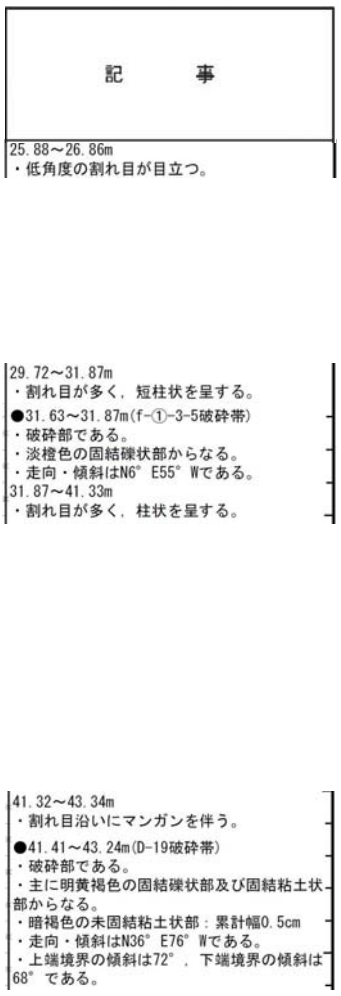
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-4孔 深度29.08m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

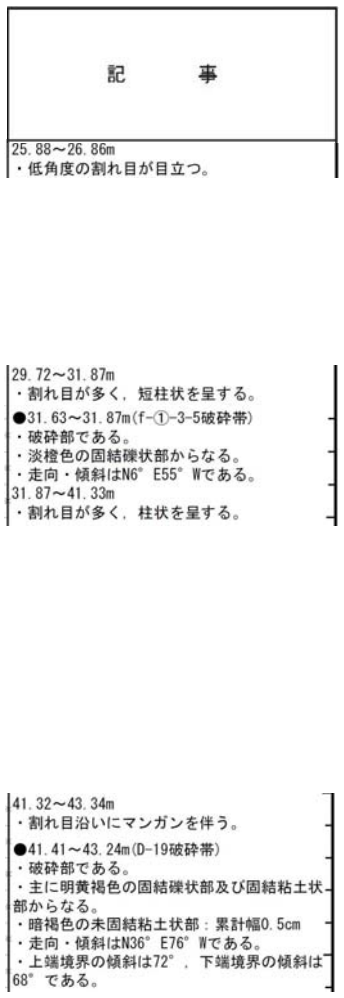
委託報告書
（平成20年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
29.08m:シーム。傾斜80°。幅0.2cm程度の黒褐色粘土からなる。他の節理を切っている。	記載なし	記載なし

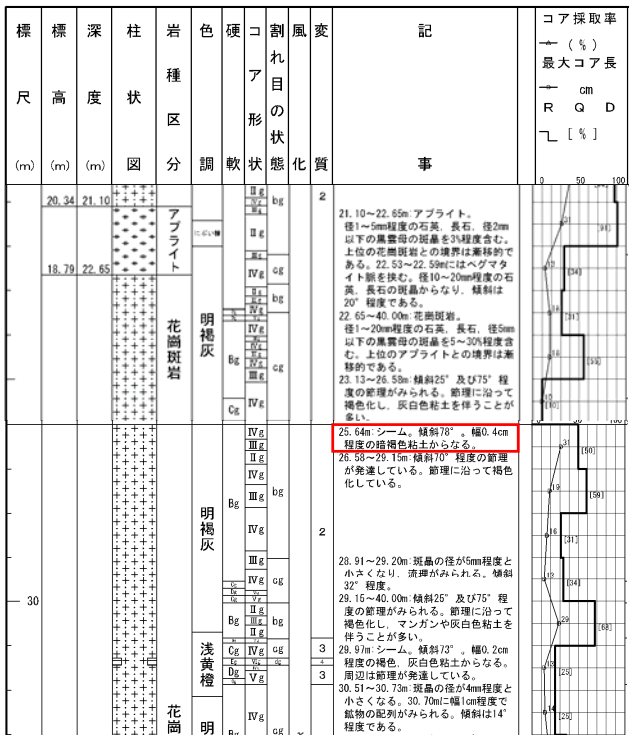
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-5孔 深度25.64m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



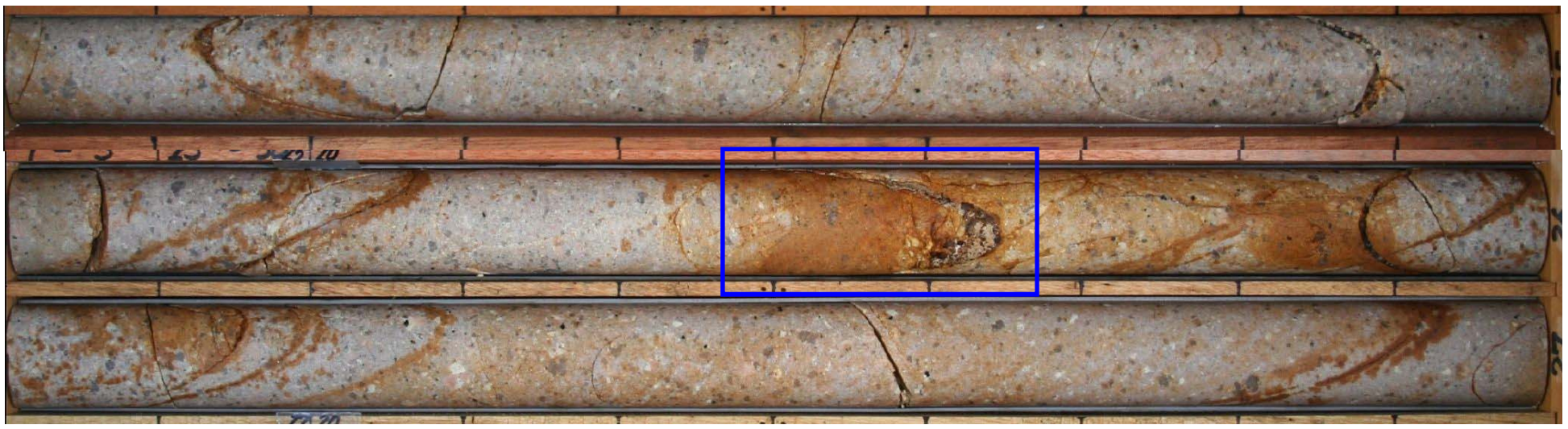
審査資料案

記事
21.10～22.65m ・アプライトである。 22.53～22.59m ・ペグマタイト脈を挟む。 22.65～40.00m ・花崗斑岩である。 26.58～29.15m ・割れ目沿いに褐色化している。 28.91～29.20m ・流理がみられる。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
21.10～22.65m ・アプライトである。 22.53～22.59m ・ペグマタイト脈を挟む。 22.65～40.00m ・花崗斑岩である。 26.58～29.15m ・割れ目沿いに褐色化している。 28.91～29.20m ・流理がみられる。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
25.64m:シーム。傾斜78°。幅0.4cm程度の暗褐色粘土からなる。	記載なし	記載なし



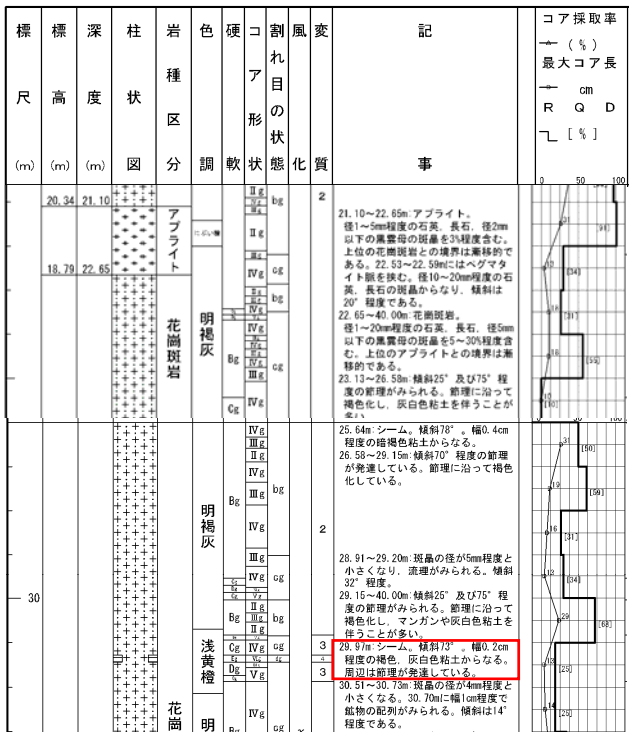
凡 例
:シーム

0 5 cm

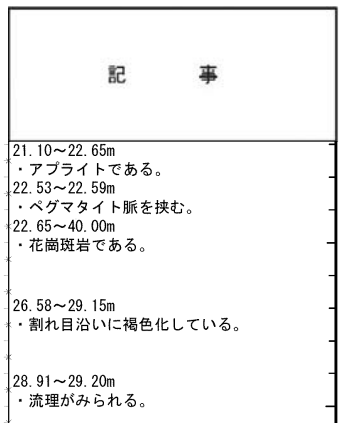
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-5孔 深度29.97m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。上盤側の岩盤は機械割れにより乱れている。

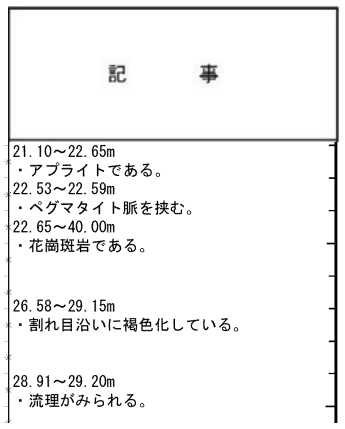
委託報告書
（平成20年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
29.97m:シーム。傾斜73°。幅0.2cm程度の褐色，灰白色粘土からなる。周辺は節理が発達している。	記載なし	記載なし

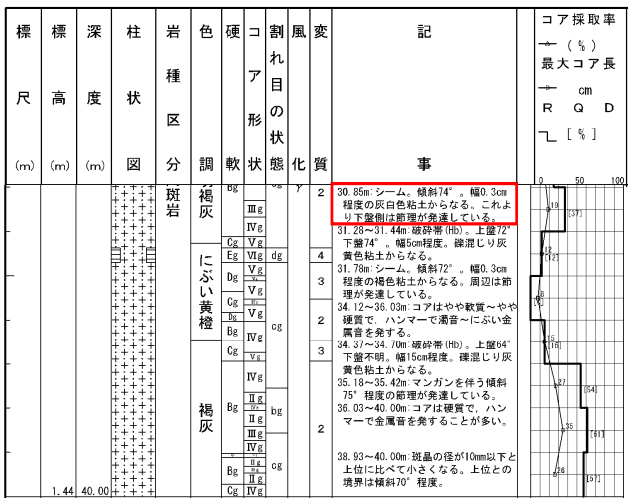
凡 例
:シーム

0 5 cm

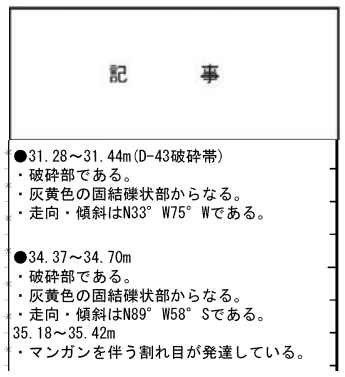
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-5孔 深度30.85m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

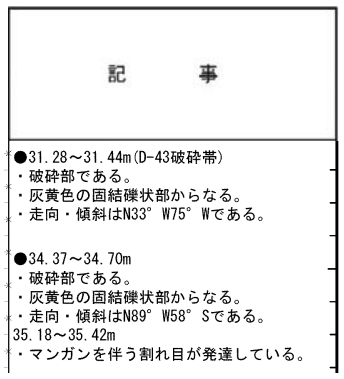
委託報告書
（平成20年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）

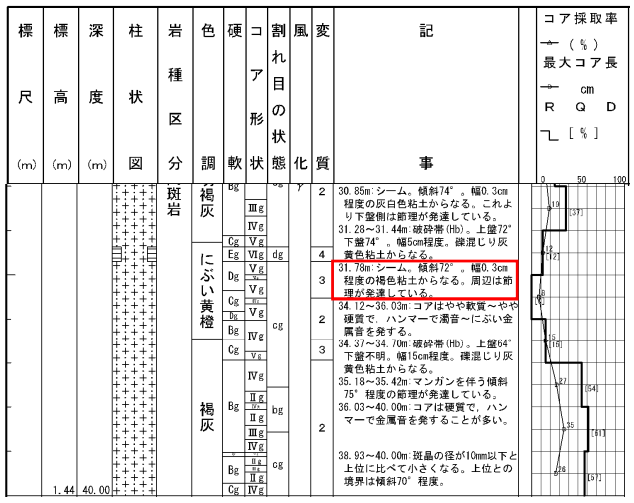


委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
30.85m:シーム。傾斜74°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。これより下盤側は節理が発達している。	記載なし	記載なし

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-5孔 深度31.78m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記　事
●31.28～31.44m(D-43破砕帯) ・破砕部である。 ・灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN33° W75° Wである。 ●34.37～34.70m ・破砕部である。 ・灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN89° W58° Sである。 35.18～35.42m ・マンガンを伴う割れ目が発達している。

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事
●31.28～31.44m(D-43破砕帯) ・破砕部である。 ・灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN33° W75° Wである。 ●34.37～34.70m ・破砕部である。 ・灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN89° W58° Sである。 35.18～35.42m ・マンガンを伴う割れ目が発達している。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
31.78m:シーム。傾斜72°。幅0.3cm程度の褐色粘土からなる。周辺は節理が発達している。	記載なし	記載なし

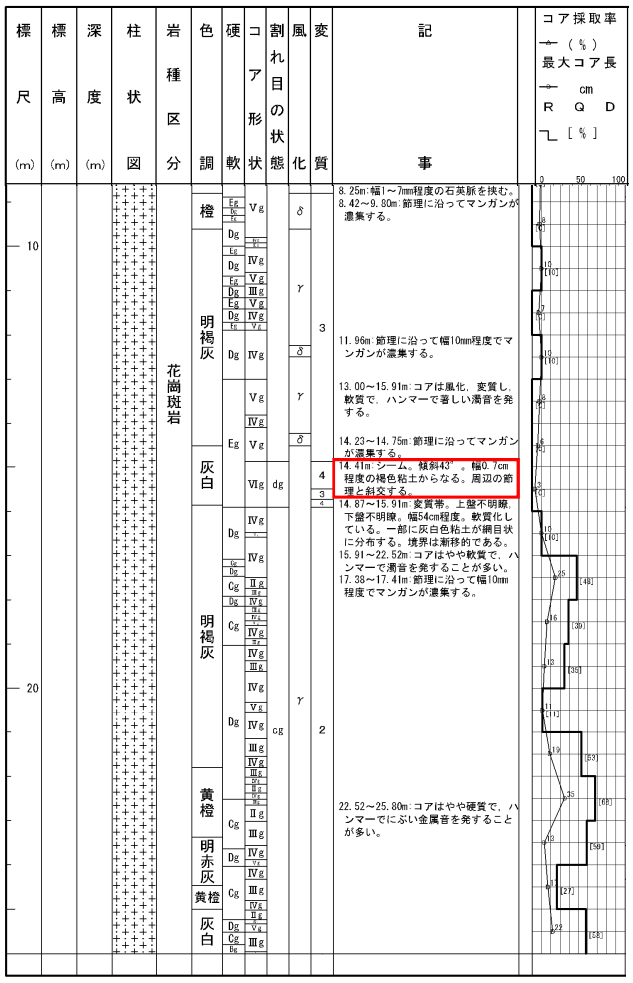
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-6孔 深度14.41m）

・周囲の構造を切って縞状の構造が認められることや，粒子の定向配列が認められることから，破砕部として認定した。
　直線的・連続的な粘土状部の分布が認められないことから，カタクレーサイトであると判断した（平成20年破砕部再観察結果）。

委託報告書（平成20年）



審査資料案

記事
8.25m ・幅1～7mmの石英脈を挟む。 8.42～9.80m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。
11.96m ・割れ目沿いに幅10mmでマンガンが濃集する
14.23～14.75m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 ●14.41～14.42m(D-43破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN53° W60° Sである。 ●14.78～15.13m ・破砕部である。 ・灰白色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN81° W65° Sである。
17.38～17.41m ・割れ目沿いに幅10mm程度でマンガンが濃集する。

審査資料（平成30年11月30日）

記事
8.25m ・幅1～7mmの石英脈を挟む。 8.42～9.80m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。
11.96m ・割れ目沿いに幅10mmでマンガンが濃集する
14.23～14.75m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 ●14.41～14.42m(D-43破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN53° W60° Sである。 ●14.78～15.13m ・破砕部である。 ・灰白色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN81° W65° Sである。
17.38～17.41m ・割れ目沿いに幅10mm程度でマンガンが濃集する。

委託報告書（平成20年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
14.41m:シーム。傾斜43°。幅0.7cm程度の褐色粘土からなる。周辺の節理と斜交する。	●14.41～14.42m（D-43破砕帯） ・破砕部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN53° W60° Sである。	●14.41～14.42m（D-43破砕帯） ・破砕部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN53° W60° Sである。

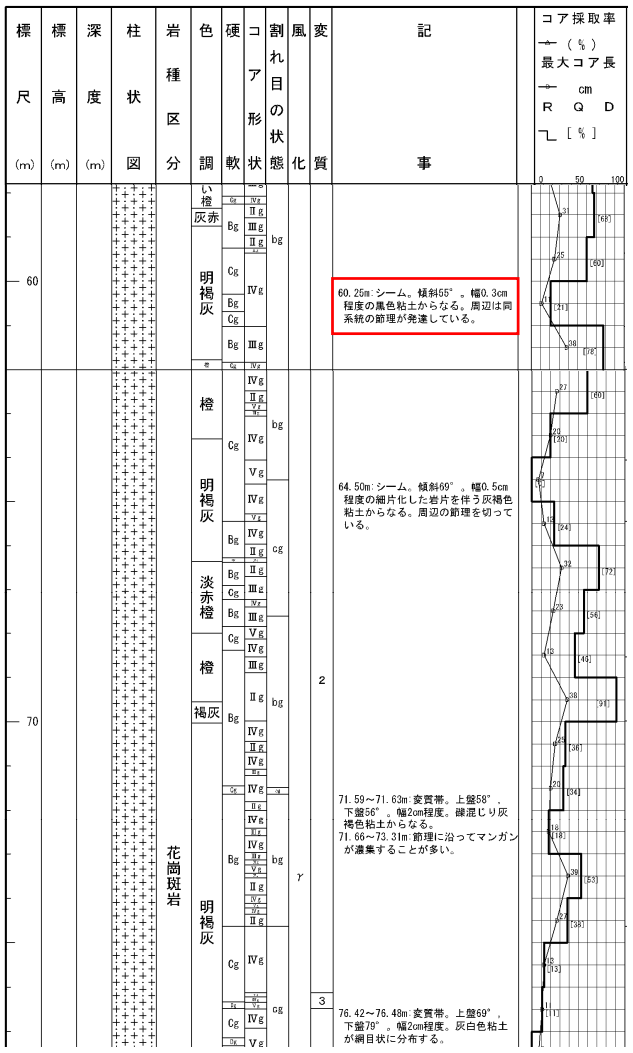
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-6孔 深度60.25m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

71.59～71.63m
・変質している。
・灰褐色礫混じり粘土状を呈する。
71.66～73.31m
・割れ目沿いにマンガンが濃集することが多い。

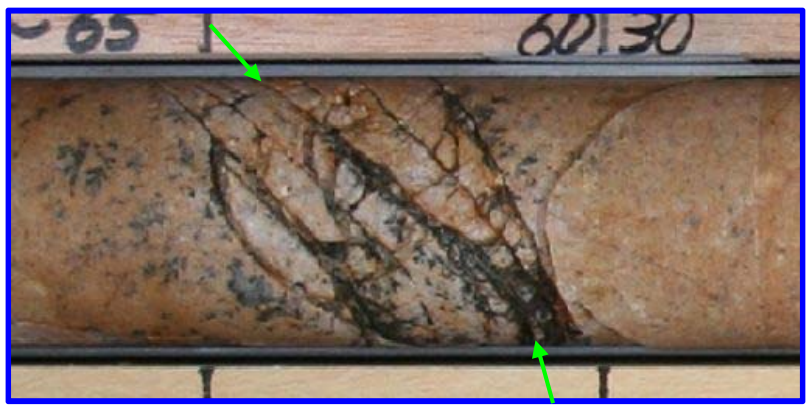
76.42～76.48m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。

審査資料
（平成30年11月30日）

71.59～71.63m
・変質している。
・灰褐色礫混じり粘土状を呈する。
71.66～73.31m
・割れ目沿いにマンガンが濃集することが多い。

76.42～76.48m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
60.25m:シーム。傾斜55°。幅0.3cm程度の黒色粘土からなる。 周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし



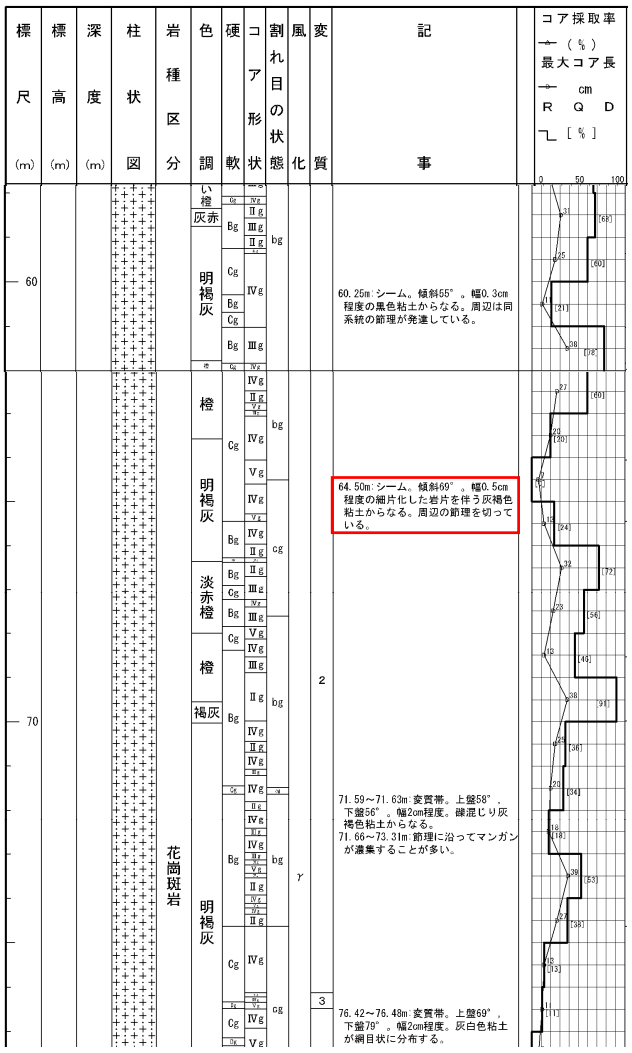
凡 例
:シーム

0 5 cm

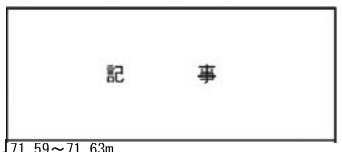
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-6孔 深度64.50m）

・粘土状を呈するが，その分布は湾曲・殲滅し直線性・連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書（平成20年）



審査資料案



71.59～71.63m
・変質している。
・灰褐色礫混じり粘土状を呈する。
71.66～73.31m
・割れ目沿いにマンガンが濃集することが多い。

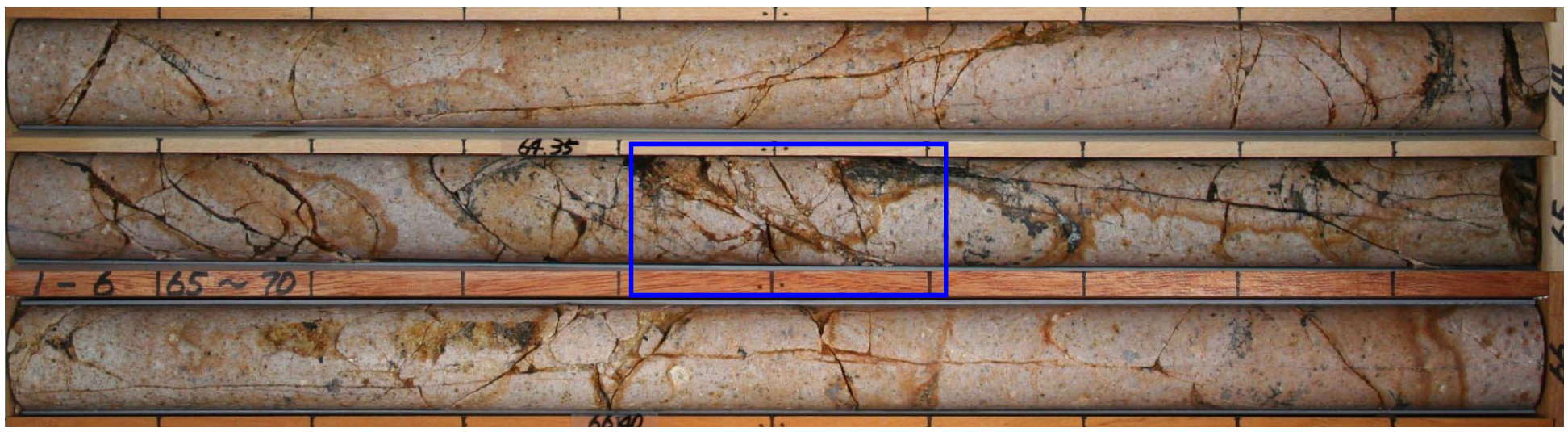
76.42～76.48m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。

審査資料（平成30年11月30日）

71.59～71.63m
・変質している。
・灰褐色礫混じり粘土状を呈する。
71.66～73.31m
・割れ目沿いにマンガンが濃集することが多い。

76.42～76.48m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。

委託報告書（平成20年）	審査資料案	審査資料（平成30年11月30日）
64.50m:シーム。傾斜69°。幅0.5cm程度の細片化した岩片を伴う灰褐色粘土からなる。周辺の節理を切っている。	記載なし	記載なし



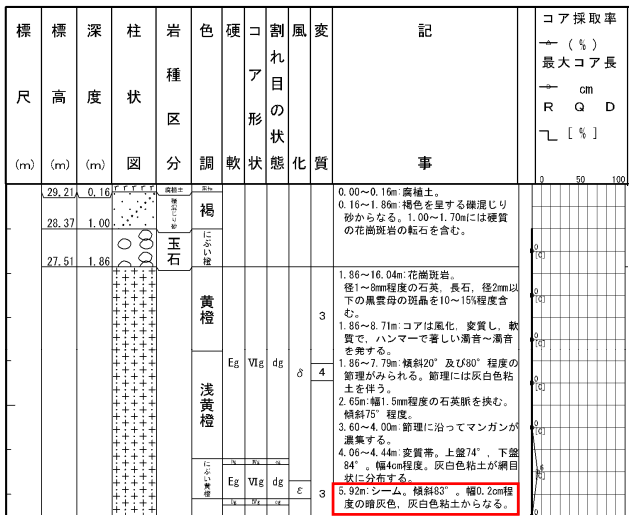
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-8孔 深度5.92m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

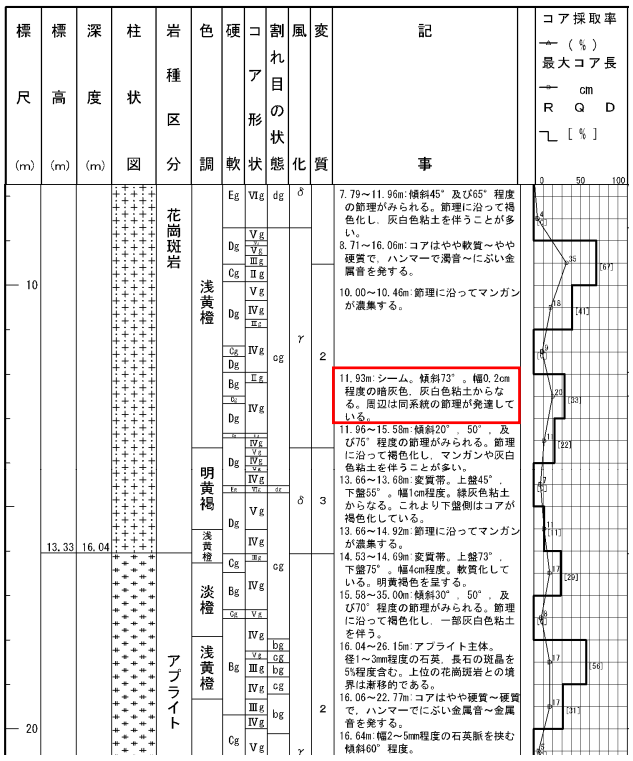
審査資料
（平成30年11月30日）

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
5.92m:シーム。傾斜83°。幅0.2cm程度の暗灰色，灰白色粘土からなる。	記載なし	記載なし

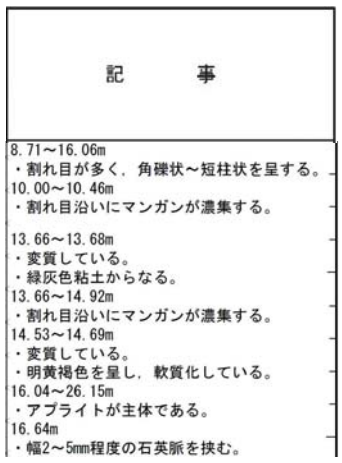
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-8孔 深度11.93m）

・粘土状を呈するが，その分布は殻滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

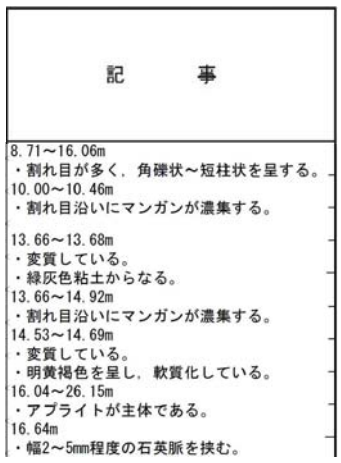
委託報告書
（平成20年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
11.93m:シーム。傾斜73°。幅0.2cm程度の暗灰色，灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし

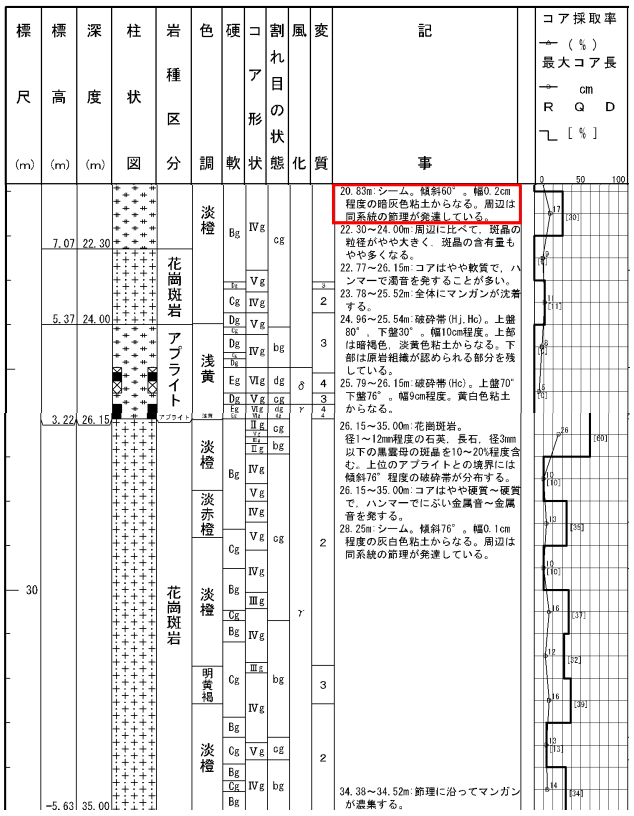
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-8孔 深度20.83m）

・粘土状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

審査資料
（平成30年11月30日）

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
20.83m:シーム。傾斜60°。幅0.2cm程度の暗灰色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし

19 20

20 21

21 22

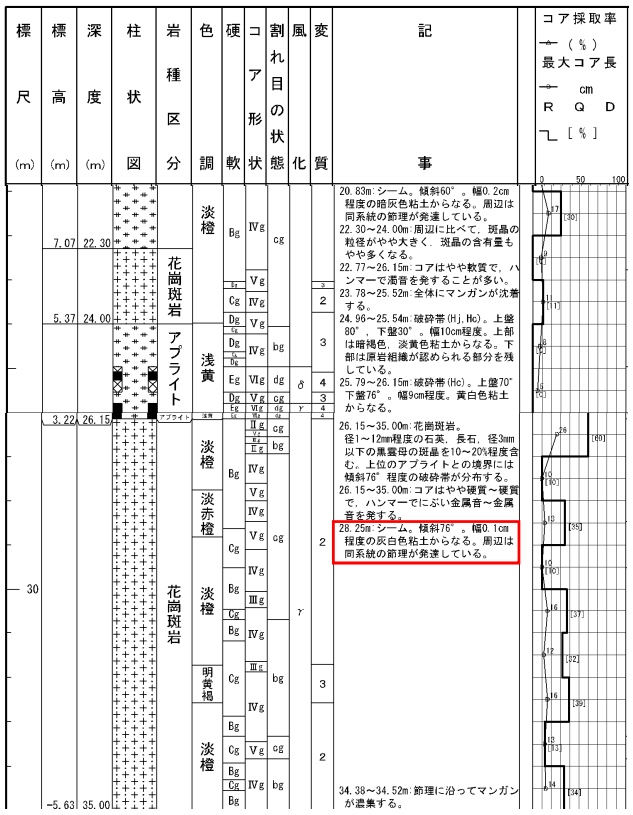
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-8孔 深度28.25m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

審査資料
（平成30年11月30日）

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
28.25m:シーム。傾斜76°。幅0.1cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし

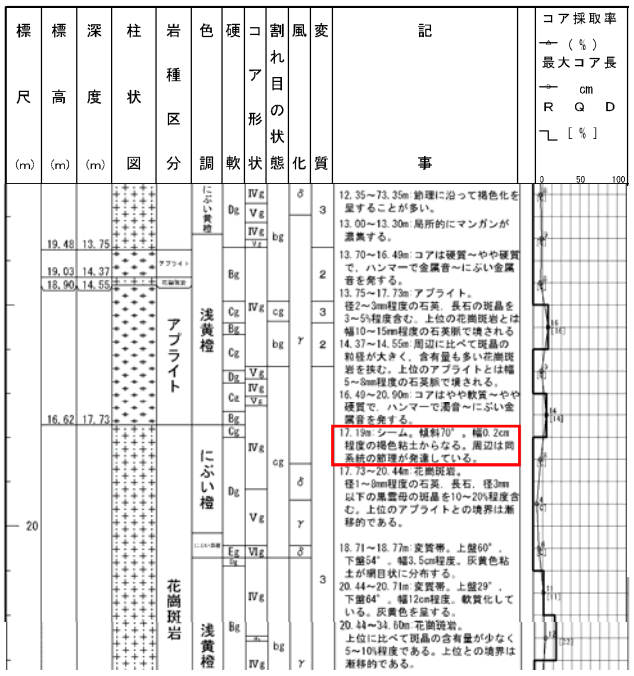
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-9孔 深度17.19m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



設置許可申請書案

記　事
13.70～14.91m ・硬質であるが，割れ目が多く，岩片～短柱状を呈する。 13.75～17.73m ・アプライトである。 ・上端境界に，幅10～15mm程度の石英脈を挟む。 14.37～14.55m ・花崗斑岩である。 ・上端境界に，幅5～8mm程度の石英脈を挟む。 14.55～17.73m アプライトである。 17.73～34.60m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 18.71～18.77m ・変質している。 ・灰黄色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は54°である。 20.44～20.71m ・変質している。 ・灰黄色を呈し，軟質化している。 ・上端境界の傾斜は29°，下端境界の傾斜は64°である。

設置許可申請書
（平成27年11月）

記　事
13.70～14.91m ・硬質であるが，割れ目が多く，岩片～短柱状を呈する。 13.75～17.73m ・アプライトである。 ・上端境界に，幅10～15mm程度の石英脈を挟む。 14.37～14.55m ・花崗斑岩である。 ・上端境界に，幅5～8mm程度の石英脈を挟む。 14.55～17.73m アプライトである。 17.73～34.60m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 18.71～18.77m ・変質している。 ・灰黄色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は54°である。 20.44～20.71m ・変質している。 ・灰黄色を呈し，軟質化している。 ・上端境界の傾斜は29°，下端境界の傾斜は64°である。

審査資料
（平成29年12月22日）

記　事
13.70～14.91m ・硬質であるが，割れ目が多く，岩片～短柱状を呈する。 13.75～17.73m ・アプライトである。 ・上端境界に，幅10～15mm程度の石英脈を挟む。 14.37～14.55m ・花崗斑岩である。 ・上端境界に，幅5～8mm程度の石英脈を挟む。 14.55～17.73m アプライトである。 17.73～34.60m ・花崗斑岩である。 18.71～18.77m ・変質している。 ・灰黄色の粘土が網目状に分布する。 20.44～20.71m ・変質している。 ・灰黄色を呈し，軟質化している。

委託報告書 （平成20年）	設置許可申請書案	設置許可申請書 （平成27年11月）	審査資料 （平成29年12月22日）
17.19m:シーム。傾斜70°。幅0.2cm程度の褐色粘土からなる。 周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし	記載なし

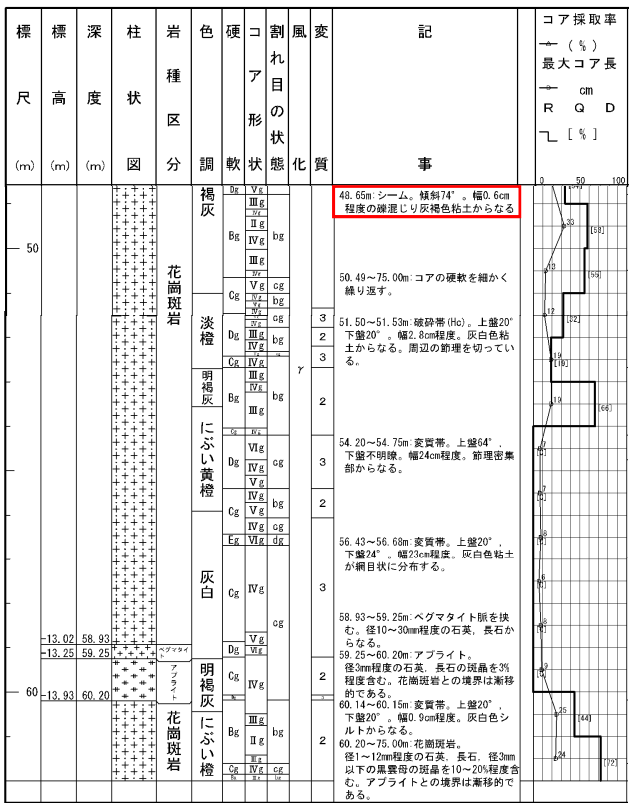
凡　例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-9孔 深度48.65m）

・礫混じり粘土状を呈するが，礫に定向配列は認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



設置許可申請書案

記事
●51.50～51.53m ・破砕部である。 ・灰白色の粘土状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚28mm ・走向・傾斜はN36° W61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は20°，下盤境界の傾斜は20°である。 54.20～54.75m ・変質している。 ・にぶい黄橙色の割れ目密集状を呈する。 ・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は不明瞭である。 56.43～56.68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は20°，下端境界の傾斜は24°である。 58.93～59.25m ・ペグマタイトである。 59.25～60.20 ・アプライトである。 60.20～75.00m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。

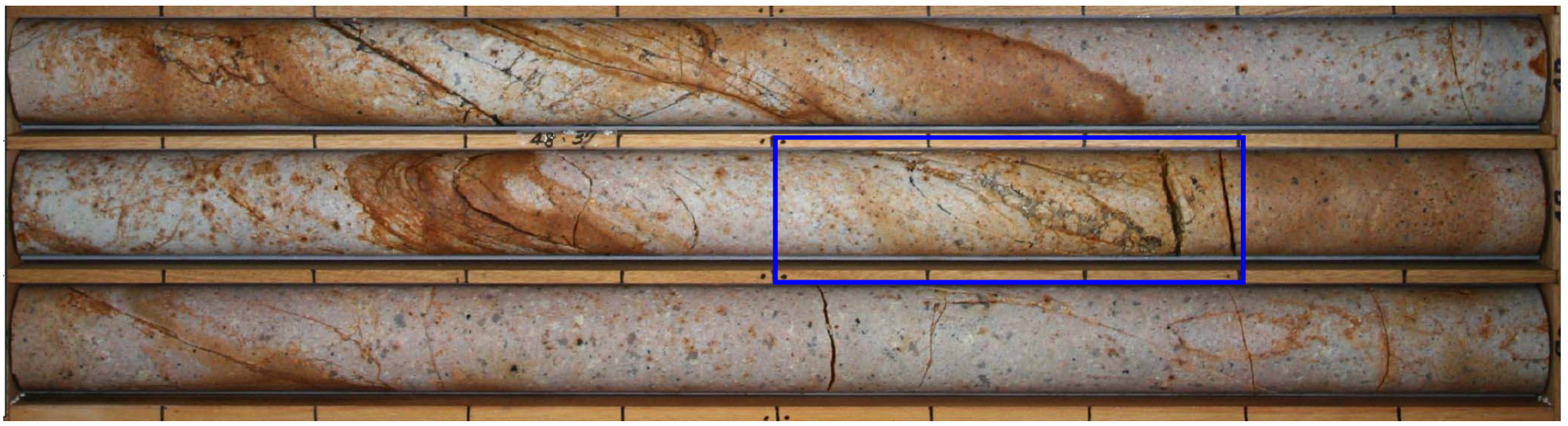
設置許可申請書
（平成27年11月）

記事
●51.50～51.53m ・破砕部である。 ・灰白色の粘土状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚28mm ・走向・傾斜はN36° W61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は20°，下盤境界の傾斜は20°である。 54.20～54.75m ・変質している。 ・にぶい黄橙色の割れ目密集状を呈する。 ・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は不明瞭である。 56.43～56.68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は20°，下端境界の傾斜は24°である。 58.93～59.25m ・ペグマタイトである。 59.25～60.20 ・アプライトである。 60.20～75.00m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
●51.50～51.53m(f-①-9-3破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.8cmである。 ・走向・傾斜はN36° W61° Wである。 ・上端境界の傾斜は20°，下端境界の傾斜は20°である。 54.20～54.75m ・変質している。 ・にぶい黄橙色の割れ目密集状を呈する。 56.43～56.68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 58.93～59.25m ・ペグマタイトである。 59.25～60.20m ・アプライトである。 60.20～75.00m ・花崗斑岩である。

委託報告書 （平成20年）	設置許可申請書案	設置許可申請書 （平成27年11月）	審査資料 （平成29年12月22日）
48.65m:シーム。傾斜74°。幅0.6cm程度の礫混じり灰褐色粘土からなる。	記載なし	記載なし	記載なし



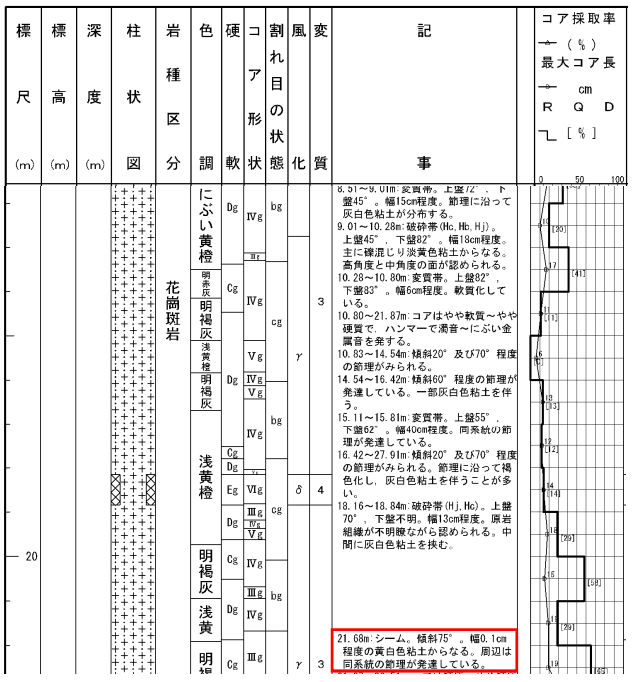
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-10孔 深度21.68m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

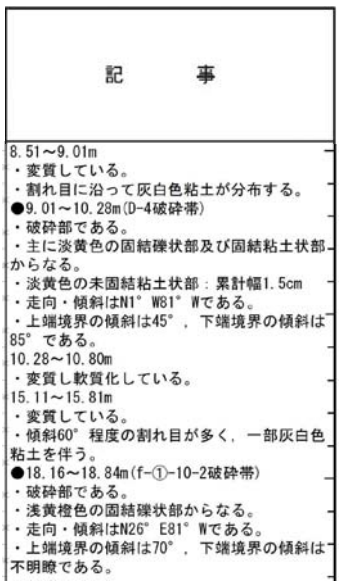
委託報告書
（平成20年）



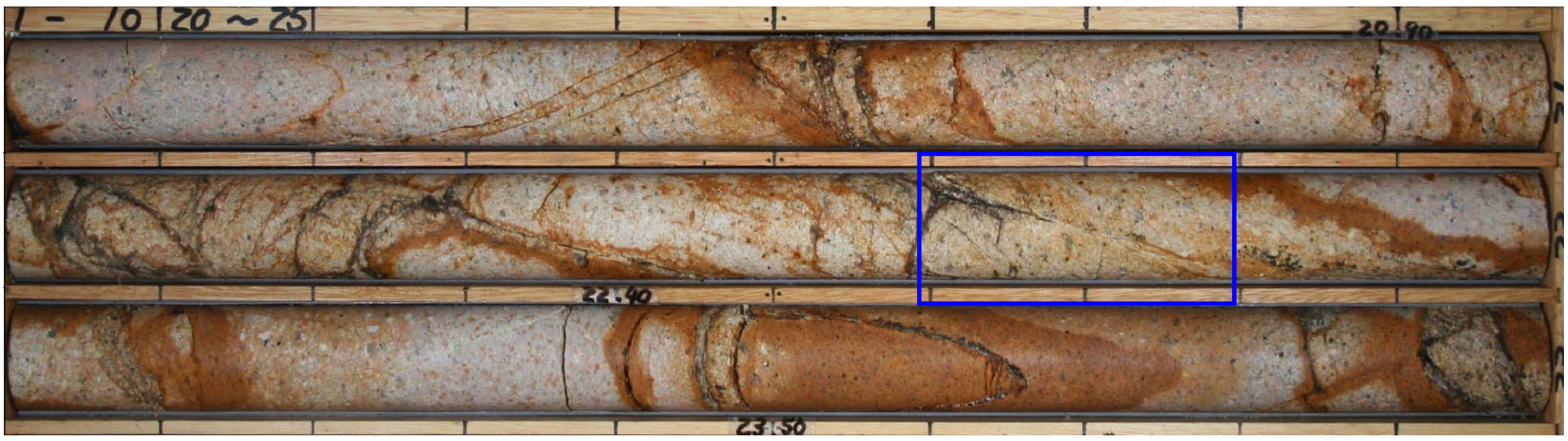
設置許可申請書案

設置許可申請書
（平成27年11月）

審査資料
（平成29年12月22日）



委託報告書 （平成20年）	設置許可申請書案	設置許可申請書 （平成27年11月）	審査資料 （平成29年12月22日）
21.68m:シーム。傾斜75°。幅0.1cm程度の黄白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし	記載なし



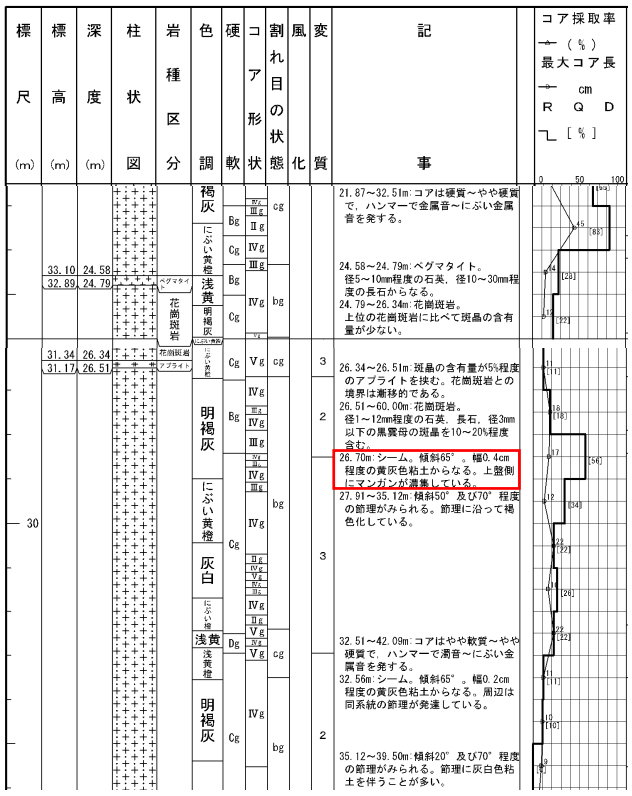
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-10孔 深度26.70m）

・粘土状部にせん断構造・変形構造が認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



設置許可申請書案

記事
24.58～24.79m ・ペグマタイトである。 24.79～26.34m ・花崗斑岩である。 26.34～26.51m ・アプライトである。 ・上端境界，下端境界は漸移的である。 26.51～60.00m ・花崗斑岩である。 27.91～35.12m ・傾斜50°，70°程度の割れ目が分布する。 35.12～39.50m ・傾斜20°，70°程度の割れ目が多く，岩片状を呈する。 ・割れ目に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。

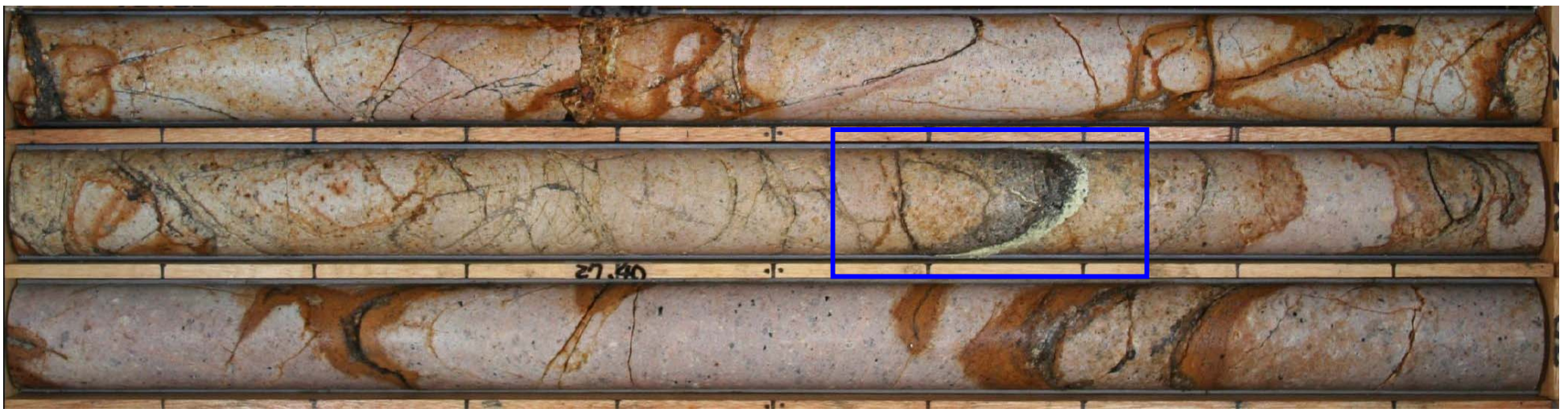
設置許可申請書
（平成27年11月）

記事
24.58～24.79m ・ペグマタイトである。 24.79～26.34m ・花崗斑岩である。 26.34～26.51m ・アプライトである。 ・上端境界，下端境界は漸移的である。 26.51～60.00m ・花崗斑岩である。 27.91～35.12m ・傾斜50°，70°程度の割れ目が分布する。 35.12～39.50m ・傾斜20°，70°程度の割れ目が多く，岩片状を呈する。 ・割れ目に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
24.58～24.79m ・ペグマタイトである。 24.79～26.34m ・花崗斑岩である。 26.34～26.51m ・アプライトである。 26.51～60.00m ・花崗斑岩である。 27.91～35.12m ・傾斜50°，70°程度の割れ目が分布する。 35.12～39.50m ・傾斜20°，70°程度の割れ目が多く，岩片状を呈する。 ・割れ目に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。

委託報告書 （平成20年）	設置許可申請書案	設置許可申請書 （平成27年11月）	審査資料 （平成29年12月22日）
26.70m:シーム。傾斜65°。幅0.4cm程度の黄灰色粘土からなる。上盤側にマンガンが濃集している。	記載なし	記載なし	記載なし



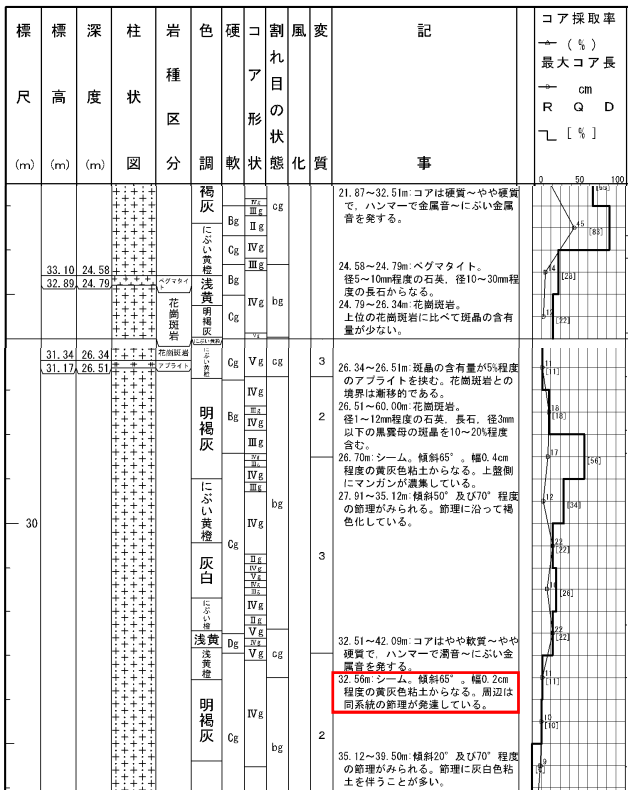
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-10孔 深度32.56m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



設置許可申請書案

記事
24.58～24.79m ・ペグマタイトである。 24.79～26.34m ・花崗斑岩である。 26.34～26.51m ・アプライトである。 ・上端境界，下端境界は漸移的である。 26.51～60.00m ・花崗斑岩である。 27.91～35.12m ・傾斜50°，70°程度の割れ目が分布する。 35.12～39.50m ・傾斜20°，70°程度の割れ目が多く，岩片状を呈する。 ・割れ目に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。

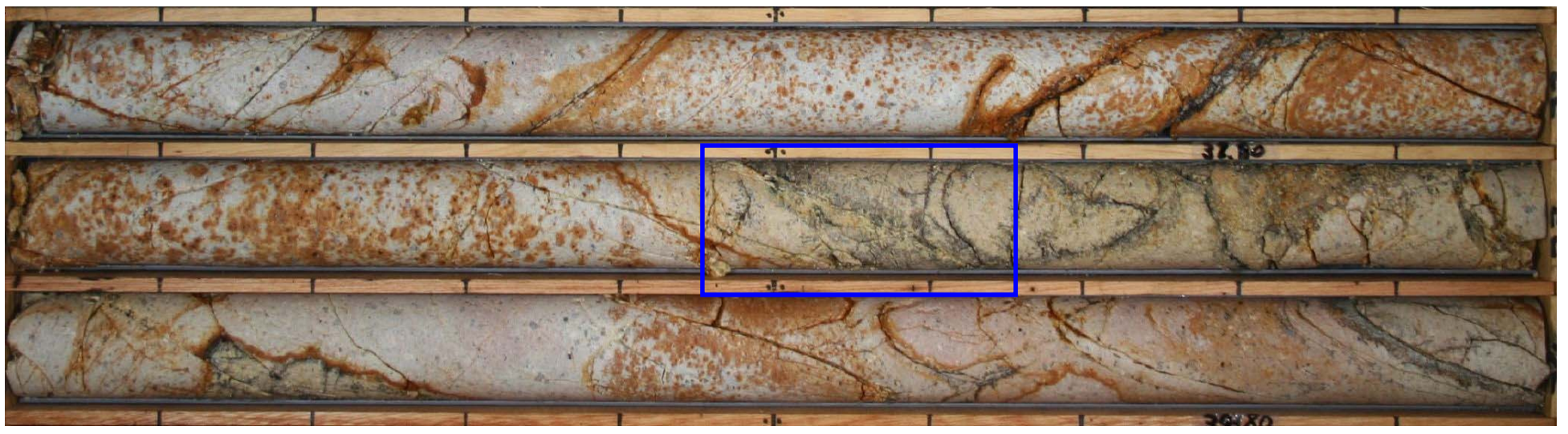
設置許可申請書
（平成27年11月）

記事
24.58～24.79m ・ペグマタイトである。 24.79～26.34m ・花崗斑岩である。 26.34～26.51m ・アプライトである。 ・上端境界，下端境界は漸移的である。 26.51～60.00m ・花崗斑岩である。 27.91～35.12m ・傾斜50°，70°程度の割れ目が分布する。 35.12～39.50m ・傾斜20°，70°程度の割れ目が多く，岩片状を呈する。 ・割れ目に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
24.58～24.79m ・ペグマタイトである。 24.79～26.34m ・花崗斑岩である。 26.34～26.51m ・アプライトである。 26.51～60.00m ・花崗斑岩である。 27.91～35.12m ・傾斜50°，70°程度の割れ目が分布する。 35.12～39.50m ・傾斜20°，70°程度の割れ目が多く，岩片状を呈する。 ・割れ目に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。

委託報告書 （平成20年）	設置許可申請書案	設置許可申請書 （平成27年11月）	審査資料 （平成29年12月22日）
32.56m:シーム。傾斜65°。幅0.2cm程度の黄灰色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし	記載なし



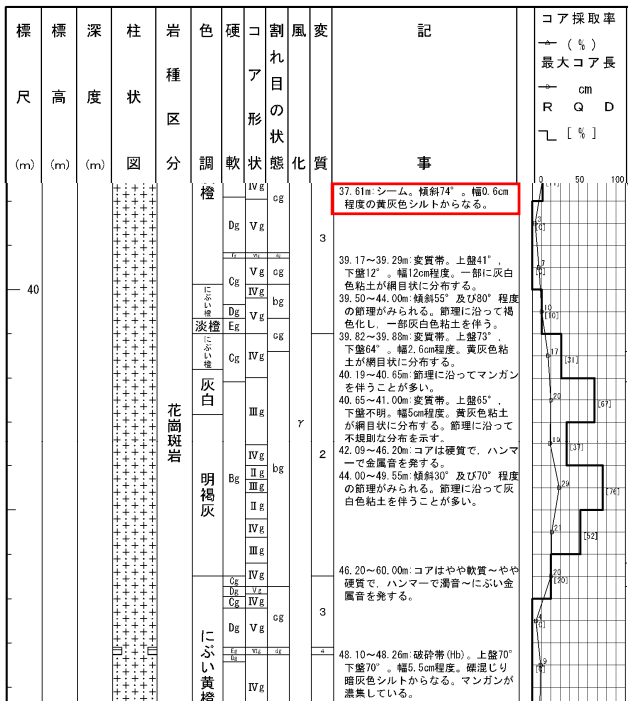
凡 例
:シーム

0 5 cm

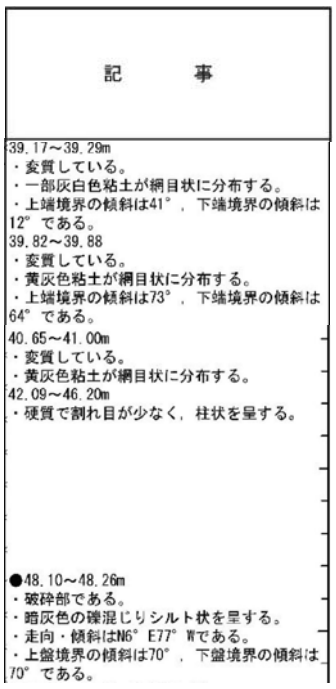
柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-10孔 深度37.61m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

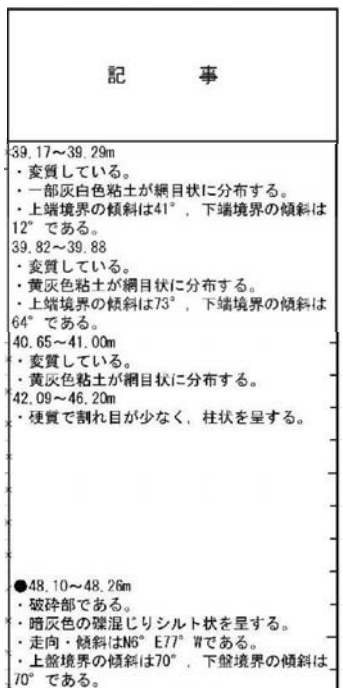
委託報告書
（平成20年）



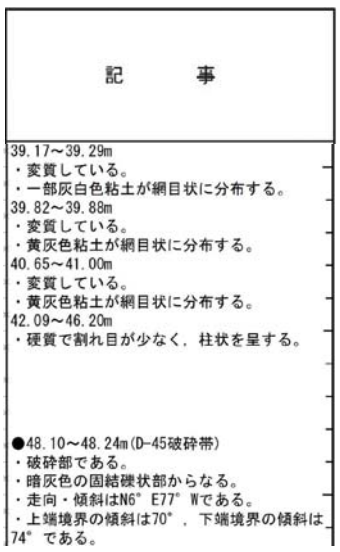
設置許可申請書案



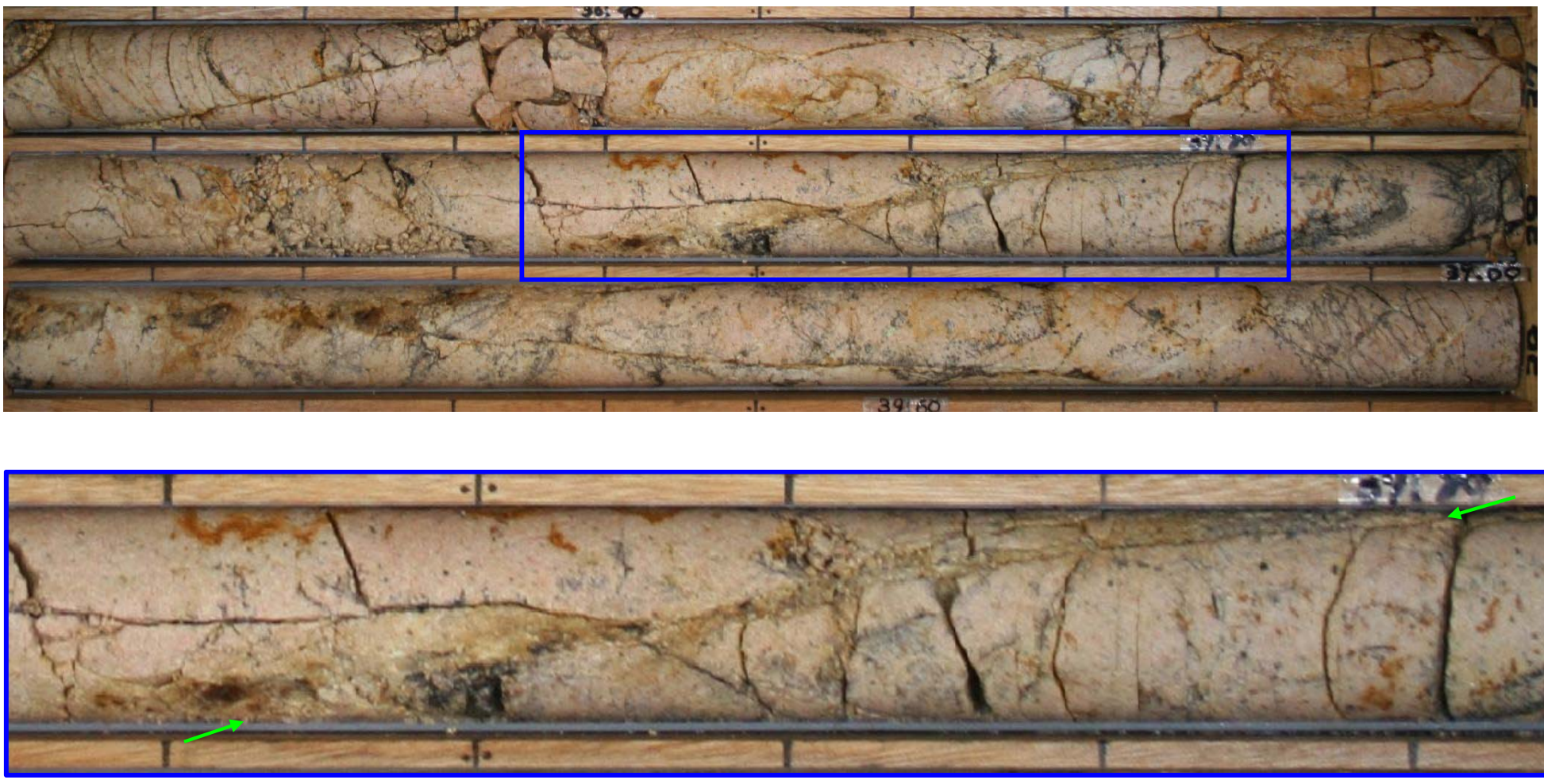
設置許可申請書
（平成27年11月）



審査資料
（平成29年12月22日）



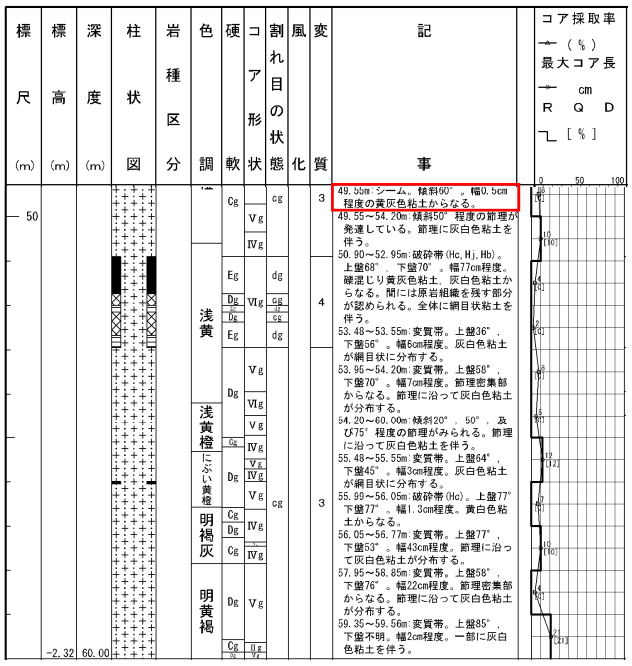
委託報告書 （平成20年）	設置許可申請書案	設置許可申請書 （平成27年11月）	審査資料 （平成29年12月22日）
37.61m:シーム。傾斜74°。幅0.6cm程度の黄灰色シルトからなる。	記載なし	記載なし	記載なし



柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-10孔 深度49.55m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



設置許可申請書案

記事
●50.90～52.95m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・黄灰～灰白色の粘土～礫混じり粘土状～淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はNS71° Wである。 ・上盤境界の傾斜は68°，下盤境界の傾斜は70°である。 53.48～53.55m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は36°，下端境界の傾斜は56°である。 53.95～54.20m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は58°，下端境界の傾斜は70°である。 55.48～55.55m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は45°である。 ●55.99～56.05m ・破砕部である。 ・黄白色の粘土状を呈する。 ・黄白色粘土：累計厚13mm ・走向・傾斜はN34° E83° Wである。 ・上盤境界の傾斜は77°，下盤境界の傾斜は77°である。 56.05～56.77m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°，下端境界の傾斜は53°である。 57.95～58.85m ・変質している。 ・割れ目が密集しており，割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は58°，下端境界の傾斜は76°である。 59.35～59.56m ・変質している。 ・一部灰白色粘土を伴う。 ・上端境界の傾斜は85°，下端境界の傾斜は不明瞭である。

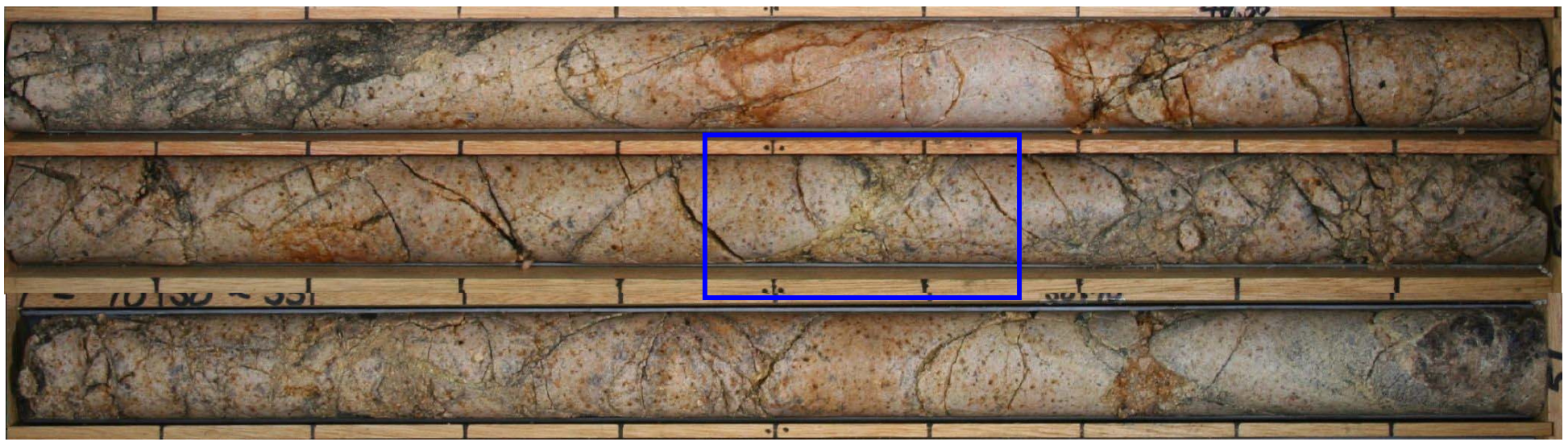
設置許可申請書
（平成27年11月）

記事
●50.90～52.95m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・黄灰～灰白色の粘土～礫混じり粘土状～淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はNS71° Wである。 ・上盤境界の傾斜は68°，下盤境界の傾斜は70°である。 53.48～53.55m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は36°，下端境界の傾斜は56°である。 53.95～54.20m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は58°，下端境界の傾斜は70°である。 55.48～55.55m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は45°である。 ●55.99～56.05m ・破砕部である。 ・黄白色の粘土状を呈する。 ・黄白色粘土：累計厚13mm ・走向・傾斜はN34° E83° Wである。 ・上盤境界の傾斜は77°，下盤境界の傾斜は77°である。 56.05～56.77m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°，下端境界の傾斜は53°である。 57.95～58.85m ・変質している。 ・割れ目が密集しており，割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は58°，下端境界の傾斜は76°である。 59.35～59.56m ・変質している。 ・一部灰白色粘土を伴う。 ・上端境界の傾斜は85°，下端境界の傾斜は不明瞭である。

審査資料
（平成29年12月22日）

記事
●50.90～52.95m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・主に淡黄色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はNS71° Wである。 ・上端境界の傾斜は69°，下端境界の傾斜は70°である。 53.48～53.55m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 53.95～54.20m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 55.48～55.55m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ●55.99～56.05m(D-46破砕帯) ・破砕部である。 ・黄白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.3cmである。 ・走向・傾斜はN34° E83° Wである。 ・上端境界の傾斜は77°，下端境界の傾斜は77°である。 56.05～56.77m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 57.95～58.85m ・変質している。 ・割れ目が密集しており，割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 59.35～59.56m ・変質している。 ・一部灰白色粘土を伴う。

委託報告書 （平成20年）	設置許可申請書案	設置許可申請書 （平成27年11月）	審査資料 （平成29年12月22日）
49.55m:シーム。傾斜60°。幅0.5cm程度の黄灰色粘土からなる。	記載なし	記載なし	記載なし



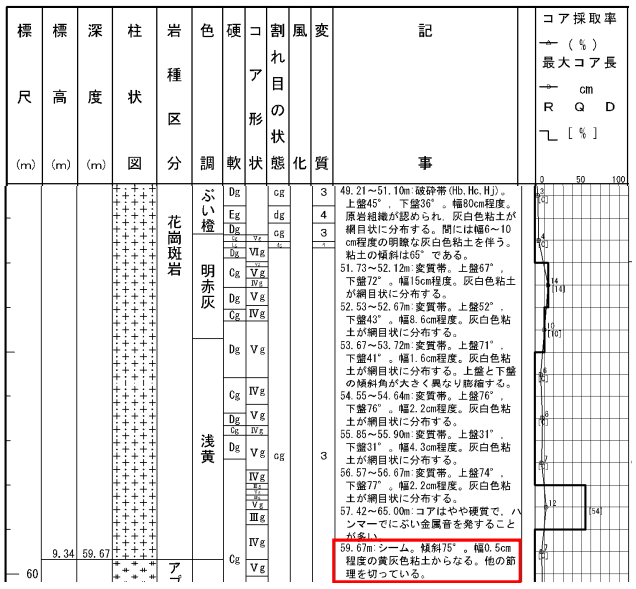
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-②-1孔 深度59.67m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



設置許可申請書案

記　事
●49.21～51.10m（D-1破砕帯） ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚100mm ・走向・傾斜は未測定。 ・上盤境界の傾斜は45°，下盤境界の傾斜は36°，主せん断面の傾斜は65°である。 51.10～57.42m ・軟質である。 51.73～52.12m 52.53～52.67m 53.67～53.72m 54.55～54.64m 55.85～55.90m 56.57～56.67m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は31°～76°，下端境界の傾斜は31°～77°である。 57.42～65.00m ・中硬質である。

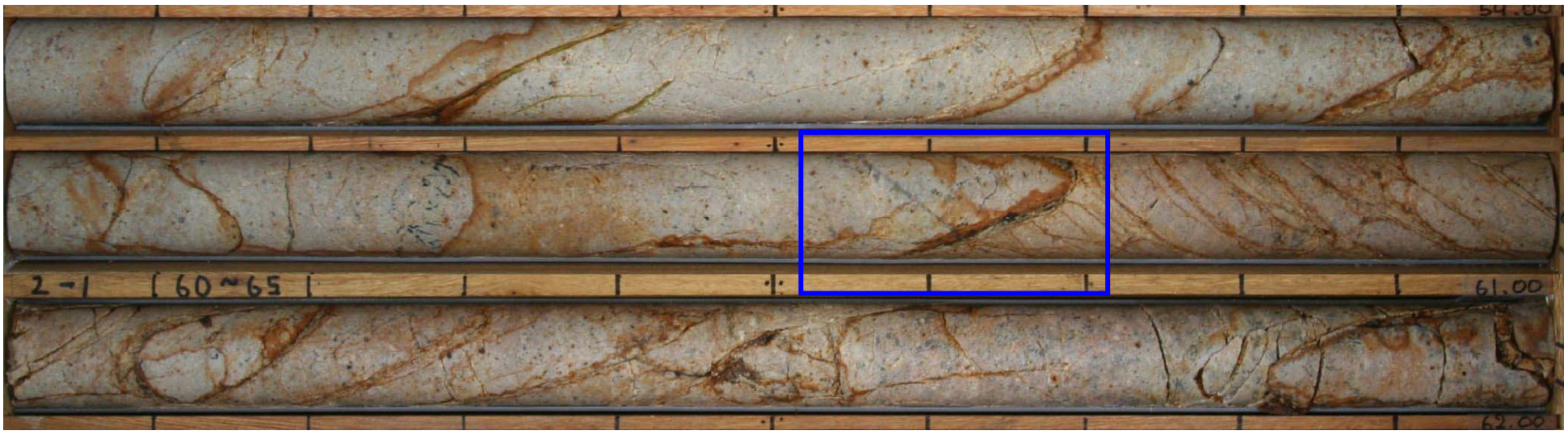
設置許可申請書
（平成27年11月）

記　事
●49.21～51.10m（D-1破砕帯） ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚100mm ・走向・傾斜は未測定。 ・上盤境界の傾斜は45°，下盤境界の傾斜は36°，主せん断面の傾斜は65°である。 51.10～57.42m ・軟質である。 51.73～52.12m 52.53～52.67m 53.67～53.72m 54.55～54.64m 55.85～55.90m 56.57～56.67m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は31°～76°，下端境界の傾斜は31°～77°である。 57.42～65.00m ・中硬質である。

審査資料
（平成29年12月22日）

記　事
●49.21～51.10m（D-1破砕帯） ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に淡桃灰～褐色の固結礫状部，灰白色の固結砂状部及び固結粘土状部からなる。 ・橙色の未固結粘土状部：累計幅0.8cm ・上端境界の傾斜は45°，下端境界の傾斜は36°，主せん断面の傾斜は65°である。 51.10～57.42m ・軟質である。 51.73～52.12m，52.53～52.67m， 53.67～53.72m，54.55～54.64m， 55.85～55.90m，56.57～56.67m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 57.42～65.00m ・中硬質である。

委託報告書 （平成20年）	設置許可申請書案	設置許可申請書 （平成27年11月）	審査資料 （平成29年12月22日）
59.67m:シーム。傾斜75°。幅0.5cm程度の黄灰色粘土からなる。他の節理を切っている。	記載なし	記載なし	記載なし



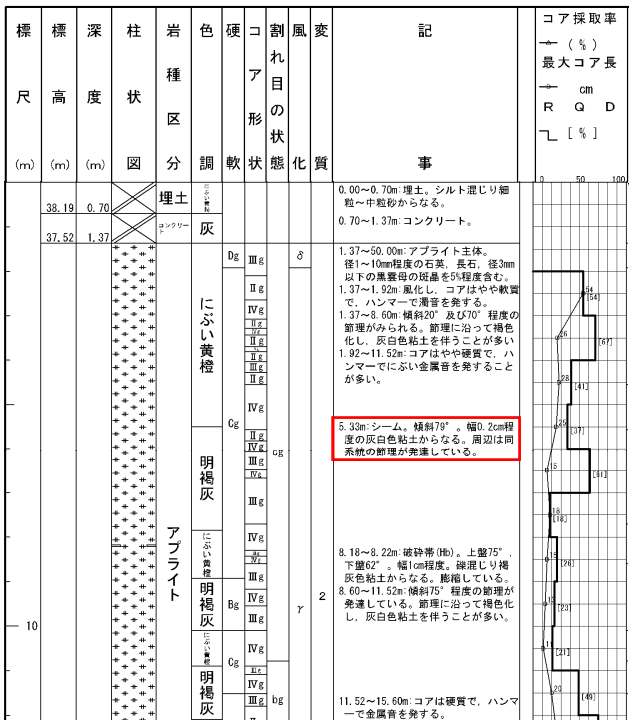
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-③-1孔 深度5.33m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



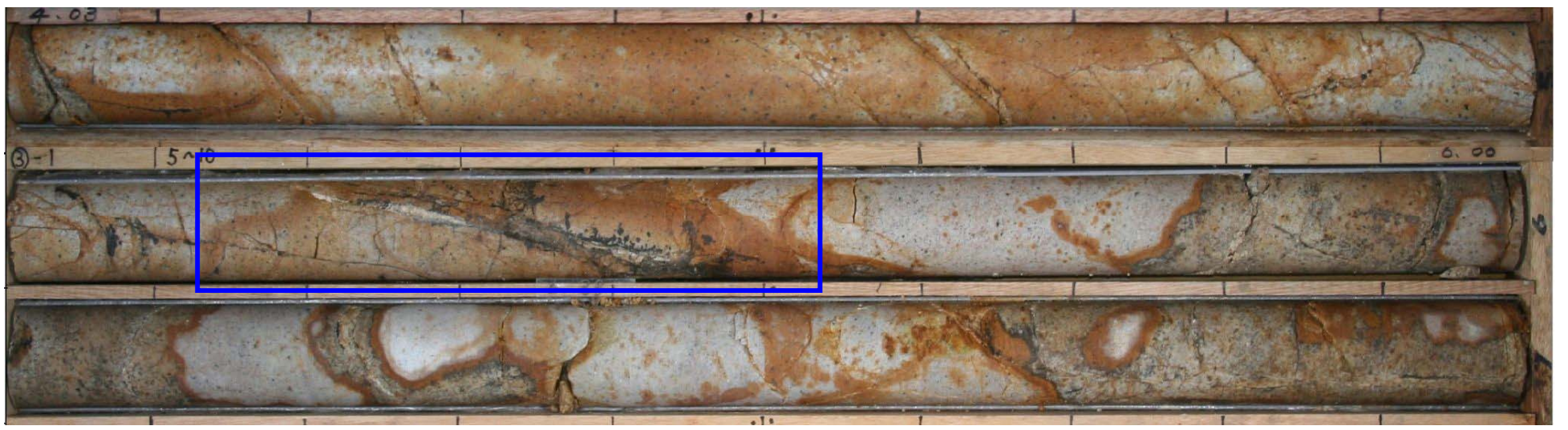
審査資料案

記事
0.00～0.70m ・埋土である。 ・シルト混じり細～中粒砂である。 0.70～1.37m ・コンクリートである。 1.37～50.00m ・アプライト主体である。 1.37～1.92m ・風化部である。 5.33m ・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。 ●8.18～8.22m(f-③-1-1破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN79° W73° Sである。 ・上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は62°である。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
0.00～0.70m ・埋土である。 ・シルト混じり細～中粒砂である。 0.70～1.37m ・コンクリートである。 1.37～50.00m ・アプライト主体である。 1.37～1.92m ・風化部である。 5.33m ・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。 ●8.18～8.22m(f-③-1-1破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN79° W73° Sである。 ・上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は62°である。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
5.33m:シーム。傾斜79°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	5.33m ・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。	5.33m ・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。



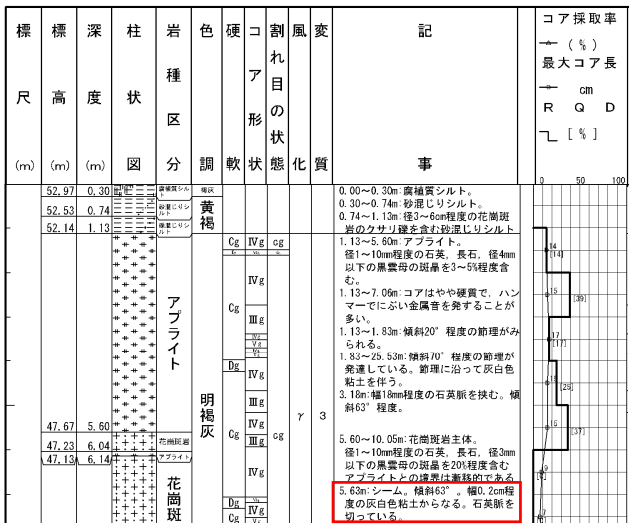
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-1孔 5.63m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



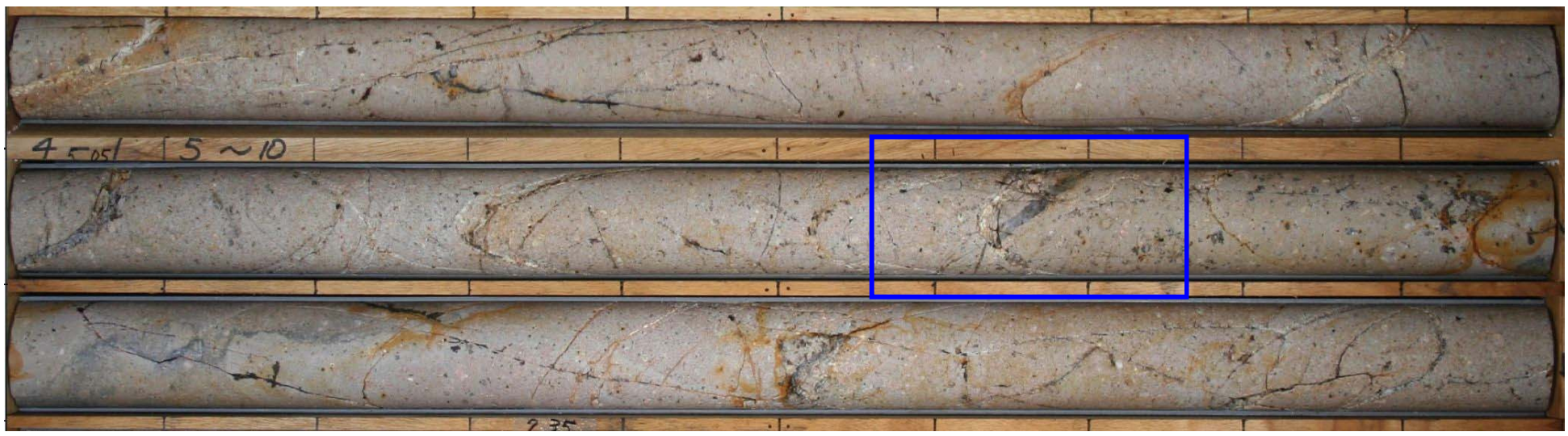
審査資料案

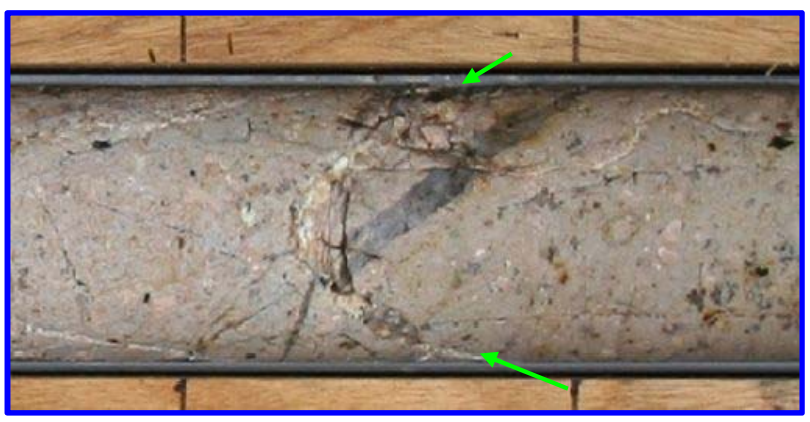
記事
0.00～0.30m ・有機質シルトである。 0.30～0.74m ・砂混じりシルトである。 0.74～1.13m ・礫混じりシルトである。 ・径3～6cm程度の花崗斑岩のクサリ礫を含む。 1.13～5.60m ・アプライトである。 5.60～10.05m ・花崗斑岩主体である。 ・アプライトとの境界は漸移的である。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
0.00～0.30m ・有機質シルトである。 0.30～0.74m ・砂混じりシルトである。 0.74～1.13m ・礫混じりシルトである。 ・径3～6cm程度の花崗斑岩のクサリ礫を含む。 1.13～5.60m ・アプライトである。 5.60～10.05m ・花崗斑岩主体である。 ・アプライトとの境界は漸移的である。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
5.63m:シーム。傾斜63°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。石英脈を切っている。	記載なし	記載なし





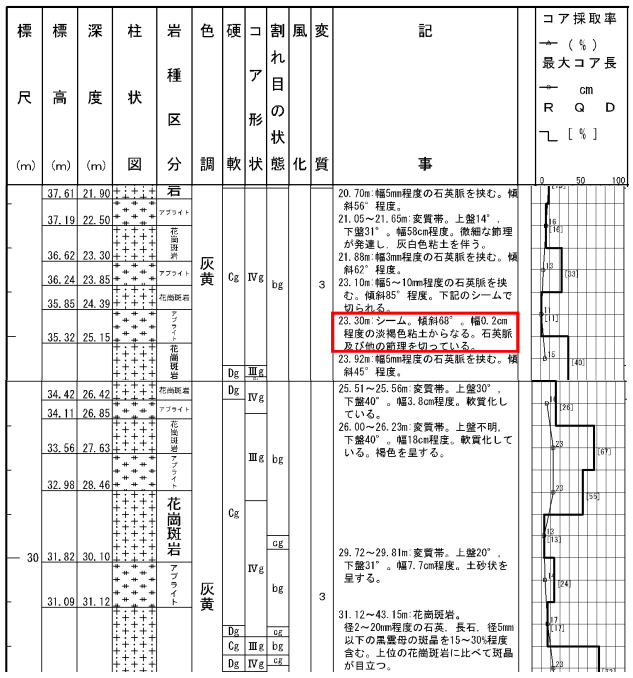
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 23.30m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記　事

20.15～20.42m，21.90～22.50m，
23.30～23.85m，24.39～25.15m，
26.42～26.85m，27.63～28.40m，
30.10～31.12m
・アプライトである。
20.70m
・幅5mmの石英脈を挟む。
21.05～21.65m
・変質している。
・微細な割れ目が発達し，灰白色粘土を伴う。
21.88m
・幅3mmの石英脈を挟む。
23.10m
・幅5～10mmの石英脈を挟む。
23.92m
・幅5mm程度の石英脈を挟む。
25.51～25.56m
・変質している。
・軟質化している。
26.00～26.23m
・変質している。
・褐色を呈し，軟質化している。
29.72～29.81m
・変質している。
・土砂状を呈する。

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事

20.15～20.42m，21.90～22.50m，
23.30～23.85m，24.39～25.15m，
26.42～26.85m，27.63～28.40m，
30.10～31.12m
・アプライトである。
20.70m
・幅5mmの石英脈を挟む。
21.05～21.65m
・変質している。
・微細な割れ目が発達し，灰白色粘土を伴う。
21.88m
・幅3mmの石英脈を挟む。
23.10m
・幅5～10mmの石英脈を挟む。
23.92m
・幅5mm程度の石英脈を挟む。
25.51～25.56m
・変質している。
・軟質化している。
26.00～26.23m
・変質している。
・褐色を呈し，軟質化している。
29.72～29.81m
・変質している。
・土砂状を呈する。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
23.30m:シーム。傾斜68°。幅0.2cm程度の淡褐色粘土からなる。石英脈及び他の節理を切っている。	記載なし	記載なし

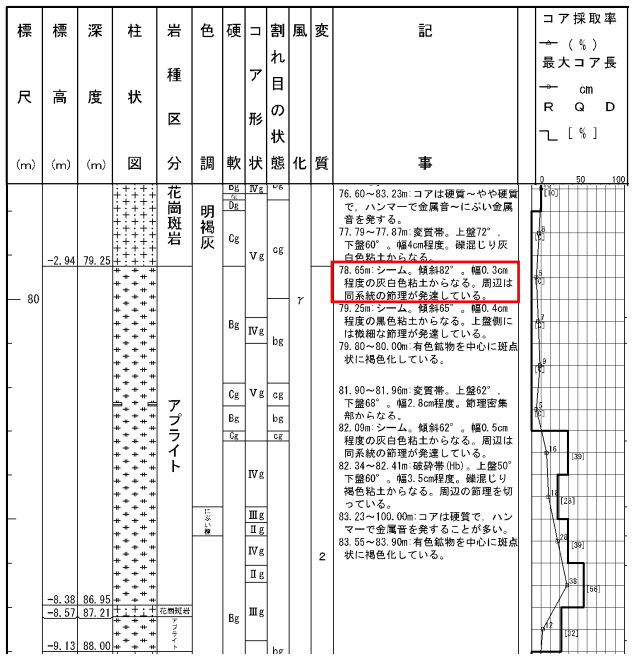
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 78.65m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記　事
77.79～77.87m ・変質している。 ・礫混じり粘土状を呈する。 81.90～81.96m ・変質している。 ・割れ目が密集する。 ●82.34～82.41m(f-④-2-3破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4°W67°Wである。 ・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。 83.55～83.90m ・斑点状に褐色化している。

審査資料
（平成30年11月30日）

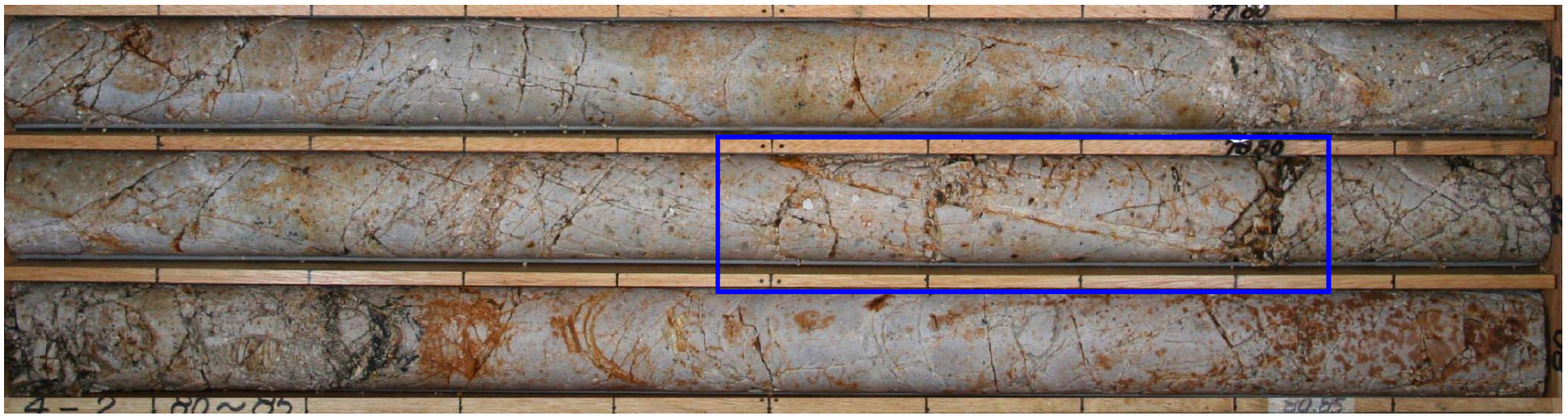
記　事
77.79～77.87m ・変質している。 ・礫混じり粘土状を呈する。 81.90～81.96m ・変質している。 ・割れ目が密集する。 ●82.34～82.41m(f-④-2-3破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4°W67°Wである。 ・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。 83.55～83.90m ・斑点状に褐色化している。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
78.65m:シーム。傾斜82°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし

77 78 79

78 79

79 80



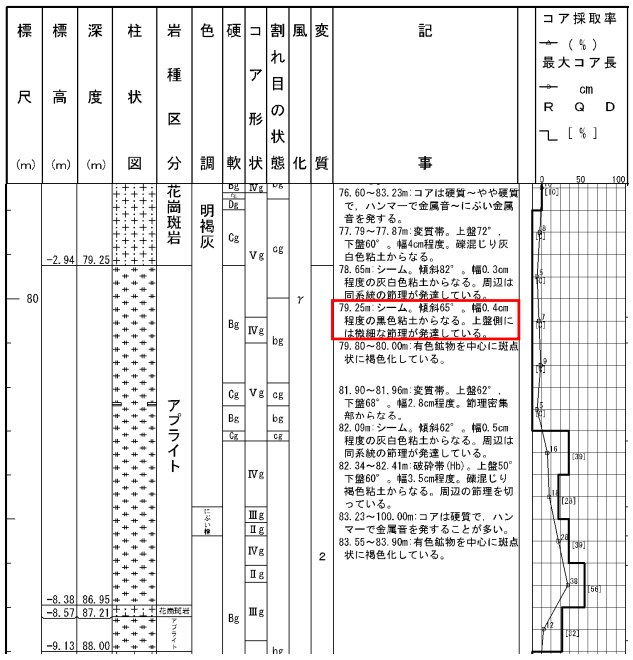
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 79.25m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記事
77.79～77.87m ・変質している。 ・礫混じり粘土状を呈する。 81.90～81.96m ・変質している。 ・割れ目が密集する。 ●82.34～82.41m(f-④-2-3破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4°W67°Wである。 ・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。 83.55～83.90m ・斑点状に褐色化している。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
77.79～77.87m ・変質している。 ・礫混じり粘土状を呈する。 81.90～81.96m ・変質している。 ・割れ目が密集する。 ●82.34～82.41m(f-④-2-3破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4°W67°Wである。 ・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。 83.55～83.90m ・斑点状に褐色化している。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
79.25m:シーム。傾斜65°。幅0.4cm程度の黒色粘土からなる。 上盤側には微細な節理が発達している。	記載なし	記載なし

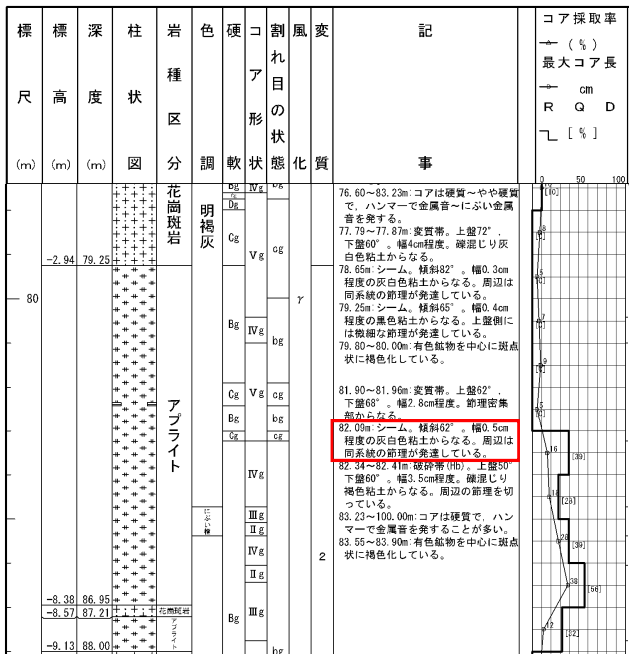
凡 例
:シーム

0 5 cm

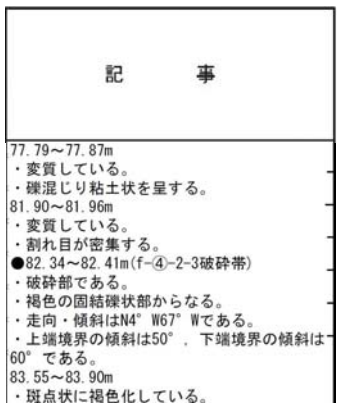
柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 82.09m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

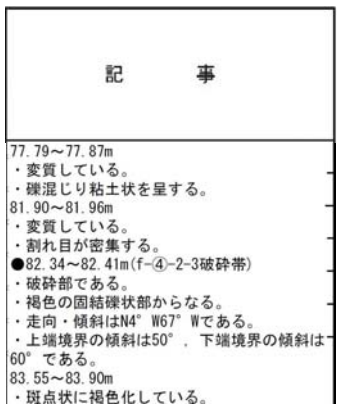
委託報告書
（平成20年）



審査資料案



審査資料
（平成30年11月30日）



委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
82.09m:シーム。傾斜62°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし

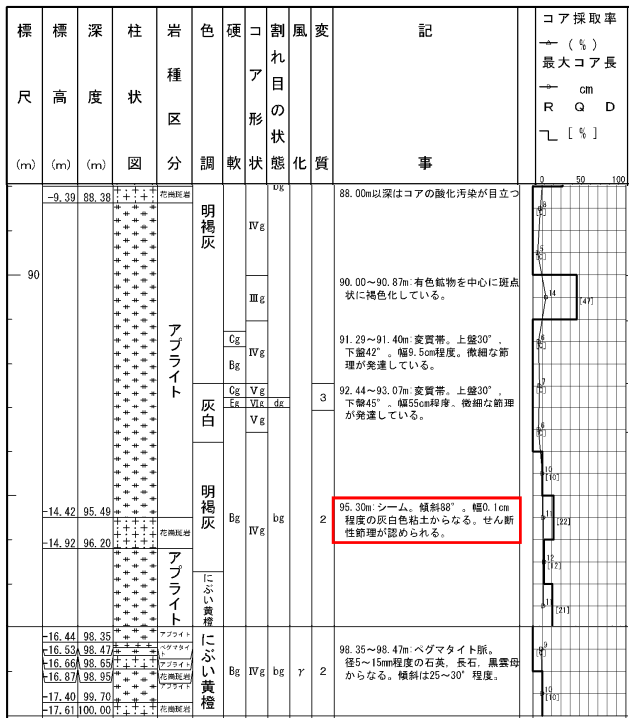
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 95.30m)

・粘土状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記事
86.95～87.21m，88.00～88.38m ・花崗斑岩である。
90.00～90.87m ・斑点状に褐色化している。
91.29～91.40m ・変質している。 ・微細な割れ目が発達している。
92.44～93.07m ・変質している。 ・微細な割れ目が発達している。
95.49～96.20m，98.65～98.95m， 99.70～100.00m ・花崗斑岩である。
98.35～98.47m ・ペグマタイトである。

審査資料
（平成30年11月30日）

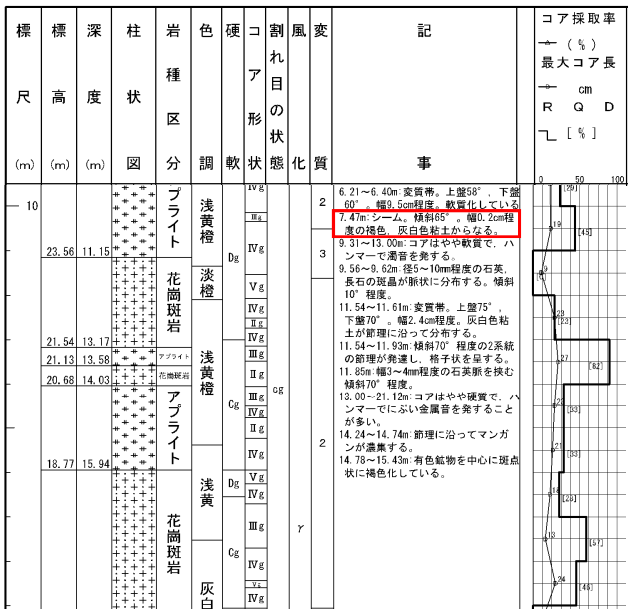
記事
86.95～87.21m，88.00～88.38m ・花崗斑岩である。
90.00～90.87m ・斑点状に褐色化している。
91.29～91.40m ・変質している。 ・微細な割れ目が発達している。
92.44～93.07m ・変質している。 ・微細な割れ目が発達している。
95.49～96.20m，98.65～98.95m， 99.70～100.00m ・花崗斑岩である。
98.35～98.47m ・ペグマタイトである。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
95.30m:シーム。傾斜88°。幅0.1cm程度の灰白色粘土からなる。せん断性節理が認められる。	記載なし	記載なし

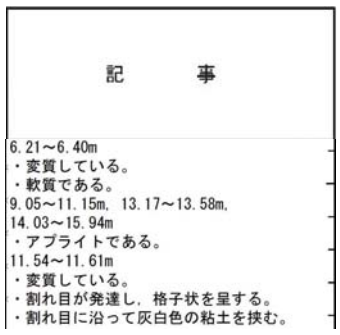
柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 7.47m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

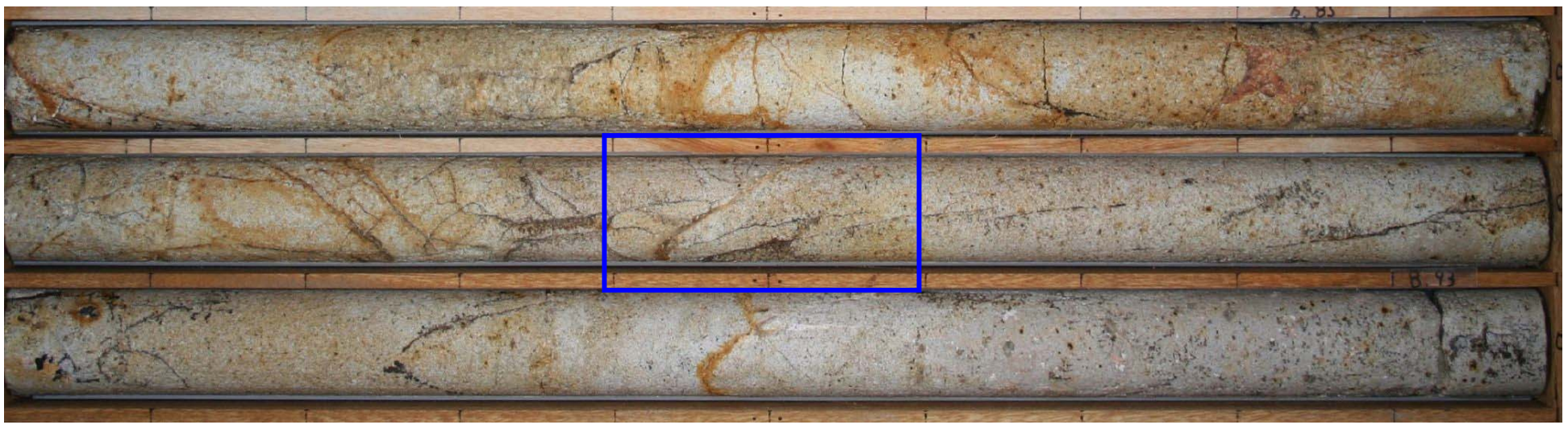


記　事
6.21～6.40m ・変質している。 ・軟質である。 9.05～11.15m，13.17～13.58m， 14.03～15.94m ・アプライトである。 11.54～11.61m ・変質している。 ・割れ目が発達し，格子状を呈する。 ・割れ目に沿って灰白色の粘土を挟む。

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事
6.21～6.40m ・変質している。 ・軟質である。 9.05～11.15m，13.17～13.58m， 14.03～15.94m ・アプライトである。 11.54～11.61m ・変質している。 ・割れ目が発達し，格子状を呈する。 ・割れ目に沿って灰白色の粘土を挟む。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
7.47m:シーム。傾斜65°。幅0.2cm程度の褐色，灰白色粘土からなる。	記載なし	記載なし



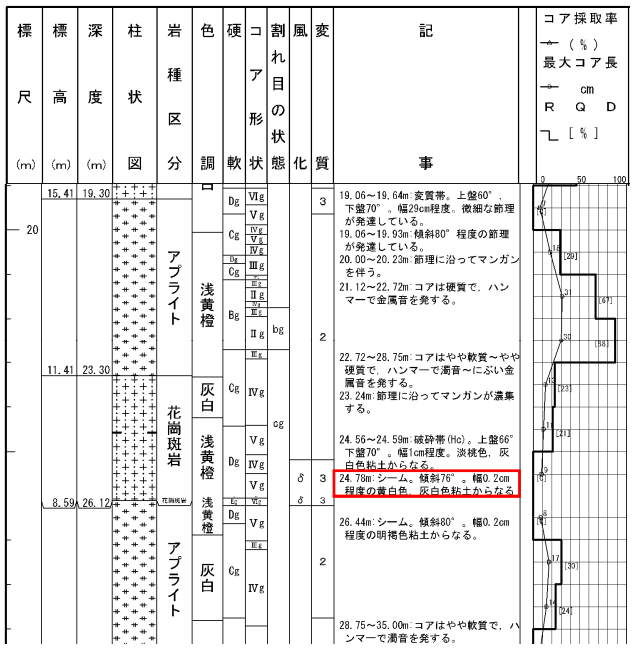
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 24.78m)

・粘土状を呈するが，その分布はゆるく湾曲し直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

審査資料
（平成30年11月30日）

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
24.78m:シーム。傾斜76°。幅0.2cm程度の黄白色，灰白色粘土からなる。	記載なし	記載なし

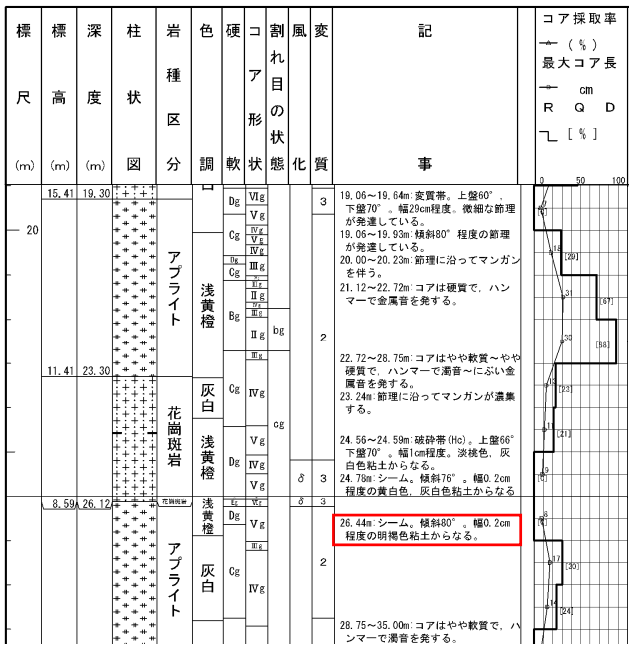
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 26.44m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



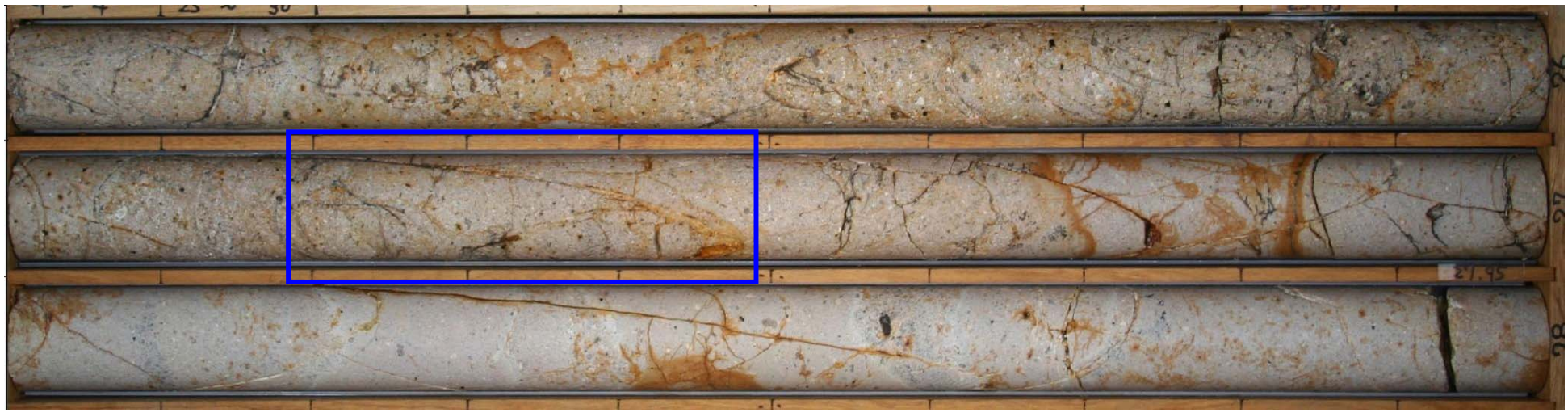
審査資料案

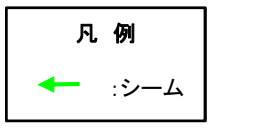
記事
19.06～19.93m ・変質している。 ・高角度の割れ目が発達する。 19.30～23.30m ・アプライトである。 21.12～22.72m ・硬質である。 22.72～28.75m ・やや軟質～やや硬質である。 23.30～26.12m ・花崗斑岩である。 ●24.56～24.59m ・破砕部である。 ・淡桃色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN4°E71°Wである。 ・上端境界の傾斜は66°，下端境界の傾斜は70°である。 26.12～29.65m ・アプライトである。 28.75～35.00m ・高角度の割れ目が発達する。 ・軟質である。 29.65～30.41m，31.60～35.00m ・花崗斑岩である。 30.41～31.60m ・アプライトである。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
19.06～19.93m ・変質している。 ・高角度の割れ目が発達する。 19.30～23.30m ・アプライトである。 21.12～22.72m ・硬質である。 22.72～28.75m ・やや軟質～やや硬質である。 23.30～26.12m ・花崗斑岩である。 ●24.56～24.59m ・破砕部である。 ・淡桃色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN4°E71°Wである。 ・上端境界の傾斜は66°，下端境界の傾斜は70°である。 26.12～29.65m ・アプライトである。 28.75～35.00m ・高角度の割れ目が発達する。 ・軟質である。 29.65～30.41m，31.60～35.00m ・花崗斑岩である。 30.41～31.60m ・アプライトである。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
26.44m:シーム。傾斜80°。幅0.2cm程度の明褐色粘土からなる。	記載なし	記載なし

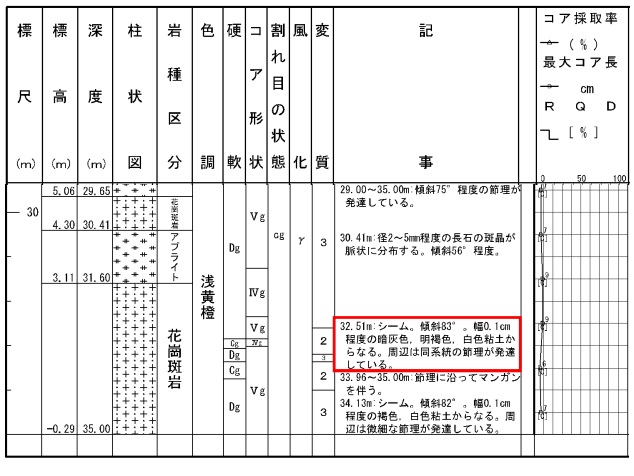




柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 32.51m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

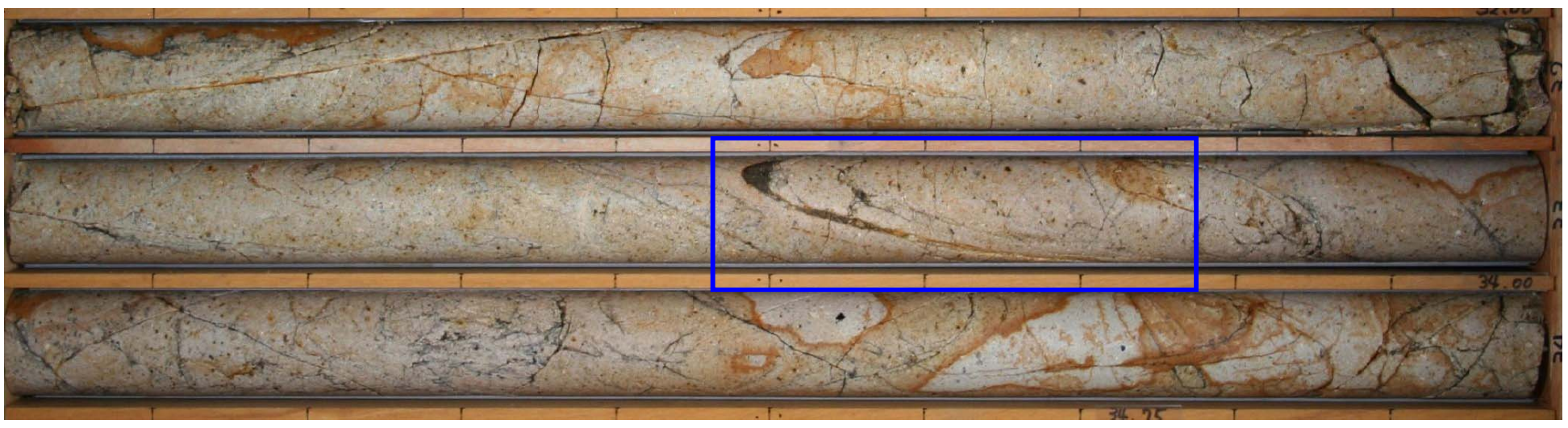
委託報告書
（平成20年）

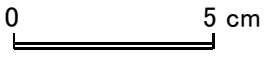


審査資料案

審査資料
（平成30年11月30日）

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
32.51m:シーム。傾斜83° 。幅0.1cm程度の暗灰色，明褐色，白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし

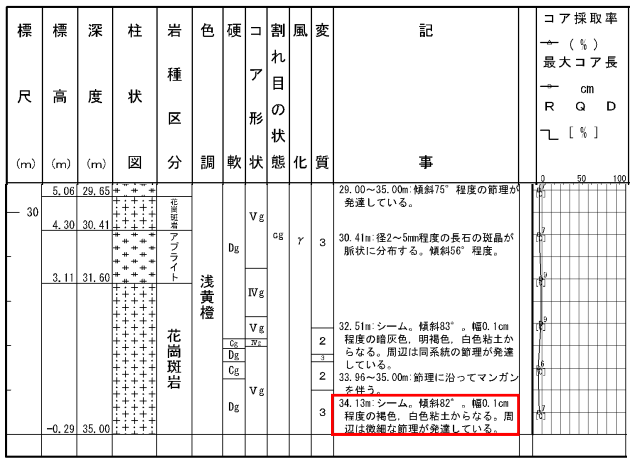




柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 34.13m)

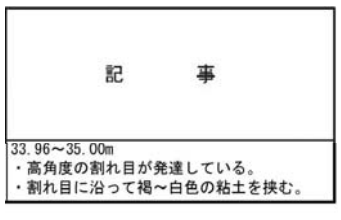
・粘土状を呈するが，その分布は湾曲し直線性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

審査資料
（平成30年11月30日）

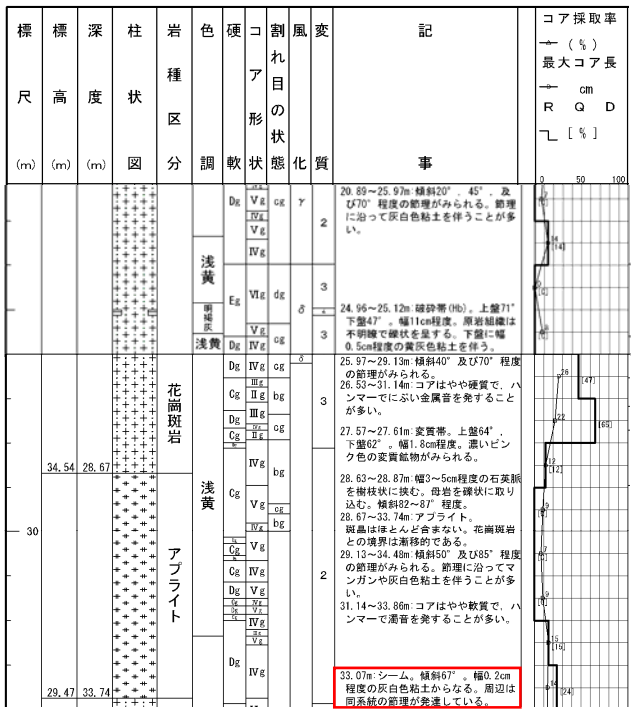


委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
33.96～35.00m：節理に沿ってマンガンを伴う。 34.13m:シーム。傾斜82°。幅0.1cm程度の褐色，白色粘土からなる。周辺は微細な節理が発達している。	33.96～35.00m ・高角度の割れ目が発達している。 ・割れ目に沿って褐～白色の粘土を挟む。	33.96～35.00m ・高角度の割れ目が発達している。 ・割れ目に沿って褐～白色の粘土を挟む。

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-5孔 33.07m)

・粘土状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



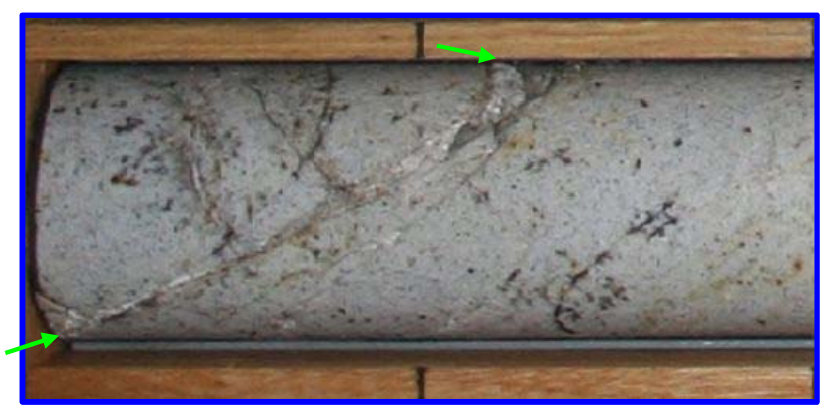
審査資料案

記事
●24.96～25.12m(D-21破砕帯) ・破砕部である。 ・明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN11°E62°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は71°，下端境界の傾斜は47°である。 27.57～27.61m ・変質している。 ・軟質化している。 28.63～28.87m ・幅3～5cmの石英脈を挟む。 28.67～33.74m ・アプライトである。 ・花崗斑岩との境界は漸移的である。

審査資料
（平成30年11月30日）

記事
●24.96～25.12m(D-21破砕帯) ・破砕部である。 ・明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN11°E62°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は71°，下端境界の傾斜は47°である。 27.57～27.61m ・変質している。 ・軟質化している。 28.63～28.87m ・幅3～5cmの石英脈を挟む。 28.67～33.74m ・アプライトである。 ・花崗斑岩との境界は漸移的である。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
33.07m:シーム。傾斜67°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし



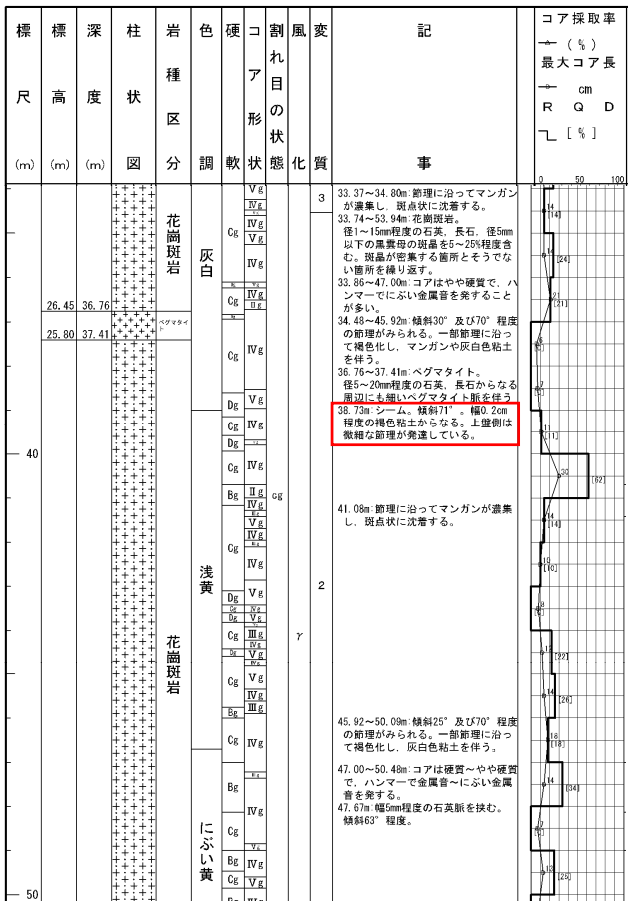
凡 例
:シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-5孔 38.73m)

・粘土状部に沿って，原岩組織が不明瞭となる部分が分布していることから，破砕部として認定した。
　直線的・連続的な粘土状部の分布が認められないことから，カタクレーサイトであると判断した（平成20年破砕部再観察結果）。

委託報告書
（平成20年）



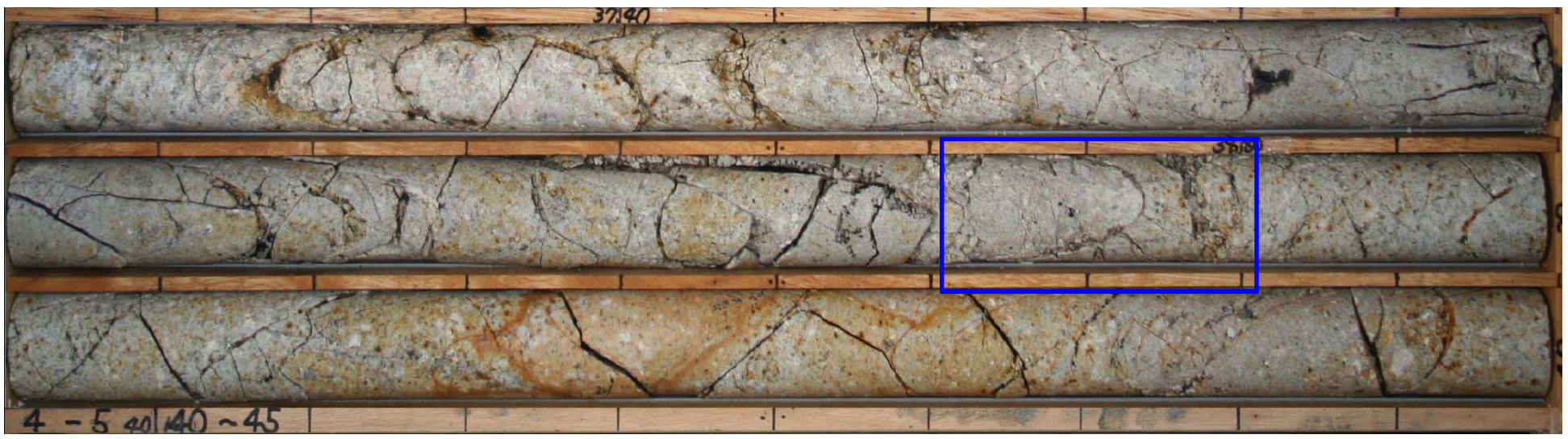
審査資料案

記　事
36.76～37.41m ・ペグマタイトである。 ●38.73～38.74m(f-④-9-1破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN9° E70° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 47.67m ・幅5mmの石英脈を挟む。

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事
36.76～37.41m ・ペグマタイトである。 ●38.73～38.74m(f-④-9-1破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN9° E70° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 47.67m ・幅5mmの石英脈を挟む。

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
38.73m:シーム。傾斜71°。幅0.2cm程度の褐色粘土からなる。 上盤側は微細な節理が発達している。	●38.73～38.74m(f-④-9-1破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN9° E70° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。	●38.73～38.74m(f-④-9-1破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN9° E70° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。



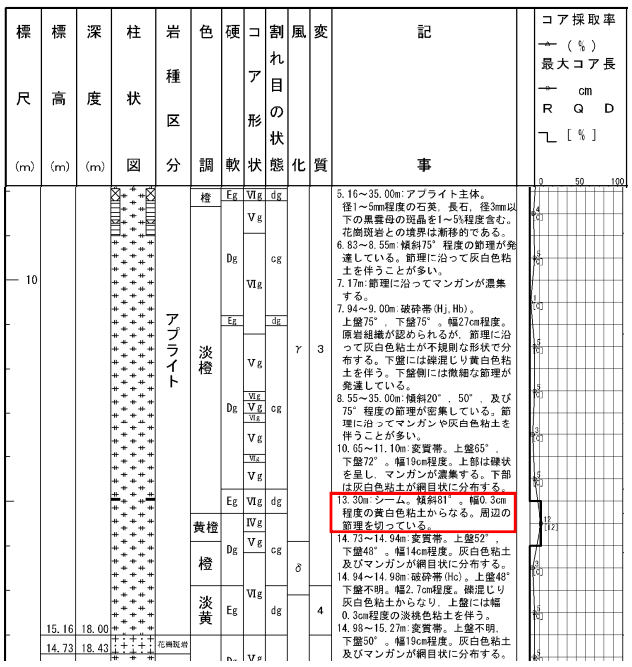
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-6孔 13.30m)

・粘土状を呈するが，その分布は湾曲・殲滅し直線性・連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記　事

5.16～35.00m
・アプライトが主体である。
・花崗斑岩との境界は漸移的である。
●7.94～9.00m(f-④-6-2破砕帯)
・破砕部である。
・赤褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN71° W79° Sである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は75°である。
10.65～11.10m
・変質している。
・礫状～灰白色粘土が網目状に分布する。
14.73～14.94m
・変質している。
・マンガンと灰白色粘土が網目状に分布する。
●14.94～14.98m(f-④-6-3破砕帯)
・破砕部である。
・左ずれ正断層センスである。
・主に淡橙色の固結粘土状部からなる。
・淡桃色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm
・走向・傾斜はN55° E69° Sである。
・上端境界の傾斜は48°である。
14.98～15.27m
・変質している。
・灰白色粘土とマンガンが網目状に分布する

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事

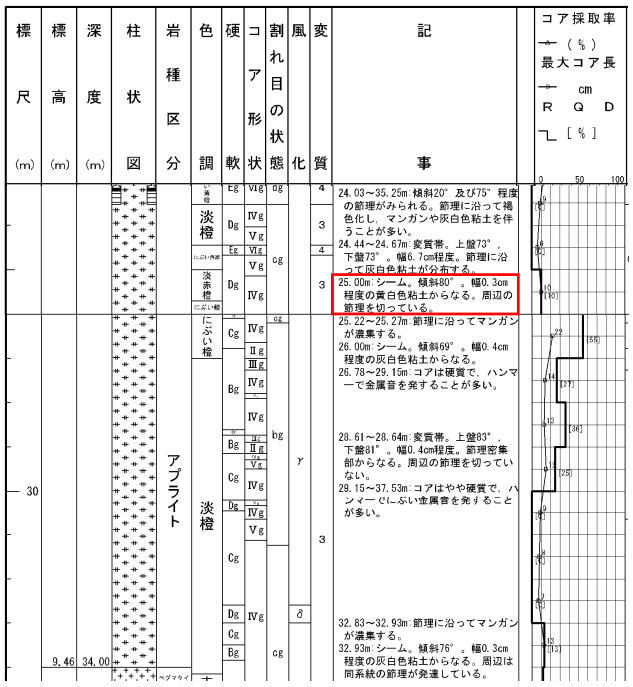
5.16～35.00m
・アプライトが主体である。
・花崗斑岩との境界は漸移的である。
●7.94～9.00m(f-④-6-2破砕帯)
・破砕部である。
・赤褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN71° W79° Sである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は75°である。
10.65～11.10m
・変質している。
・礫状～灰白色粘土が網目状に分布する。
14.73～14.94m
・変質している。
・マンガンと灰白色粘土が網目状に分布する。
●14.94～14.98m(f-④-6-3破砕帯)
・破砕部である。
・左ずれ正断層センスである。
・主に淡橙色の固結粘土状部からなる。
・淡桃色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm
・走向・傾斜はN55° E69° Sである。
・上端境界の傾斜は48°である。
14.98～15.27m
・変質している。
・灰白色粘土とマンガンが網目状に分布する

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
13.30m:シーム。傾斜81°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。	記載なし	記載なし

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-7孔 25.00m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記　事

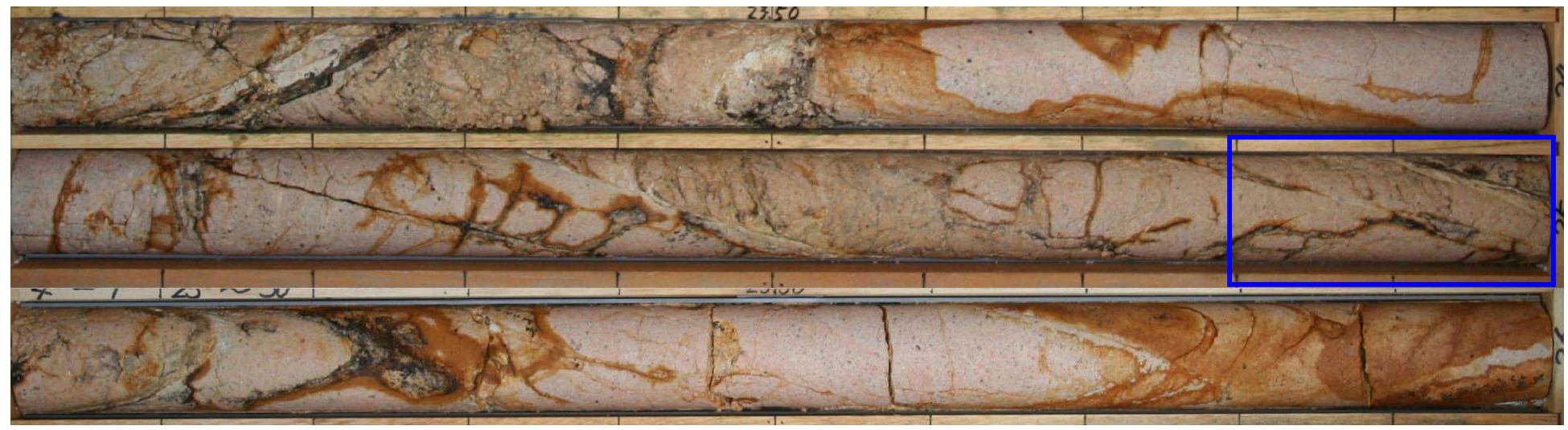
該当記事なし

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事

該当記事なし

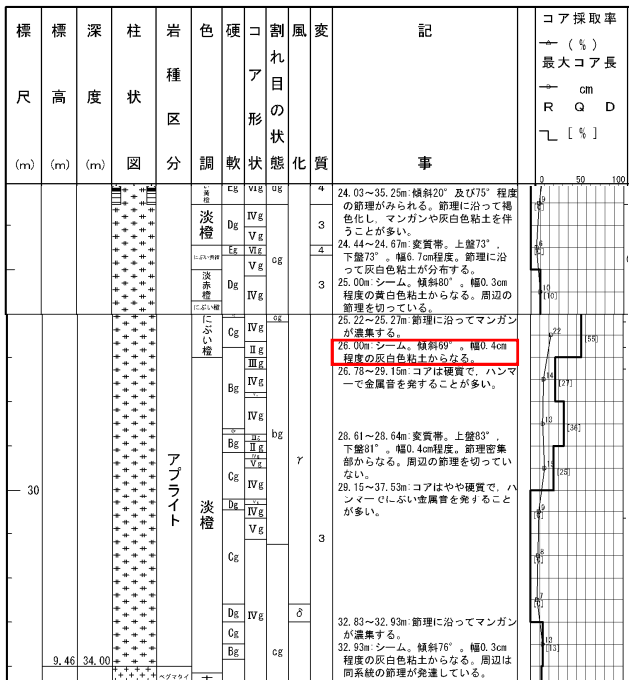
委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
25.00m:シーム。傾斜80°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。	記載なし	記載なし



柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-7孔 26.00m)

・粘土状部にせん断構造・変形構造が認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記　事
該当記事なし

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事
該当記事なし

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
26.00m:シーム。傾斜69°。幅0.4cm程度の灰白色粘土からなる。	記載なし	記載なし

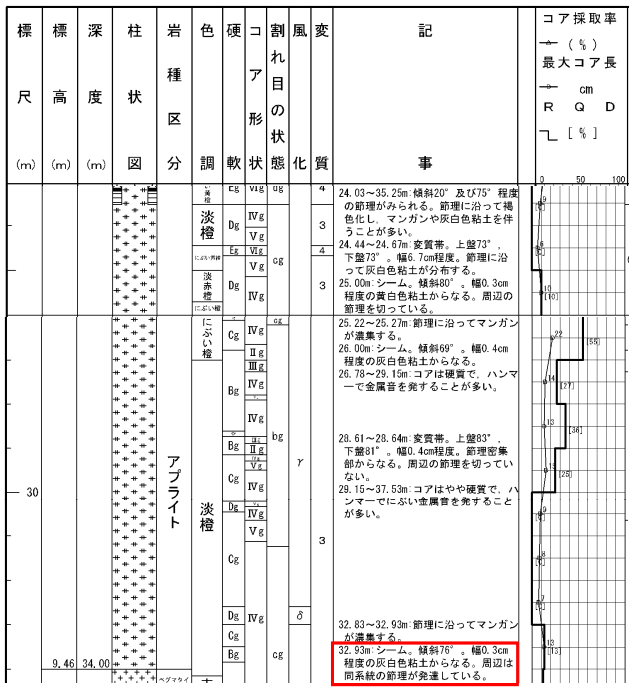
凡 例
:シーム

0　5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-7孔 32.93m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



審査資料案

記　事

該当記事なし

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事

該当記事なし

委託報告書 （平成20年）	審査資料案	審査資料 （平成30年11月30日）
32.93m:シーム。傾斜76°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし

凡 例
:シーム

0　5 cm

余白